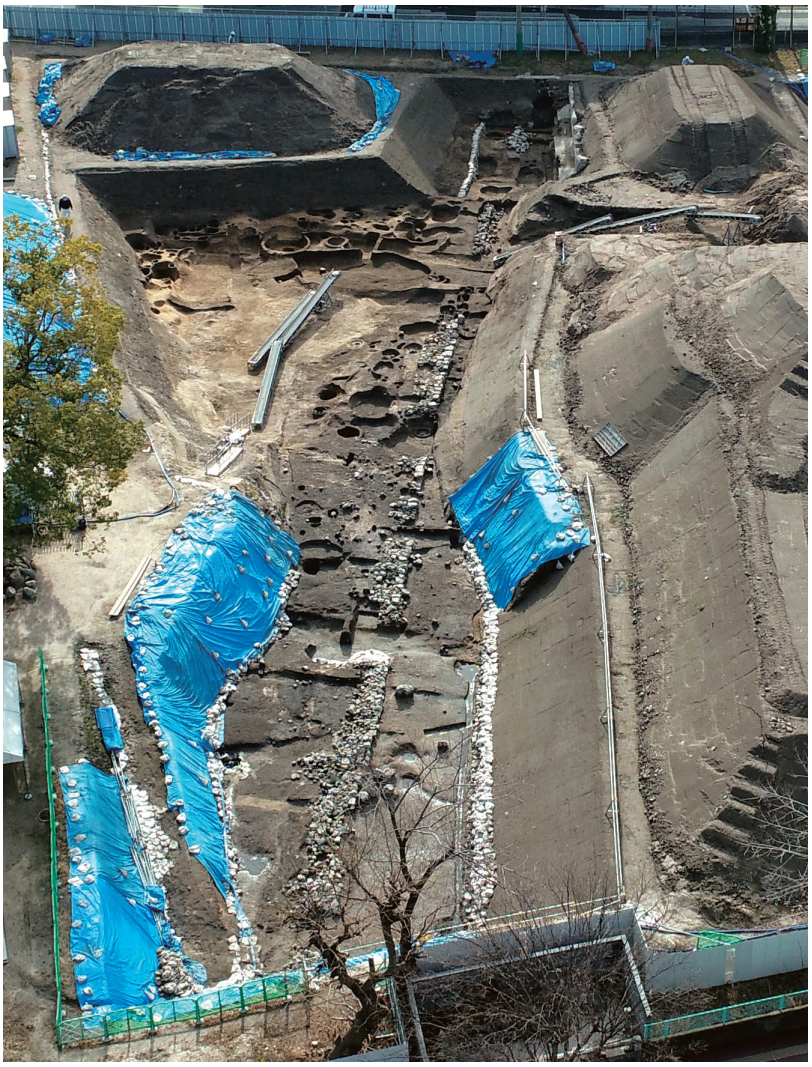
# 福岡市埋蔵文化財年報
# VOL.35

―令和２（2020）年度版―



2021

福岡市教育委員会

# 序

福岡市では、文化財保護法の趣旨に基づき、埋蔵文化財の適切な保存と活用を図ることを目的として、公共及び民間の各種開発事業の事前審査、記録保存のための緊急調査、また重要遺跡確認調査等を実施しております。

本書は、令和２年度における埋蔵文化財保護行政の概要を報告するものです。開発事業に起因する事前審査件数は大幅な増加傾向をみせており、これに伴う緊急調査件数は平成 25 年度より微増し続けています。今後とも埋蔵文化財保護業務については適正で迅速な対応を進めたいと思います。

本書が文化財保護に対するご理解の一助となり、また学術資料として活用いただければ幸いです。

令和４年３月 24 日

福岡市教育委員会
教育長　星子　明夫

## 例　言

・本書は、埋蔵文化財課、史跡整備活用課が令和２年度に実施した各種開発事業に伴う事前審査と発掘調査の概要及び本報告について収録したものである。
・本書に記載ある令和２年度調査のうち、調査番号 2005、2009、2010、2014、2021、2022、2027、2041、2047 はこの年報をもって本報告とする。また、令和元年度調査のうち、1963、1966、1969 についても年報において本報告を行う。
・Ⅴの各調査の概要及び調査報告は各調査担当者が分担執筆した。
・上記以外の執筆は田上勇一郎が、編集は田上と山本晃平が担当した。

表紙：博多遺跡群 221 次調査発見の石積み遺構

## 目　次

Ⅰ　令和２年度文化財活用部の組織と分掌事務 …… 2
Ⅱ　開発事前審査 …… 3
Ⅲ　発掘調査 …… 5
Ⅳ　公開活動 …… 5
Ⅴ　令和２年度発掘調査概要および報告 …… 6
報告書抄録 …… 80

# Ⅰ　令和２年度文化財活用部の組織と分掌事務

文化財活用部の組織と分掌事務

文化財活用部　50

文化財活用課　10

| | |
|---|---|
| 管理調整係（事 3、文 2） | 部の総括、予算・決算、庶務・経理、文化財施設の管理 |
| 調査普及係（文 1、学 1） | 文化財保護審議委員会、文化財の調査、普及事業 |
| 歴史資源活用係（事 1、文 1） | 歴史文化基本構想の策定、文化財の活用推進 |

史跡整備活用課　8

| | |
|---|---|
| 福岡城跡整備係（事 1、文 3） | 福岡城跡の調査・整備・活用、課の庶務、福岡みんなの城基金に関すること |
| 鴻臚館跡整備係（文 1） | 鴻臚館跡の調査・整備・活用 |
| 史跡整備活用係（文 1、事 1） | 史跡の整備・活用 |

埋蔵文化財課　24

| | |
|---|---|
| 事前審査係（文 4） | 公共及び民間開発事業に係る埋蔵文化財の事前審査 |
| 主任文化財主事（文 1） | |
| 調査第１係（文 5） | 課の庶務・主に東部地区の埋蔵文化財の発掘調査及び保存 |
| 主任文化財主事（文 4） | |
| 調査第２係（文 6） | 国庫補助事業総括・主に西部地区に係る埋蔵文化財の発掘調査及び保存 |
| 主任文化財主事（文 3） | |

埋蔵文化財センター　7

| | |
|---|---|
| 運営係（事 1、文 3） | 施設の管理運営、埋蔵文化財の収蔵・保管・展示等、教育普及 |
| 保存分析係（文 2） | 埋蔵文化財の保存・分析 |

事：事務職　文：文化財専門職　学：文化学芸職

埋蔵文化財課の職員構成（文化財専門職）

| | |
|---|---|
| 埋蔵文化財課長 | 菅波正人 |
| 事前審査係長 | 本田浩二郎 |
| 係　員 | 松﨑友理（～令和２年９月） |
| | 神啓崇（令和２年 10 月～） |
| | 山本晃平　三浦悠葵 |
| 主任文化財主事 | 田上勇一郎 |

| | |
|---|---|
| 調査第１係長 | 吉武学 |
| 係　員 | 久住猛雄　木下博文　今井隆博 |
| | 神啓崇（～令和２年９月） |
| 主任文化財主事 | 佐藤一郎　池田祐司　屋山洋　常松幹雄 |
| 嘱託員 | 中園将祥 |

| | |
|---|---|
| 調査第２係長 | 藏冨士寛 |
| 係　員 | 清金良太　中尾祐太　三浦萌　岩隈拓人 |
| | 荒牧宏行 |
| 主任文化財主事 | 赤坂亨　阿部泰之　大庭康時 |
| 熊本市派遣 | 阿部泰之（下半期） |

# Ⅱ 開発事前審査

## 1. 概 要

本市では、土木工事等の各種開発事業に係る埋蔵文化財の取り扱いについて、開発事業計画地における埋蔵文化財の有無を確認した上で、保存に係わる協議等を行っている。

公共事業については、関係機関・部局に次年度の事業計画の照会を行い、埋蔵文化財の保存上問題になると判断される事業についてはその取り扱いについて協議を行っている。

民間の開発事業については、都市計画法に基づく 1,000 ㎡以上の開発事業、建築基準法に基づく建築事業等を対象として事前協議を求めている。また建築等の計画策定段階での照会にも窓口やメール、ファックスで応じ、埋蔵文化財の保存上の措置について必要な指示を行っている。平成 24 年 8 月からは本市ホームページにて、包蔵地外町丁名リストの公開を開始し、利用者の照会の便宜を図っている。

## 2. 令和2年度の事前審査

令和２年度の事前審査件数は、表 1 のとおりである。福岡市域の開発事業を反映するように増加傾向となる。平成 22 年からは年間 2500 件前後で高止まり状態となっていたが、令和 2 年度は公共事業・汚水桝の審査照会の減少と新型コロナウイルス蔓延により、民間事業の申請が減少した。

表 1 平成 16 ～令和 2 年度事前審査件数推移

| 事業 | 内訳 | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | R1年度 | R2年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 公共 | 事業照会審査件数 | 662 | 668 | 665 | 769 | 862 | 1,143 | 1,191 | 1,181 | 1,181 | 1,220 | 989 | 1,381 | 1,381 | 1,280 | 1,322 | 1,443 | 729 |
| | 申請審査件数 | 112 | 113 | 133 | 161 | 202 | 228 | 195 | 191 | 184 | 135 | 290 | 155 | 164 | 137 | 115 | 139 | 125 |
| | 審査件数計 | 774 | 781 | 798 | 930 | 1,064 | 1,371 | 1,386 | 1,372 | 1,365 | 1,355 | 1,279 | 1,536 | 1,545 | 1,417 | 1,437 | 1,582 | 854 |
| 民間 | 窓口照会件数 | 5,842 | 6,126 | 8,309 | 7,226 | 6,144 | 5,555 | 6,225 | 6,791 | 7,195 | 6,491 | 12,301 | 12,356 | 14,349 | 14,773 | 16,687 | 16,520 | 15,488 |
| | FAX照会件数 | 1,499 | 2,296 | 3,354 | 3,990 | 3,537 | 3,729 | 4,584 | 5,716 | 7,170 | 7,999 | 8,648 | 9,317 | 9,936 | 9,904 | 10,524 | 10,749 | 10,272 |
| | 照会件数計 | 7,341 | 8,422 | 11,663 | 11,216 | 9,681 | 9,284 | 10,809 | 12,507 | 14,365 | 14,490 | 20,949 | 21,673 | 24,285 | 24,677 | 27,211 | 27,269 | 25,760 |
| | 申請（審査）件数 | 1,207 | 1,257 | 1,090 | 1,011 | 1,000 | 924 | 1,184 | 1,176 | 1,261 | 1,339 | 1,140 | 1,147 | 1,123 | 1,134 | 1,265 | 1,348 | 1,118 |
| 公･民 申請審査件数計 | | 1,319 | 1,370 | 1,223 | 1,172 | 1,202 | 1,152 | 1,379 | 1,367 | 1,445 | 1,474 | 1,430 | 1,302 | 1,287 | 1,271 | 1,380 | 1,487 | 1,243 |
| 公･民審査件数計 | | 1,981 | 2,038 | 1,888 | 1,941 | 2,064 | 2,295 | 2,570 | 2,548 | 2,626 | 2,694 | 2,419 | 2,683 | 2,668 | 2,551 | 2,702 | 2,930 | 1,972 |
| 試掘調査実施件数 | | 365 | 419 | 327 | 384 | 364 | 345 | 371 | 371 | 379 | 443 | 318 | 286 | 267 | 254 | 353 | 322 | 263 |

### 申請内容（表 1・2）

公共事業に伴う依頼は 125 件となり、昨年度からわずかに減少している。事業者別では、国機関 19 件、福岡県 3 件、福岡市 103 件となる。事業別に見ると水道･電気等 55 件、道路 21 件、空港関係 16 件、学校関係 11 件、公園関係 5 件、河川関係 4 件、市営住宅の建て替え事業 2 件、その他の開発・建物は 11 件である。このうち公有財産の売却等の土地調査にかかる事前審査依頼は 2 件であった。なお事業照会件数は 729 件で、昨年度から半減した。事業別の内訳は、上下水道 336 件、道路 168 件、学校 146 件、公園 20 件、住宅 14 軒、空港施設関連 19 件、河川 5 件、電気 4 件、その他の建物 14 軒、その他の開発 3 件であった。民間事業の届出件数は 1,118 件で昨年より減少している。届出内容は、事業別では個人住宅 356 件、戸建住宅 215 件、共同住宅 161 件、宅地造成 38 件、個人住宅兼工場または店舗 3 件など住宅関連事業をあわせると 773 件となる。土地売買に先立つ事前の調査依頼は 50 件であった。専用住宅・戸建住宅の件数は前年より減少した。そのほか、道路 1 件、空港関係 1 件、学校関係 19 件、工場 8 件、店舗 30 件、その他建物 100 件、土地区画整理 1 件、ガス・電気・水道等 104 件、農業関係 6 件、その他開発 25 件である。

公共･民間の申請件数の合計を区別に見ると、東区 113 件、博多区 279 件、早良区 234 件、西区 217 件、南区 229 件、中央区 39 件、城南区 132 件となる。前年より西区以外は減少しており、博多区・早良区は大幅に減少している。

### 指導内容（表 2）

公共、民間各事業の事前審査の結果、事業者に指導した内容は表 2 のとおりである。次年度への継続、取り下げを除くと審査件数（申請件数）は 1,224 件で、前年より 200 件程度減少した。総括的に見ると書類審査での回答 998 件、踏査 4 件、試掘 222 件である。審査結果は開発同意 90 件、慎重工事 1,001 件、工事立会 94 件、発掘調査

31 件、要協議（設計未定、売却予定で遺跡ありなど）8 件である。

窓口等照会（表 1）

民間業者等による窓口での「埋蔵文化財の有無に係わる照会」等は 15,488 件、ファックスでの照会は 10,272 件、あわせて 25,760 件で、新型コロナウイルス蔓延の影響で令和元年度実績 27,269 件より減少している。平成 24 年 8 月より本市ホームページにて、包蔵地外町丁名リストの公開を開始し、利用者の照会への便宜と照会件数減を図っているが、窓口件数は大きく増加している。ファックス照会件数は 22 年度以降毎年増加しているが、30 年度から大きく増加し 10,000 件を超えた。ホームページ「福岡市の文化財」では、「福岡市埋蔵文化財包蔵地分布図（Web 版）」を整備・公開しており、窓口のみでしか閲覧できなかった埋蔵文化財包蔵地分布図が遠隔地からも確認できるようになった。

試掘調査・確認調査（表 3）

包蔵地内で行われる確認調査、包蔵地隣接地・包蔵地外で行われる試掘調査（以下試掘調査と総称する）は令和 2 年度で 263 件実施した。区別の内訳として東区 20 件、博多区 91 件、中央区 11 件、南区 31 件、城南区 19 件、早良区 50 件、西区 41 件となる。対象とした遺跡数は 98 遺跡である。10 件以上試掘した遺跡としては博多遺跡群

表 2　令和 2 年度事前審査内訳

| 区名 | 事業 | 審査種別（書類審査・現地踏査・試掘調査）でみた判断指示の結果 | | | | | | | | | | | | | | | | | 区別審査件数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 開発同意 | | | 慎重工事 | | | 工事立会 | | | 発掘調査 | | | 協議 | | | 審査継続 | 取り下げ | 公民別計 | 区計 |
| | | 書類 | 踏査 | 試掘 | 書類 | 踏査 | 試掘 | 書類 | 踏査 | 試掘 | 書類 | 踏査 | 試掘 | 書類 | 踏査 | 試掘 | | | | |
| 東 | 公共 | | | | 7 | | | 3 | | | | | | | | | | | 10 | 113 |
| | 民間 | 17 | | | 60 | | 11 | 8 | | 1 | 2 | | 1 | | | 1 | 2 | | 103 | |
| 博多 | 公共 | 3 | | | 43 | | 5 | 6 | | | 1 | | 1 | | | | 2 | | 61 | 279 |
| | 民間 | 4 | 1 | 2 | 127 | | 41 | 13 | | 10 | 1 | | 11 | 1 | | 4 | 1 | 2 | 218 | |
| 中央 | 公共 | | | | 6 | | 1 | | | | | | | | | | | | 7 | 39 |
| | 民間 | 3 | | | 17 | | 8 | 3 | | 1 | | | | | | | | | 32 | |
| 南 | 公共 | | | | 5 | | 1 | 5 | | | | | | | | | | | 11 | 229 |
| | 民間 | 13 | | | 161 | | 28 | 9 | | 2 | | | 3 | | | | 2 | | 218 | |
| 城南 | 公共 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | 3 | 132 |
| | 民間 | 7 | | | 98 | | 11 | 5 | | 1 | | | 3 | | | | 2 | 2 | 129 | |
| 早良 | 公共 | 3 | 2 | | 10 | | | 2 | | | | | | | | | | | 17 | 234 |
| | 民間 | 12 | | | 153 | | 32 | 5 | | 5 | 3 | | 3 | | | | 3 | 1 | 217 | |
| 西 | 公共 | 1 | | 1 | 7 | | | 7 | | | | | | | | | | | 16 | 217 |
| | 民間 | 19 | | 2 | 140 | 1 | 25 | 5 | | 3 | | | 2 | | | 2 | 1 | 1 | 201 | |
| 小計 | 公共 | 7 | 2 | 1 | 81 | 0 | 7 | 23 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 125 | 1243 |
| | 民間 | 75 | 1 | 4 | 756 | 1 | 156 | 48 | 0 | 23 | 6 | 0 | 23 | 1 | 0 | 7 | 11 | 6 | 1118 | |
| 合計 | | 82 | 3 | 5 | 837 | 1 | 163 | 71 | 0 | 23 | 7 | 0 | 24 | 1 | 0 | 7 | 13 | 6 | 1243 | |

表 3　令和 2 年度確認調査・試掘調査一覧

| 区 | 東 | 博多 | 中央 | 南 | 城南 | 早良 | 西 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 件数 | 20 | 91 | 11 | 31 | 19 | 50 | 41 | 263 |
| 補助　現物 | 11　9 | 64　27 | 9　2 | 24　7 | 15　4 | 32　18 | 25　16 | 180　83 |
| 包蔵地内 | 19 | 84 | 5 | 26 | 15 | 46 | 32 | 227 |
| 包蔵地隣接地 | 1 | 6 | 6 | 5 | 4 | 4 | 8 | 34 |
| 包蔵地外 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 |

14 件、箱崎遺跡 11 件、比恵・那珂遺跡群 22 件、有田遺跡群 13 件となっている。包蔵地隣接地および包蔵地外での試掘調査は 36 件であった。確認･試掘調査 263 件のうち補助対象は 180 件､現物重機等による調査は 83 件となる。

## Ⅲ 発掘調査

### 1．令和2年度の発掘調査（表 4・5）

令和２年度の発掘調査件数は、表 4 に示したように、元年度からの継続事業 14 件、令和２年度新規事業 40 件の計 54 件で、このうち 4 件は令和３年度に継続である。新規調査 40 件は文化財保護法第 93、94 条に基づく記録保存のための発掘調査 39 件のほか、史跡整備に伴う調査 1 件を含んでいる。

40 件の発掘調査総面積は 18,333 ㎡で､前年度と比べ調査件数は減少し､これに伴い調査面積はやや減少となった。公民別では公共事業が 6,762 ㎡、民間事業が 11,571 ㎡であり、民間が全体の 63% を占めている。公共事業総面積が前年度比で 250％と倍加し、民間事業については約 61% 現象している（平成 24 年度から、国立大学法人関係の調査は民間事業扱いとしている)。今年度についても前年度に続いて圃場整備事業に伴う発掘調査は実施していない。

個々の発掘調査の面積としては、100 ㎡以下が 10 件、101 ～ 300 ㎡が 19 件、301 ～ 500 ㎡が 4 件、501 ～ 1,000 ㎡が 4 件、1,001 ～ 10,000 ㎡が 3 件となり、全体的に減少している。300 ㎡以下の小規模調査は 29 件と、前年度の 51 件から件数・比率ともに減少した。1 件あたりの平均調査面積は 458 ㎡、公共事業で 3,381 ㎡、民間事業では 305 ㎡である。区ごとでは東区 4 件、博多区 20 件、中央区 2 件、南区 7 件、城南区 1 件、早良区 6 件、西区 0 件となり、博多区に調査件数が集中する傾向が昨年度に引き続き顕著である。

各区の面積では、東区 6,957 ㎡、博多区 7,075 ㎡、中央 117 ㎡、南区 2,621 ㎡、城南区 400 ㎡、早良区 1,162 ㎡、西区 0 ㎡である。博多区は調査件数では他区を大きく上回る状況にあるが、これは近年の市内の宿泊施設不足問題や宅地の再開発分譲事業等に起因するもので、調査件数全体の増加に直接関連している。なお博多遺跡群、箱崎遺跡などでは複数の遺構面を調査するため、実際の発掘面積は増加する。

表 4　令和 2 年度　発掘調査区別調査件数・面積（学術調査を除いた前年度継続分 12 件・学術調査 9 件を除く）

| 令和２年度 | 東 | 博多 | 中央 | 南 | 城南 | 早良 | 西 | 全市 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 公共調査 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 民間調査（民受+令達+補助） | 2 | 20 | 2 | 7 | 1 | 6 | 0 | 38 |
| 計 | 4 | 20 | 2 | 7 | 1 | 6 | 0 | 40 |
| 調査面積総計（㎡） | 6,957 | 7,075 | 117 | 2,621 | 400 | 1,162 | 0 | 18,333 |
| 平均調査面積/1件 | 1,739 | 354 | 58 | 374 | 400 | 194 | 0 | 458 |

参考　　学術調査 9件　　17,300㎡

学術調査を除いた継続12件 10,270.57㎡

表 5　発掘調査件数の推移　　（ ）前年度からの継続件数、なお学術調査 2 件（H30)、5 件（R1)、7 件（R2）を除く

| 事 業 | | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | R1年度 | R2年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 民 間 (民受+令達+補助) | 調査件数 | 21 (6) | 30 (0) | 27 (1) | 22 (2) | 42 (4) | 50 (5) | 47 (5) | 48 (7) | 38 (5) | 41 (4) | 70 (6) | 50 (12) |
| | 調査面積（㎡） | 11,190 | 15,649 | 6,175 | 15,333 | 20,293 | 15,786 | 10,687 | 12,807 | 16,498 | 17,534 | 24,111 | 28,603 |
| 圃場整備 | 調査件数 | 4 (0) | 4 (2) | 1 (2) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| | 調査面積（㎡） | 0 | 9,775 | 1,984 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 公 共 | 調査件数 | 16 (3) | 16 (3) | 23 (3) | 19 (2) | 5 (1) | 6 (1) | 8 (2) | 2 0 | 3 (2) | 1 (0) | 1 (0) | 2 (0) |
| | 調査面積（㎡） | 33,099 | 22,856 | 14,322 | 14,440 | 3,315 | 1,996 | 6,842 | 1,728 | 2,909 | 1,335 | 2,712 | 6,762 |
| 合 計 | 調査件数 | 41 (9) | 50 (5) | 51 (7) | 41 (4) | 47 (5) | 56 (6) | 55 (7) | 50 (7) | 41 (7) | 42 (4) | 71 (6) | 52 (12) |
| | 調査面積（㎡） | 44,289 | 48,280 | 22,481 | 29,773 | 23,608 | 17,782 | 17,529 | 14,535 | 19,407 | 18,870 | 26,823 | 35,365 |

※調査件数･面積は前年度からの継続件数も含むが，大学による学術調査14件は含まない

## Ⅳ 公開活動

市民への公開を目的として、記者発表や現地説明会、体験学習および福岡市埋蔵文化財調査報告書の刊行等がある。令和２年度は９月５日に早良区野芥遺跡第 19 次調査にて近隣住民の皆様に対しての現地説明会を実施した。また市内小中学校の職場体験の一環として発掘調査や整理作業への参加を受け入れているが、令和２年度は、新型コロナウイルス蔓延のため実施していない。

公開・活用に資するための埋蔵文化財報告書・年報は、表 8 のとおり計 34 冊が刊行された。

## Ⅴ 令和２年度発掘調査概要・報告

調査概要・報告は表７の調査番号順に掲載し、位置番号は右ページの調査一覧表と一致する。また、各報文の図〔1. 調査地点の位置〕の（　）内は、左から福岡市都市計画図図幅番号・図幅名称・遺跡番号・縮尺である。

表６　令和２年度発掘調査遺跡一覧表

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1．名子遺跡 | 6．比恵遺跡群 | 11．麦野Ｂ遺跡 | 16．大平寺古墳群 | 21．藤崎遺跡 |
| 2．箱崎遺跡 | 7．那珂遺跡群 | 12．麦野Ｃ遺跡 | 17．史跡福岡城跡 | 22．有田遺跡群 |
| 3．博多遺跡群 | 8．山王遺跡 | 13．井尻Ｂ遺跡 | 18．鳥飼遺跡 | 23．原遺跡 |
| 4．吉塚遺跡 | 9．高畑遺跡 | 14．弥永原遺跡 | 19．別府遺跡 | 24．野芥遺跡 |
| 5．久保園遺跡 | 10．麦野Ａ遺跡 | 15．中村町遺跡 | 20．西新町遺跡 | 25．東入部遺跡 |

表 7　令和 2 年度発掘調査一覧

| 番号 | 審査番号 | 種別 | 遺跡名 | 次数 | 略号 | 開発内容 | 区 | 所在地 | 調査面積 | 着手日 | 終了日 | 地図 | 主番 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1805 | 27-1-122 | 令達 | 博多遺跡群 | 221 | HKT | 跡地活用事業 | 博多 | 上川端町6-38 | 1746 | H30.4.25 | 継続中 | 49 | 0121 |
| 1923 | | 学術 | 箱崎遺跡 | 99 | HKZ | 学術研究（記録保存） | 東 | 箱崎６丁目10-1 旧応力研地点 | 1170 | R1.9.18 | R2.4.1 | 34 | 2639 |
| 1924 | | 国補（史跡） | 福岡城跡 | 78 | FUE | 祈念櫓 | 中央 | 城内1番1、1番4 | 296.5 | R1.12.1 | 継続中 | 60 | 0193 |
| 1958 | 2019-2-99 | 民受 | 博多遺跡群 | 238 | HKT | ホテル | 博多 | 店屋町186番1、186番2、187番3 | 141.4 | R2.1.15 | R2.4.24 | 49 | 0121 |
| 1959 | | 国補（史跡） | 福岡城跡 | 80 | FUE | 鴻臚館32次 | 中央 | 城内1番1、1番4 | 410.7 | R2.1.10 | 継続中 | 60 | 0193 |
| 1960 | 2019-2-482 | 民受 | 博多遺跡群 | 239 | HKT | ホテル | 博多 | 祇園町417番、418番、419番、420番、421番、422番、425番、426番、427番 | 1012.47 | R2.2.17 | R3.4.23 | 49 | 0121 |
| 1961 | 2019-2-613 | 民補 | 名子遺跡 | 5 | NAO | 店舗 | 東 | 名子３丁目778番3、781番1、782番1、783番1、785番1、785番4、780番4、781番1地先水路 | 2219 | R2.1.20 | R2.5.29 | 7 | 2829 |
| 1962 | 2019-2-525 | 民受 | 那珂遺跡群 | 179 | NAK | 共同住宅 | 博多 | 那珂６丁目333番1 | 2585 | R2.2.10 | R2.12.18 | 24 | 0085 |
| 1964 | 2019-2-816 | 民受 | 野芥遺跡 | 18 | NKE | 共同住宅 | 早良 | 野芥４丁目372-1 | 180 | R2.3.2 | R2.4.10 | 84 | 0319 |
| 1965 | 2019-2-309 | 民受 | 野芥遺跡 | 19 | NKE | 宅地造成 | 早良 | 野芥５丁目387番1、388番3、388番15 | 1385.5 | R2.3.16 | R2.9.23 | 84 | 0319 |
| 1966 | 2019-2-239 | 民補 | 井尻Ｂ遺跡 | 46 | IGB | 共同住宅 | 南 | 井尻５丁目177-1、177-2、177-7 | 150 | R2.3.16 | R2.4.13 | 25 | 0090 |
| 1967 | | 学術 | 箱崎遺跡 | 106 | HKZ | 学術研究（現状保存） | 東 | 箱崎６丁目10-1 中央図書館北側通路 | 600 | R2.2.25 | R2.6.30 | 33 | 2639 |
| 1969 | 2019-2-964 | 民受 | 麦野Ａ遺跡 | 30 | MGA | 共同住宅 | 博多 | 麦野６丁目5番1 | 71 | R2.3.23 | R2.4.3 | 12 | 0048 |
| 1970 | | 国補（史跡） | 福岡城跡 | 81 | FUE | 中天守 | 中央 | 城内1番1、1番4 | 73 | R2.3.18 | R2.12.22 | 60 | 0193 |
| 2001 | | 学術 | 箱崎遺跡 | 107 | HKZ | 学術研究 | 東 | 箱崎６丁目10-1 農学部三号館北・二号館２次 | 2100 | R2.4.6 | R2.6.30 | 33 | 2639 |
| 2002 | 2019-2-67 | 民受 | 東入部遺跡 | 13 | HGI | 宅地造成 | 早良 | 東入部２丁目346番2 | 121.1 | R2.4.13 | R2.5.20 | 85 | 0343 |
| 2003 | 2019-2-742 | 民補 | 那珂遺跡群 | 180 | NAK | 共同住宅 | 博多 | 東光寺町１丁目14、17番 | 295 | R2.4.8 | R2.6.26 | 37 | 0085 |
| 2004 | 2019-1-24 | 令達 | 那珂遺跡群 | 181 | NAK | 物品庫 | 博多 | 那珂２丁目18-1 | 394 | R2.4.13 | R2.6.22 | 38 | 0085 |
| 2005 | 2019-2-712 | 国補 | 弥永原遺跡 | 17 | YNB | 専用住宅 | 南 | 曰佐３丁目88番2 | 51.0 | R2.4.9 | R2.4.28 | 26 | 0105 |
| 2006 | 2019-2-717 | 民受 | 那珂遺跡群 | 182 | NAK | 共同住宅 | 博多 | 竹下４丁目108番、110番、99番一部、那珂一丁目700番 | 1525 | R2.4.20 | R2.9.30 | 37 | 0085 |
| 2007 | 2019-2-677 | 民補 | 吉塚遺跡 | 17 | YSZ | 共同住宅 | 博多 | 堅粕４丁目345-1、345-2、345-3、388-2 | 166.6 | R2.5.11 | R2.6.10 | 36 | 0123 |
| 2008 | 2019-2-1001 | 民受 | 博多遺跡群 | 240 | HKT | 事務所 | 博多 | 店屋町64番1,64番2,64番3,63番2,62番4,62番3 | 214.5 | R2.5.13 | R2.9.18 | 49 | 0121 |
| 2009 | 2019-2-1137 | 国補 | 中村町遺跡 | 9 | NMM | 専用住宅 | 南 | 野間３丁目179番の一部 | 90.65 | R2.5.13 | R2.5.28 | 51 | 0167 |
| 2010 | 2019-2-1138 | 民受 | 中村町遺跡 | 10 | NMM | 戸建住宅 | 南 | 野間３丁目179番の一部 | 110.44 | R2.6.1 | R2.6.24 | 51 | 0167 |
| 2011 | 30-1-61 | 公受 | 箱崎遺跡 | 108 | HKZ | 都市計画道路 | 東 | 箱崎６丁目10-1 | 542.0 | R2.5.1 | R2.7.7 | 33 | 2639 |
| 2012 | 2019-2-566 | 民受 | 博多遺跡群 | 241 | HKT | ホテル | 博多 | 祇園町326-1 | 197 | R2.6.1 | R2.9.4 | 49 | 0121 |
| 2013 | 2019-2-770 | 国補 | 藤崎遺跡 | 40 | FUA | 専用住宅 | 早良 | 高取２丁目154番2 | 36 | R2.6.1 | R2.6.30 | 81 | 0307 |
| 2014 | 2019-2-998 | 民受 | 有田遺跡群 | 271 | ART | 戸建住宅3棟 | 早良 | 有田２丁目11番2 | 148.29 | R2.6.15 | R2.7.9 | 82 | 0309 |
| 2015 | | 学術 | 箱崎遺跡 | 109 | HKZ | 学術研究（記録保存） | 東 | 箱崎６丁目10-1 記録資料館2次 | 530 | R2.6.22 | R2.10.10 | 34 | 2639 |
| 2016 | 2019-2-982 | 民受 | 山王遺跡 | 16 | SNN | 共同住宅 | 博多 | 山王２丁目32-1 | 214 | R2.7.27 | R2.10.14 | 37 | 2379 |
| 2017 | 2019-2-959 | 民受 | 博多遺跡群 | 242 | HKT | ホテル | 博多 | 冷泉町414番 | 116 | R2.7.1 | R2.8.31 | 49 | 0121 |
| 2018 | 2019-2-537 | 民受 | 博多遺跡群 | 243 | HKT | ホテル | 博多 | 店屋町27-1、27-2 | 336.31 | R2.7.13 | R2.12.11 | 49 | 0121 |
| 2019 | 2019-2-1171 | 民受 | 弥永原遺跡 | 18 | YNB | 学生寮建設 | 南 | 曰佐３丁目42-1 | 272 | R2.8.24 | R2.10.29 | 26 | 0105 |
| 2020 | | 国補（史跡） | 福岡城跡 | 82 | FUE | 潮見櫓 | 中央 | 城内1番1、1番4 | 98.2 | R2.5.25 | 継続中 | 60 | 0193 |
| 2021 | 2020-2-188 | 民受 | 那珂遺跡群 | 183 | NAK | 共同住宅 | 博多 | 那珂１丁目392-2 | 41.32 | R2.7.13 | R2.8.4 | 37 | 0085 |
| 2022 | 2020-2-167 | 民受 | 麦野Ｂ遺跡 | 7 | MGB | 保育園 | 博多 | 三筑２丁目11番2外 | 881.25 | R2.7.20 | R2.9.3 | 25 | 0049 |
| 2023 | 30-1-61 | 公受 | 箱崎遺跡 | 113 | HKZ | 都市計画道路 | 東 | 箱崎６丁目10-1 | 6220 | R2.5.1 | R3.2.28 | 33 | 2639 |
| 2024 | 2019-2-1004 | 民受 | 箱崎遺跡 | 110 | HKZ | 共同住宅 | 東 | 馬出１丁目363-1、-2、-3 | 99 | R2.8.11 | R2.9.17 | 35 | 2639 |
| 2025 | | 学術 | 箱崎遺跡 | 111 | HKZ | 学術研究（記録保存） | 東 | 箱崎６丁目10-1 五十周年記念講堂南 | 400 | R2.8.24 | R2.10.8 | 34 | 2639 |
| 2026 | | 学術 | 箱崎遺跡 | 112 | HKZ | 学術研究（記録保存） | 東 | 箱崎６丁目10-1 工学研究科共同研究棟東 | 300 | R2.10.5 | R2.10.19 | 33 | 2639 |
| 2027 | 2019-2-1085・1331 | 民受 | 山王遺跡 | 17 | SNN | 戸建住宅 | 博多 | 山王２丁目18-14 | 88 | R2.9.14 | R2.10.28 | 37 | 2379 |
| 2028 | 2019-2-1238 | 国補 | 久保園遺跡 | 5 | KBZ | 専用住宅 | 博多 | 東平尾２丁目541-1 | 343.12 | R2.9.23 | R2.11.20 | 22 | 0083 |
| 2029 | 2020-2-135 | 民受 | 麦野Ｃ遺跡 | 19 | MGC | 共同住宅 | 博多 | 麦野６丁目12番12 | 296 | R2.10.12 | R2.12.18 | 12 | 0050 |
| 2030 | 2020-2-68 | 民受 | 野芥遺跡 | 20 | NKE | 宅地造成 | 早良 | 野芥５丁目378番1 | 211.5 | R2.10.12 | R2.11.30 | 84 | 0319 |
| 2031 | 2019-2-1024 | 民受 | 弥永原遺跡 | 19 | YNB | 体育館建設 | 南 | 曰佐３丁目42-1 | 1776.47 | R2.10.15 | R3.3.16 | 26 | 0105 |
| 2032 | 2019-2-1041 | 民受 | 博多遺跡群 | 244 | HKT | ホテル | 博多 | 祇園町2-1、2-2、59、4、5 | 145 | R2.11.9 | R3.1.7 | 49 | 0121 |
| 2033 | 2019-2-1310 | 民受 | 井尻Ｂ遺跡 | 47 | IGB | 戸建住宅3棟 | 南 | 井尻１丁目735番9 | 200.93 | R2.11.10 | R3.1.15 | 24 | 0090 |
| 2034 | | 学術 | 箱崎遺跡 | 114 | HKZ | 学術研究（記録保存） | 東 | 箱崎６丁目10-1 本部第二庁舎 | 1000 | R2.12.1 | R3.3.31 | 34 | 2639 |
| 2035 | 2019-1-23・33 | 令達 | 比恵遺跡群 | 157 | HIE | 校舎建て替え | 博多 | 博多駅南５丁目3-1 | 910.12 | R2.11.16 | R3.3.31 | 37 | 0127 |
| 2036 | 30-1-114 | 令達 | 西新町遺跡 | 23 | NSJ | 土地売却 | 早良 | 西新３丁目204番3 | 90 | R2.12.14 | R3.1.7 | 71 | 0240 |
| 2037 | 2019-2-1348 | 民補 | 高畑遺跡 | 22 | TKB | 共同住宅 | 博多 | 板付６丁目10-5 | 240 | R3.1.5 | R3.3.24 | 24 | 0095 |
| 2038 | 2019-2-1311 | 民受 | 博多遺跡群 | 245 | HKT | テナント付き共同住宅 | 博多 | 須崎町90、91-1、91-2、91-3、92-1、92-2、93、88-1、88-2番 | 226.56 | R3.1.5 | R3.5.7 | 49 | 0121 |
| 2039 | 2020-2-449 | 民受 | 別府遺跡 | 2 | BEF | 共同住宅 | 城南 | 別府５丁目198番 | 400 | R3.1.25 | R3.3.4 | 72 | 0244 |
| 2040 | 2020-2-426 | 民受 | 原遺跡 | 37 | HAA | 共同住宅 | 早良 | 原５丁目1333番3、1330番7 | 555.6 | R3.1.21 | R3.3.17 | 82 | 0311 |
| 2041 | 2019-2-1229 | 民受 | 麦野Ａ遺跡 | 31 | MGA | 戸建住宅3棟 | 博多 | 麦野３丁目11-3、11-99 | 176 | R3.1.18 | R3.2.19 | 12 | 0048 |
| 2042 | 2019-2-1272 | 民受 | 博多遺跡群 | 246 | HKT | 事務所ビル | 博多 | 綱場町9、10、11、12、13、14他12筆 | 269.1 | R2.2.1 | R3.9.3 | 48 | 0121 |
| 2043 | 2020-2-143 | 民補 | 井尻Ｂ遺跡 | 48 | IGB | 戸建住宅3棟 | 南 | 井尻１丁目704番の一部、705番の一部 | 120 | R3.2.15 | R3.3.13 | 25 | 0090 |
| 2044 | | 学術 | 箱崎遺跡 | 115 | HKZ | 学術研究（記録保存） | 東 | 箱崎６丁目10-1 船舶海洋工学実験室 | 3200 | R3.2.15 | R3.9.30 | 33 | 2639 |
| 2045 | 2020-2-798 | 民受 | 箱崎遺跡 | 116 | HKZ | 共同住宅 | 東 | 箱崎３丁目3263番2 | 96 | R3.2.19 | R3.4.9 | 34 | 2639 |
| 2046 | | 学術 | 大平寺古墳 | 1 | THK | 学術研究（現状保存） | 南 | 太平寺１丁目93番1外 | 8000 | R3.3.8 | R3.8.31 | 53 | 0180 |
| 2047 | 2020-2-282 | 試掘 | 烏飼遺跡 | 1 | TOR | 確認・試掘調査 | 中央 | 今川２丁目22番1 | 18.6 | R2.7.14 | R2.7.14 | 71 | 2435 |

表 8　令和 2 年度刊行報告書一覧

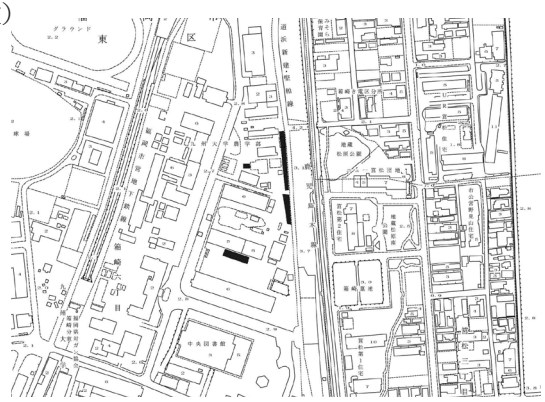
| 集 | 書名 | 副書名 | 収録調査番号 |
|---|---|---|---|
| 1405 | 博多170 | 博多遺跡群第203次調査報告 | 1427 |
| 1406 | 青葉遺跡１ | 青葉遺跡第１次調査報告 | 1811 |
| 1407 | 有田・小田部60 | 有田遺跡群第270次調査報告 | 1944 |
| 1408 | 香椎Ａ遺跡５ | 香椎A遺跡第８次調査報告 | 1832 |
| 1409 | 顕孝寺遺跡１ | 顕孝寺遺跡第１次調査の報告 | 1537 |
| 1410 | 高節遺跡１ | 高節遺跡第２次調査報告 | 1910 |
| 1411 | 田村19 | 田村遺跡第27次調査の報告 | 1809 |
| 1412 | 那珂83 | 那珂遺跡群第172次調査の報告 | 1736 |
| 1413 | 中ノ原遺跡２ | 第６次調査 | 1932 |
| 1414 | 博多171 | 博多遺跡群第216次調査報告 | 1723 |
| 1415 | 博多172 | 博多遺跡群第220次調査報告 | 1804 |
| 1416 | 博多173 | 博多遺跡群第222次調査報告 | 1821 |
| 1417 | 博多174 | 博多遺跡群第223次調査報告 | 1823 |
| 1418 | 博多175 | 博多遺跡群第227次調査報告 | 1904 |
| 1419 | 博多176 | 博多遺跡群第229次調査の報告 | 1909 |
| 1420 | 博多177 | 博多遺跡群第230次調査報告 | 1911 |
| 1421 | 博多178 | 博多遺跡群第232次調査の報告 | 1920 |
| 1422 | 博多179 | 博多遺跡群第233次調査報告 | 1935 |
| 1423 | 博多180 | 博多遺跡群第237次発掘調査報告 | 1954 |
| 1424 | 箱崎59 | 箱崎遺跡第90次調査報告 | 1825 |
| 1425 | 箱崎60 | 箱崎遺跡第95次調査報告 | 1842 |
| 1426 | 箱崎61 | 箱崎遺跡第97次調査報告 | 1917 |
| 1427 | 箱崎62 | 箱崎遺跡第100次調査報告 | 1925 |
| 1428 | 箱崎63 | 箱崎遺跡第101次調査報告 | 1939 |
| 1429 | 原遺跡22 | 原遺跡第36次調査報告 | 1930 |
| 1430 | 比恵89 | 第152次調査報告 | 1818 |
| 1431 | 東那珂遺跡６ | 第８次調査報告 | 1901 |
| 1432 | 福岡城下町遺跡２ | 第４次調査報告 | 1913 |
| 1433 | 三宅遺跡群１ | 第７次調査報告 | 1931 |
| 1434 | 麦野Ａ遺跡11 | 第28次調査報告 | 1926 |
| 1435 | 麦野Ｃ遺跡10 | 第17次調査 | 1941 |
| 1436 | 吉塚12 | 吉塚遺跡第18次調査報告 | 1907 |
| 1437 | 中南部12 | 比恵遺跡群第138次・149次・那珂遺跡群第158次調査の報告 | 1513・1529・1643 |
| 埋蔵文化財年報VOL.34<br>令和元（2019）年度版 | | 宝台遺跡第４次調査 | 1908 |
| | | 麦野Ａ遺跡第27次調査 | 1916 |
| | | 有田遺跡群第269次調査 | 1918 |
| | | 飯倉Ａ遺跡第４次調査 | 1919 |
| | | 重留Ｂ遺跡第１次調査 | 1921 |
| | | 那珂遺跡群第176次調査 | 1929 |
| | | 麦野Ａ遺跡第29次調査 | 1936 |
| | | 福岡城跡第79次調査 | 1946 |
| | | 比恵遺跡群第156次調査 | 1956 |
| | | 五十川遺跡第23次調査 | 1968 |
| | | 仲島遺跡第６次調査 | 1833 |
| | | 次郎丸高石遺跡第７次調査 | 1843 |

表 9　令和 2 年度包蔵地等改訂一覧

| 番号 | 遺跡名称 | 変更事項 |
|---|---|---|
| 1 | 重留Ｂ遺跡 | 包蔵地の新設・新規登録遺跡 |
| 2 | 鳥越古墳群Ｂ群 | 包蔵地・隣接地の解除 |
| 3 | 鳥越古墳群Ｆ群 | 隣接地の解除 |
| 4 | 飯倉Ｇ遺跡 | 包蔵地の一部を解除し、隣接地の一部を解除する |
| 5 | 飯倉Ｈ遺跡 | 包蔵地の一部を解除し、隣接地の一部を解除する |
| 6 | 若久Ｂ遺跡 | 隣接地の一部解除 |
| 7 | 吉塚遺跡 | 包蔵地の一部を拡大し、隣接地を新設・修正する |
| 8 | 東古川遺跡 | 包蔵地、隣接地の新設・新規登録遺跡 |
| 9 | 田島Ａ遺跡 | 包蔵地の一部を拡大し、隣接地を新設・修正する |
| 10 | 雑餉隈遺跡 | 包蔵地の一部を拡大し、隣接地を新設・修正する |
| 11 | 中ノ原遺跡 | 包蔵地の一部を解除し、隣接地の一部を解除する |
| 12 | 山王遺跡 | 隣接地の一部解除 |

## 2001　箱崎遺跡 107 次（HKZ-107）

所 在 地　東区箱崎 6 丁目 10-1（農学部三号館・二号館 2 次）
調査原因　学術研究（記録保存・HZK2001・2002）
調査期間　2020.4.6 ～ 2020.6.30
調査面積　2,100㎡
担 当 者　九州大学埋蔵文化財調査室
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（33　貝塚　2639　S = 8,000）

2．HZK2002 発掘区全景（北から）

### 調査の概要

防塁ラインの把握を目的とした調査である。九州大学箱崎キャンパス内からどのように地蔵松原史跡指定地に到達するかを把握するために、農学部境界塀附近に調査区を設定した。攪乱を除去して遺構検出を試みたが、遺構は確認できず、石積みを構成する砂岩・礫岩片も採集できなかった。

また、箱崎キャンパス農学部二号館の南側にも調査区を設定した。元寇防塁の石材と同様の石が 2 点出土したが、いずれも近代の攪乱層からの出土であった。石片が見つかった場所の博多湾側から溝状遺構を検出し、元寇防塁に伴う溝の可能性が高いと判断した。これまでの調査から、箱崎キャンパス内の元寇防塁は、博多湾側から陸側にかけて、石積み→溝状遺構と配置されていることが明らかである。このことより、溝状遺構の陸側からの石出土は不自然であり、後世の攪乱により動かされたものであるという結論に達した。

## 2002　東入部遺跡 13 次（HGI-13）

所 在 地　早良区東入部 2 丁目 346 番 2
調査原因　宅地造成
調査期間　2020.4.13 ～ 2020.5.20
調査面積　121.1㎡
担 当 者　三浦萌
処　　置　記録保存

1．調査地点の位置（85　入部　0343　S=1/8,000）

2．Ⅰ区全景（西から）

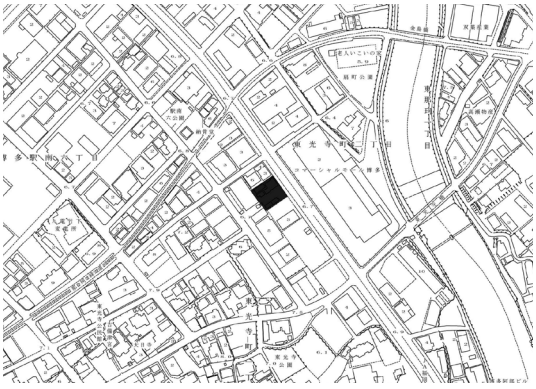
### 調査の概要

東入部遺跡は早良平野の奥に位置する沖積地上の縄文から中世にかける複合遺跡である。周辺に重留遺跡、岩本遺跡などが存在する。また当調査区の東斜面上には荒平古墳群 E 群が存在する。

当調査区は東入部遺跡の東端に位置している。今回の調査では２間×２間の掘立柱建物跡が１棟、６世紀前半以降の竪穴式建物跡が１基、そのほかに土坑とピットを多数検出している。掘立柱建物を構成する柱穴は約０．８～１ｍ×０．８～１ｍの隅丸方形をとっており、第４次調査において発見されたものと類似している。第４次調査において郡衙もしくは製鉄関連の官衙工房の存在が示唆されていることから、当調査区で発見された掘立柱建物もそれに関連する遺構である可能性が高いといえる。

## 2003　那珂遺跡群 180 次（NAK-180）

所 在 地　博多区東光寺町 1 丁目 14 番、17 番
調査原因　共同住宅建設
調査期間　2020.4.8 ～ 2020.6.26
調査面積　295㎡
担 当 者　清金良太
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（37　東光寺　0085　S=1/8,000）

2．調査区全景（南から）

### 調査の概要

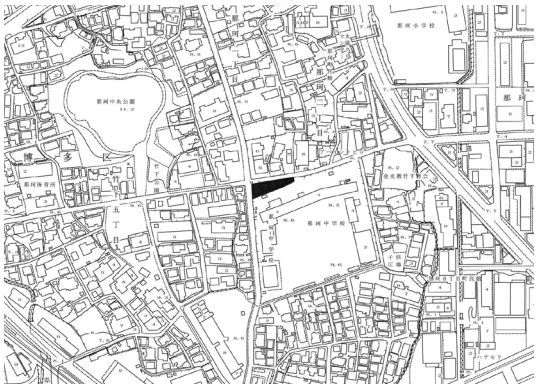
対象地は那珂遺跡群の北東側に位置している。周辺では 102、114、177 次調査が行われており、南側で行われた 177 次調査では竪穴住居、掘立柱建物、甕棺などが発掘されている。

対象地も須玖～立岩新段階の甕棺が 17 基（成人棺 11 基、小児棺 6 基）検出された。甕棺の分布は北側の 114 次調査では 0 基であり、180 次の分布でも南側では重なるように分布しているが北側ではまばらに確認できるにとどまっている。さらに土坑墓、木棺墓もそれぞれ 1 基検出されており、木棺墓からは勾玉 2 、管玉、臼玉 3 が検出されている。また時期は未確定であるが、1 辺約 12 mの墳丘墓も確認された。

調査区を東西方向に走る溝は江戸時代初期のもので、下層から陶磁器と共に大量の甕棺片が確認された。これは調査区周辺に弥生時代の甕棺墓が広がっていたと想定できる。

## 2004　那珂遺跡群 181 次（NAK-181）

所 在 地　博多区那珂 2 丁目 18-1
調査原因　学校施設
調査期間　2020.4.13 ～ 2020.6.22
調査面積　394㎡
担 当 者　今井隆博
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（38　塩原　0085　S=1/4,000）

2．Ⅰ区全景（西から）

### 調査の概要

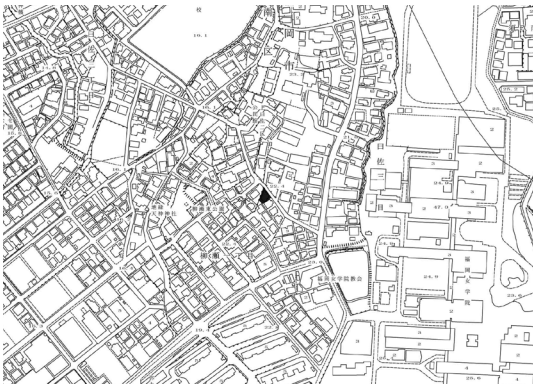
那珂遺跡群は那珂川と御笠川の間に形成された洪積台地上に立地する。今回の地点は那珂遺跡群の南側中央部分にあたる。現在の道路を挟んだ北側には 44 次調査地点があり、古墳の周溝や中世の土壙墓、中世後半の溝が確認されている。

検出した遺構は溝・土坑・ピットである。調査区南半分には、中学校敷地に並行する幅 4 m，深さ 2 m以上の大溝が延びる。昭和初期の地図では同方向の道路と水路が示されており、溝はこの水路にあたると思われる。埋土には近現代の遺物が含まれるが、溝の掘削時期がどこまで遡るかは不明である。

本地点は削平のためか，周辺で検出されている弥生・古墳・中世の遺構はほとんど見られなかった。出土遺物は土師器、須恵器、陶磁器、瓦等でコンテナケース 2 箱分である。

# 2005　弥永原遺跡第 17 次（YNB-17）

所 在 地　南区曰佐 3 丁目 88 番 2
調査原因　戸建住宅新築
調査期間　2020.4.9 ～ 2020.4.28
調査面積　51㎡
担 当 者　赤坂亨
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（26　上曰佐　0105　S=1/8,000）

2．1 区調査区全景（南西から）

3．2 区調査区全景（北西から）

## 調査の概要

平成 30 年 7 月 31 日付で上記地における埋蔵文化財の有無についての照会を受理した（事前審査番号 30-2-409）。これを受けて埋蔵文化財課事前審査係は申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である弥永原遺 跡に含まれていることから、平成 30 年 9 月 14 日に確認調査を行った。確認調査では現地表下 30cm で古墳時代の遺構が検出された。その後、上記地にて 令和元年 10 月 1 日付で上記地における埋蔵文化財の有無についての照会を再受理した（事前審査番号 2019-2-712）。前回の確認調査の結果を踏まえ、遺構の保全等に関して申請者と協議を行ったが、工事による埋蔵文化財への影響が回避できないため、基礎工事が行われる範囲について記録保存のための発掘調査を実施した。

## 調査の方法

基礎工事により遺跡が影響を受ける範囲に限って発掘調査を行った。表土掘削・埋戻しは小型重機で行った。掘削内廃土を敷地内に仮置きするため、調査区を 1・2・3 区に分けて掘削調査を行った。調査地南側の 3 区は遺構面までの深さ約 70㎝あり掘削土量が多く、周辺への土砂流出と壁面崩壊を防ぐため、法面をやや緩くして掘削を行った結果、 1 ・2 区との境界に隙間が生じた。遺構の精査・掘削は発掘作業員 3 名によって行い、測量、作図、写真撮影は赤坂が行った。

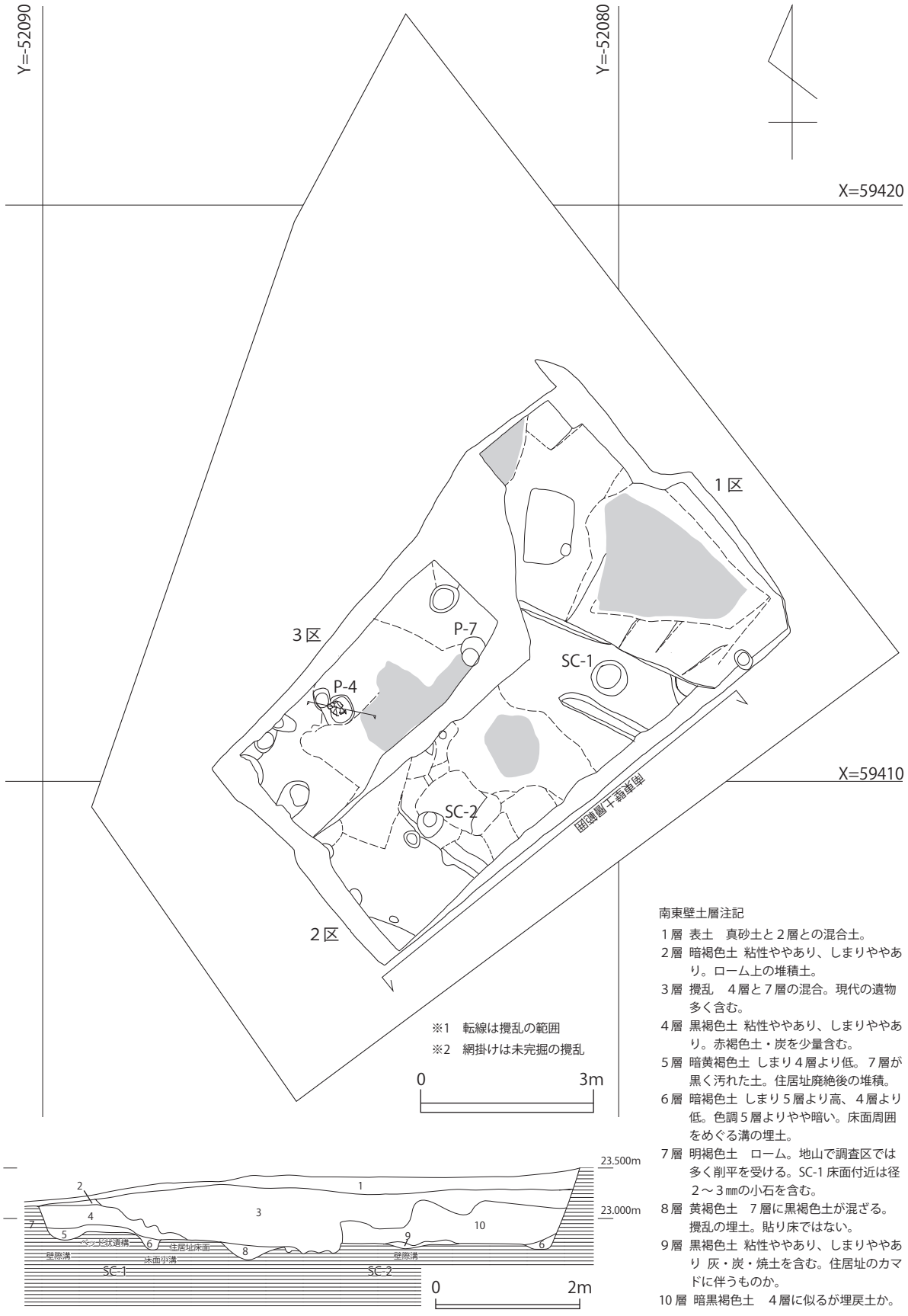
## 調査の概要

弥永原遺跡は御笠川・那珂川により形成された丘陵上の春日市須玖～下白水付近に位置している。遺跡は南北約 2000m、東西 500m ほどの広さで、南端付近が最も高く標高 30m を超え、北に向かって緩やかに下り、谷により東西の丘陵に分かれる。東丘陵では墓地が、西丘陵では集落が主に確認され、両者は性格の異なる一対の遺跡と考えられている。調査地は西丘陵の西側緩斜面に位置する。近隣調査として、南隣接地で 5 次調査が、北側約 50m の地点で 8 次調査が行われ、弥生時代後期を中心とする時期の集落が発見されている。

今回の調査では竪穴建物 2 棟、ピット約 10 基を検出した。攪乱が多く、また南側は削平を受けているため、全体に遺構の残りは不良である。削平をうけたピット（P-4）の底面から弥生時代終末～古墳時代初頭の甕が、竪穴建物跡に近接するピット（P-7）から弥生時代後期の小型甕が出土した。遺物はコンテナ 1 箱分（土器）である。

SC-1 は北側にベッド状遺構を有する竪穴建物で、北側壁とその周辺の一部のみ残存していた。北壁 の壁際溝は東側幅 0.5 m・西側幅 0.2 m、深さ 0.1 mを測る。ベッド状遺構は床面小溝で区画され主軸は N － 66° － W であり、竪穴建物の主軸もこの方向と推定する。柱穴はベッド状遺構内で 1 基確認され径 0.6 m深さ 0.6 mである。土層観察から貼り床ではなかった。壁面土層ではきれいに出ないが、壁は垂直に近い角度で立ち上がる。

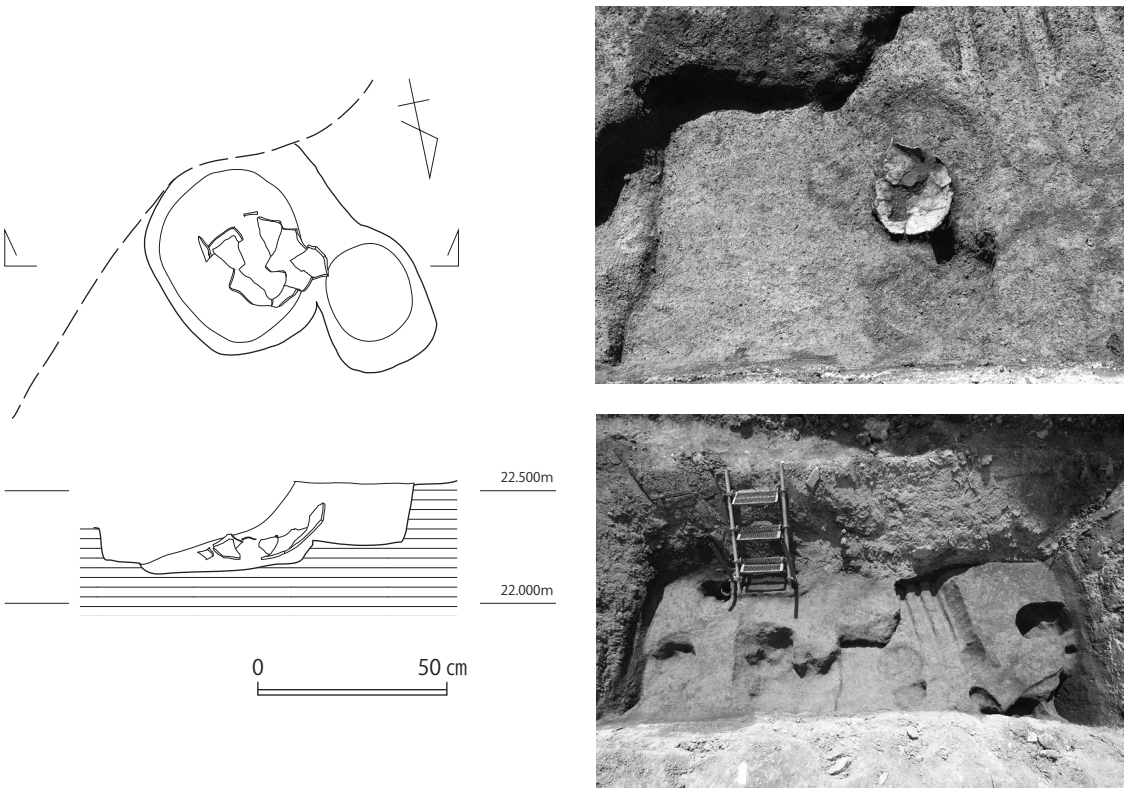
SC-2 は南壁の一部が削平をうけたためわずかに残っていた。南壁方位が N － 58° － W であり SC-1 北壁と 8°ず




南東壁土層注記

1層 表土　真砂土と2層との混合土。
2層 暗褐色土 粘性ややあり、しまりややあり。ローム上の堆積土。
3層 撹乱　4層と7層の混合。現代の遺物多く含む。
4層 黒褐色土 粘性ややあり、しまりややあり。赤褐色土・炭を少量含む。
5層 暗黄褐色土 しまり4層より低。7層が黒く汚れた土。住居址廃絶後の堆積。
6層 暗褐色土 しまり5層より高、4層より低。色調5層よりやや暗い。床面周囲をめぐる溝の埋土。
7層 明褐色土　ローム。地山で調査区では多く削平を受ける。SC-1 床面付近は径2～3㎜の小石を含む。
8層 黄褐色土　7層に黒褐色土が混ざる。撹乱の埋土。貼り床ではない。
9層 黒褐色土 粘性ややあり、しまりややあり 灰・炭・焼土を含む。住居址のカマドに伴うものか。
10層 暗黒褐色土　4層に似るが埋戻土か。

4. 調査区遺構実測図（S = 1/100）、南東土層図（S = 1/80）




5. 左：3 区 P-4 遺構実測図（S=1/20）、右上：3 区 P-4 遺物出土状況（北西から），右下：3 区調査区全景（北西から）

れることと、土層断面で SC-1 より 10㎝低いため別の竪穴建物とした。南壁に沿って壁際溝が確認されたが、ベッド状遺構はない。壁際溝の一部で焼土をまばらに検出した。カマドの上部が削平されたものか。柱穴は不明である。

P-4 は上部を削平されたピットで底面から古墳時代初頭の甕が出土した。SC-1 との関係は不明である。P-7 は SC-1 外側の北西に接する位置で確認され、埋土内から弥生時代後期の小型甕が出土している。

まとめ

弥永原遺跡のうち、弥生時代後期を中心とする時期の集落が発見された西側緩斜面部分の調査を行ったが、時期がわかるものは少なかった。遺構密度は集落中心部より低くなるが 5・8 次調査と同内 容の集落が調査地にも広がっていることが確認できた。

## 2006　那珂遺跡群 182 次（NAK-182）

所 在 地　博多区竹下 4 丁目 108 番、110 番、99 番の一部、那珂 1 丁目 700 番
調査原因　共同住宅建設
調査期間　2020.4.20 ～ 2020.9.30
調査面積　1,525㎡
担 当 者　中尾祐太
処　　置　記録保存

1．調査地点の位置（37　東光寺町　0085　S=1/8,000）

2．調査区Ⅰ区全景（北西から）

調査の概要

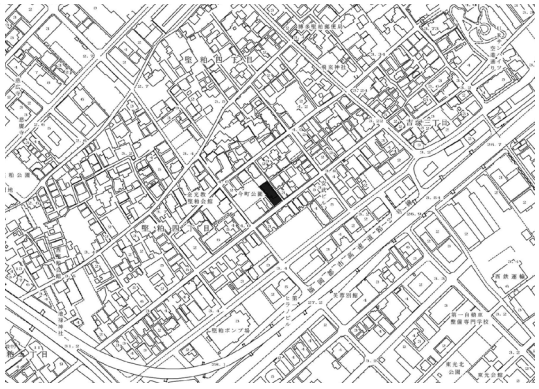
本調査地点は遺跡中央西端部に位置する。周辺では複数次の調査が実施されており，6 世紀末から 7 世紀代に属する九州最古級の瓦が出土することから、一帯には寺院、官衙等が展開していたことが想定されていた。

本調査地点においても各遺構から上記の瓦が多量に出土した他、瓦を一括で廃棄した土坑を 2 基検出した。わずかに出土した土器から 7 世紀半ば～後半と考えられるが、瓦の中にはいわゆる「神ノ前タイプ」と呼称される最古段階のものも含んでいる。この土坑に近接して倉庫と考えられる総柱建物が検出されているが、柱掘方には瓦を含むことから、瓦廃棄以後の建物と考えられ、周辺における中心的な性格が継続していたものと推定できる。このことは出土遺物にも表れており、10 ～ 11 世紀の井戸からは邢窯系白磁碗が出土している。

その他、弥生時代後期の土坑からは小銅鐸が出土した。

## 2007　吉塚遺跡 17 次（YSZ-17）

所 在 地　博多区堅粕 4 丁目 345-1、345-2、345-3、388-2
調査原因　共同住宅建設
調査期間　2020.5.11 ～ 2020.6.10
調査面積　166.6㎡
担 当 者　木下博文
処　　置　記録保存


1．調査地点の位置（36　博多駅　0123　S = 8,000）

2．調査区北半全景（南東から）

調査の概要

吉塚遺跡は、御笠川の東岸、博多湾岸に並ぶ砂丘群の一画に立地する弥生時代から中世の集落跡で、標高 4 m である。

今回の調査地点は遺跡中央部のやや南西寄りに位置し、西隣の区画では 2 ・ 3 ・ 16 次調査が実施されている。

遺構は現地表面から 50cm 下の黄褐色砂丘面で検出し、弥生時代中期前半～中葉の甕棺墓 6 基のほか、溝、井戸、土坑、近世の瓦組井戸を検出した。

出土遺物は弥生土器、須恵器、土師器などコンテナ 24 箱分である。

吉塚遺跡内における弥生時代の甕棺墓は、過去に確認調査で中期初頭の金海式甕棺が検出されている。本調査における検出は今回が初であり、同遺跡内における弥生時代の集落域と墓域の関係を知るうえで貴重な成果となった。

## 2008　博多遺跡群 240 次（HKT-240）

所 在 地　博多区店屋町 62 番 3、62 番 4、63 番 2、64 番 1、64 番 2、64 番 3
調査原因　オフィスビル建設
調査期間　2020.5.13 ～ 2020.9.18
調査面積　214.5㎡
担 当 者　赤坂亨
処　　置　記録保存

1．調査地点の位置（49　天神　0121　S = 8,000）

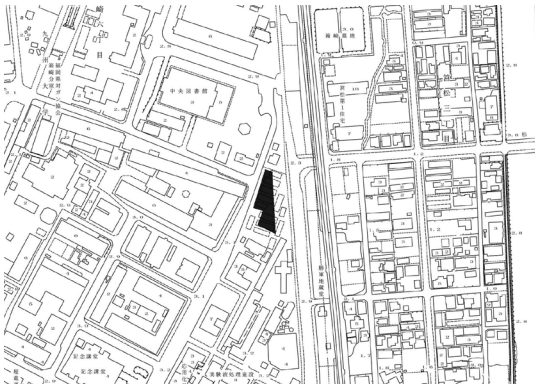
2．2 区第 3 面全景（北東から）

### 調査の概要

博多遺跡群は御笠川・那珂川の河口部により形成された砂丘上に立地する遺跡で、調査地点は博多遺跡群のうち博多浜と息浜の砂丘が陸橋上に接続する部分の博多浜側の南東緩斜面上に位置する。調査区第 1 面は標高 3.6 mで近現代の遺構を検出した。第 2 面は標高 3.0 m前後で中世後半である。最下層では砂丘面を確認し、調査区東側の砂丘が最も高く標高 2.8 mで、北西に向かって傾斜し、西側では標高 2.2 ～ 2.0 m。中世前半が大半で第 3 面とした。また、砂丘面の一部には奈良・平安時代の遺構および整地層を検出し第 4 面とした。標高 2.0m 以下。遺構総数は井戸・土坑・溝 89 基、ピット 107 基。古代～近世の土器、須恵器、陶磁器、瓦、金属製品等がコンテナケース 75 箱分出土した。周辺調査と同様に，近世～近代の博多の町の遺構，中世の集落および町割りの痕跡，古代の集落の一部が広がっていたことが確認された。

## 2011　箱崎遺跡 108 次（HKZ-108）

所 在 地　東区箱崎 6 丁目 10-1
調査原因　都市計画道路建設
調査期間　2020.5.1 ～ 2020.7.7
調査面積　542㎡
担 当 者　阿部泰之
処　　置　記録保存


1．調査地点の位置（33　貝塚　2639　S = 8,000 ）

2．2 区木棺墓（南から）

### 調査の概要

箱崎遺跡は福岡市の中央部、西に博多湾を臨み、東を宇美川に限られる砂嘴状の砂丘上に位置する。今回の調査地は遺跡の北部、九州大学旧箱崎キャンパス跡地の内部である。遺構面は現地表面下－ 1.6 ～ 1.3 m、標高 1.4 ～ 2.0 mの明褐～灰白色砂上である。

今回の調査で検出した遺構は、井戸 6 基・土壙 2 基・柱穴・ピットである。井戸は 1 基が幕末～近代、それ以外は 15 世紀代と考えられる。土壙のうち 1 基は完形の龍泉窯系青磁碗や鉄釘が出土していることから木棺墓と考えられる。

今回の調査では鎌倉～室町期の井戸・土壙・柱穴を検出した。室町期の井戸は 5 基のうち 4 基が切り合っており，改修を繰り返しつつ使用されたことがわかる。土壙からは 12 世紀後半～ 13 世紀までの遺物が出土しており，調査地周辺に集落が拡大した時期を示すものと考えられる。

# 2009　中村町遺跡第 9 次調査（NMM-9）

所 在 地　南区野間野間 3 丁目 179 番の一部
調査原因　宅地造成
調査期間　20200513 ～ 20200528
調査面積　90.65㎡
担 当 者　久住猛雄、中園将祥
処　　置　記録保存

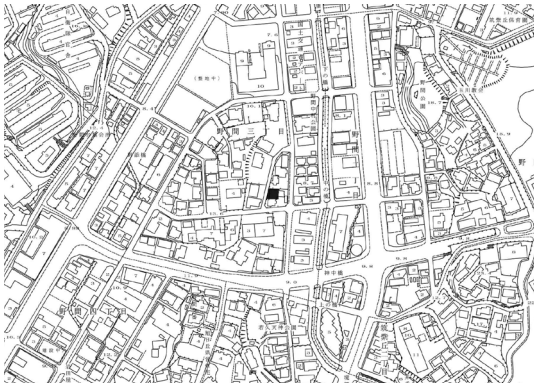


Fig. 1．調査地点の位置（51　高宮　0167　S = 8,000）

## 調査の概要

### 1．位置と環境

中村町遺跡は、片縄山から北に延びて警固丘陵に達する第三紀層を基盤とした丘陵上に立地している。この丘陵は地形的に、樋井川流域と那珂川流域を分けている。中村町 9 次調査地点は、丘陵上に広がる遺跡範囲の北半中央東斜面に位置する（Fig.1・2）。調査地の東側 55m には若久川が北流する。なお 10 次調査は調査当時の同一敷地内の南側にあたる。調査地は後世の造成を受け、西側道路面との間には約 1.5m の段差があり、調査地側がかなり削平されている印象を受ける。現況の地表面は、9 次調査区東側で標高 8.85m 前後、西側で 9.0m 前後である。

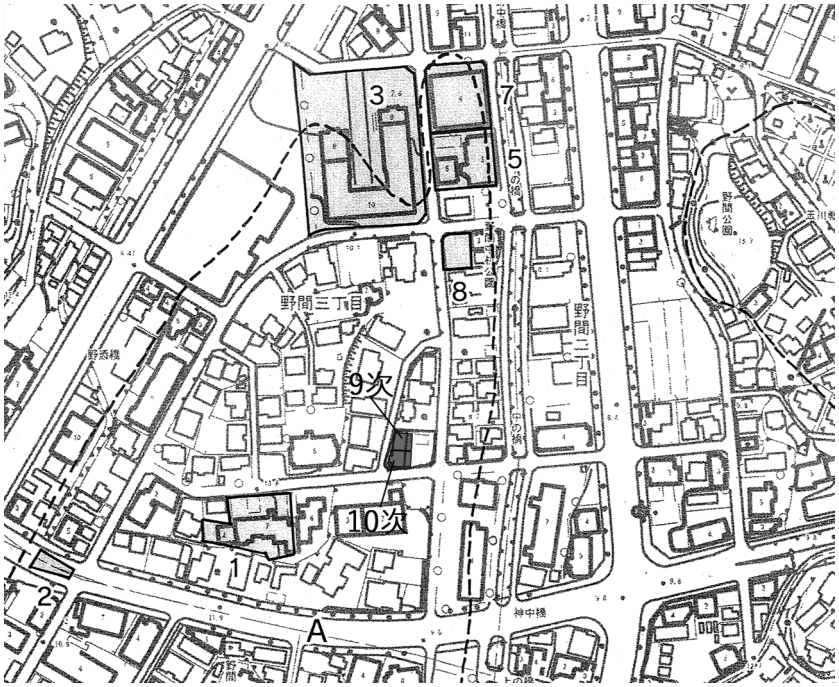


Fig.2　中村町遺跡北半部の調査地点位置図（S =1/4,000）

### 2．調査の概要

調査は、予定される盛土造成が試掘調査により確認された遺構検出面から 2m 以上となるため、調査当時の同一敷地のうち北西約 1/4 の盛土造成予定範囲を対象として行われた。ただし実際には隣地境界との安全確保のため、敷地境界から若干引きを取った範囲を掘削して発掘調査を行った（Fig.3）。また引き続いて実施した 10 次調査とは、遺構面における実質調査範囲の確保のため、やむを得ず調査区上端に若干の重複を生じている。調査区の座標は任意座標であるが、付近の国土座標基準点から国土座標（世界測地系）を移動して調査区の位置を求めている。また標高は、国土座標基準点の標高を移動して用いている。遺構は現況地表下 120㎝前後の黄褐色粘質シルトないし砂層の上面で検出した（Fig.4）。地表下 100㎝前後で最近の造成前の水田層があり、その下の遺構面は遺構の遺存状況から顕著な削平を受けていると考えられるので、この水田層は東側の若久川に沿って新田開発された痕跡であろう。遺構の遺存（深さ）は全体に極めて浅い。検出遺

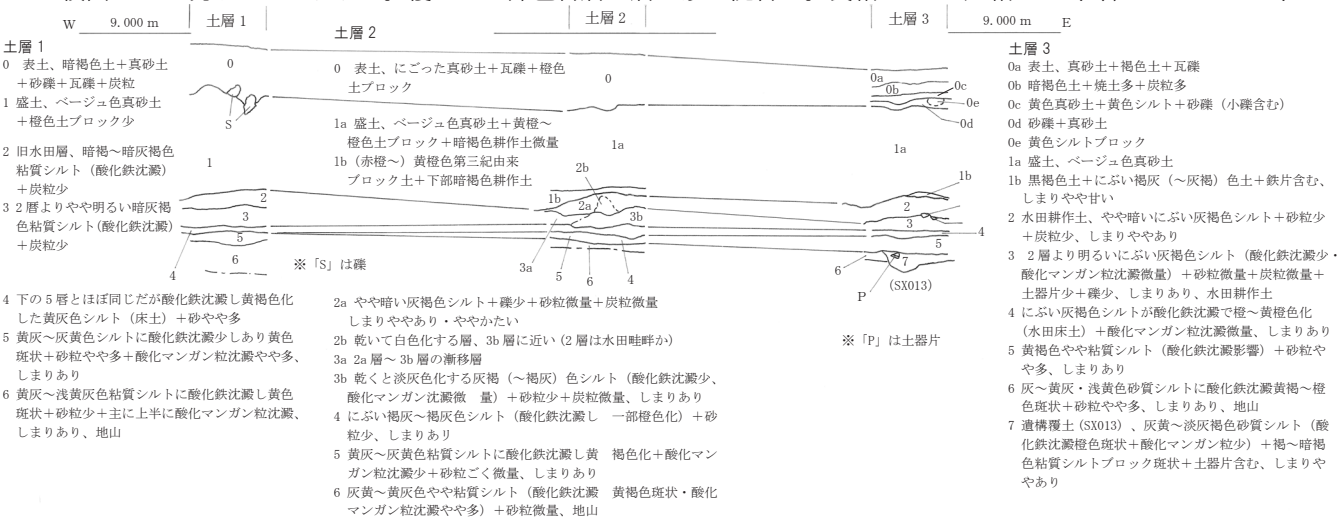
Ph.1　中村町遺跡 9 次調査状況全景（東から）

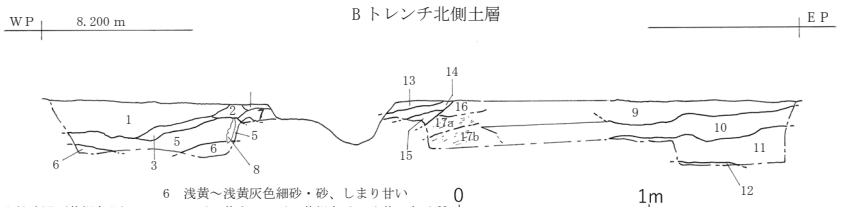
構は、溝状遺構 3、土坑？ 1、その他柱穴の可能性があるピットである。

３．検出遺構（Fig.5）

SD010 は、調査区東縁中央で検出した長さ 1.88m、幅 20 ～ 28㎝、深さ 8㎝以内のの溝状遺構（断面は Fig.6「f1-f2」「g1-g2」）。ほぼ南北方位。覆土は検出面上部の包含層（Fig.4 の土層図参照）に近い。溝の南端はピット状になるが、東に屈曲するようにみえる。おそらく竪穴住居（竪穴建物）の壁周溝の残存である。出土遺物は無かった。SX002 は、SD010 の南西で検出した長さ 1.16m、最大幅 23㎝、深さ 6㎝以内の溝状遺構で、底面が一部ピット状となる（断面は Fig.6「f1-f2」「g1-g2」）。SD010 と同様にほぼ南北方位である。これも推測だが、おそらく竪穴住居の壁周溝の残存であろう。覆土は SD001 と同様である。出土遺物は無い。SX001 は調査区西側中央で検出した、長さ 2.05m、幅 10 ～ 45㎝、深さ数㎝足らずの溝状遺構ないしその重複（断面は Fig.6「b1-b2」「c1-c2」）。方位は N-65° -W。これも推測であるが、竪穴住居の壁周溝の残存と考える。遺物は土器細片があった。SK015 は調査区中央 B トレンチ設定箇所上部で検出した土坑ないしピットで。覆土は上部包含層土層と砂の混合土。長軸 75㎝×短軸 60㎝、深さ 20 ～ 27㎝、

Fig.3　中村町 9・10 次調査敷地図・調査区全体図（S=1/300）




Bトレンチ北側土層説明

1　浅黄灰色やや粘質シルトに酸化鉄沈澱（黄褐色化）＋砂粒少＋酸化マンガン粒沈澱少、・しまりあり
2　浅黄灰色砂質シルトに酸化鉄沈澱（黄褐色化）＋砂粒含む、しまりあり
3　浅黄灰～灰色砂質シルト～細砂＋砂粒含む、1 層と 5 層の漸移層、しまりややあり
4　灰白～浅黄色砂・粗砂、しまりややあり
5　灰白～浅黄色細砂（～砂質シルト）＋粗砂含む、しまりやや甘い（～ややあり）
6　浅黄～浅黄灰色細砂・砂、しまり甘い
7　にぶい黄白～にぶい黄褐色砂＋浅黄灰色砂質シルト＋粗砂含む、しまりあり
8　5 層に酸化鉄・酸化マンガン沈澱、しまりありかたい（根痕？）
9　16 層と同じ浅黄灰～灰色・浅黄色砂質シルト（酸化鉄沈澱し黄褐色斑状・筋状）＋砂・粗砂含む＋酸化マンガン粒沈澱少、しまりあり
10　3 ～ 5 層とほぼ同じ＋粗砂やや含む、酸化鉄沈澱影響（黄褐色斑状・筋状）
11　灰白～浅黄色砂・粗砂（砂＞粗砂）、しまりややあり
12　にぶい黄灰～浅黄色粗砂・砂（粗砂＞砂）、しまりややあり
13　浅黄灰～黄色砂質シルトに酸化マンガン沈澱多く黒褐色斑状化＋砂・粗砂混合層、しまりありかたい、擬似畦畔状
14　にぶい褐・黄褐～浅黄色砂・粗砂（酸化マンガン粒沈澱）、しまりあり
15　黄～浅黄色砂・粗砂、しまりややあり～やや甘い
16　浅灰黄～浅黄色砂質シルト＋砂・粗砂、しまりややあり～あり
17a　5 層にほぼ同じ＋粗砂やや多、しまりやや甘い
17b　5 ～ 8 層にほぼ同じ、しまりやや甘い～甘い

Fig.4　中村町 9 次調査区北壁土層図およびトレンチ土層図（S=1/40）

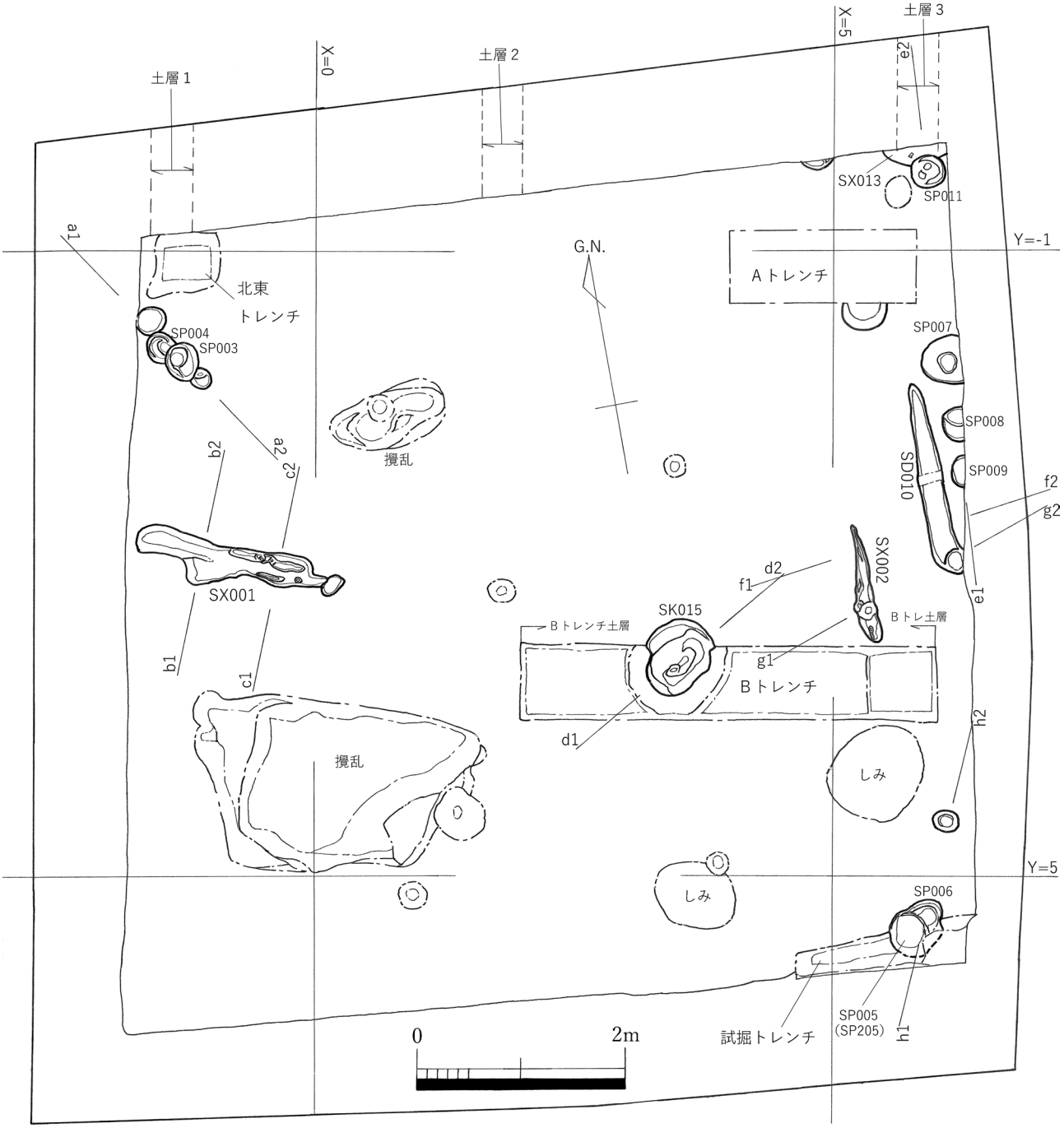
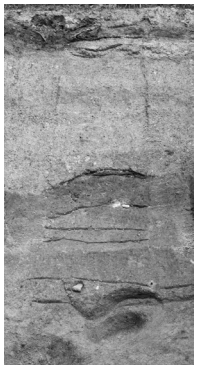



Fig.5　中村町 9 次調査区全体図（S=1/60）

Ph.2　B トレンチ北側土層状況（南から）

Ph.3　北側土層 1

Ph.4　北側土層 2



Ph.5　北側土層 3

方位は N-60° -E（断面は Fig.6「d1-d2」）。出土遺物は無く、時期不明。SP005 は調査区南東隅で検出したが、10 次調査側の SP205 と同一（ただし 10 次調査時の掘削と微妙に合致しない）。覆土は暗褐色土で極暗褐色土を含む土層。径 45㎝× 52㎝前後、深さ 50㎝の柱穴である（断面は Fig.6「h1-h2」）。竪穴住居の主柱穴などの可能性がある。北東側の SP006 とは重複すると考えたが、あるいは同一柱穴で、SP005 が「柱抜き痕」の可能性もある。

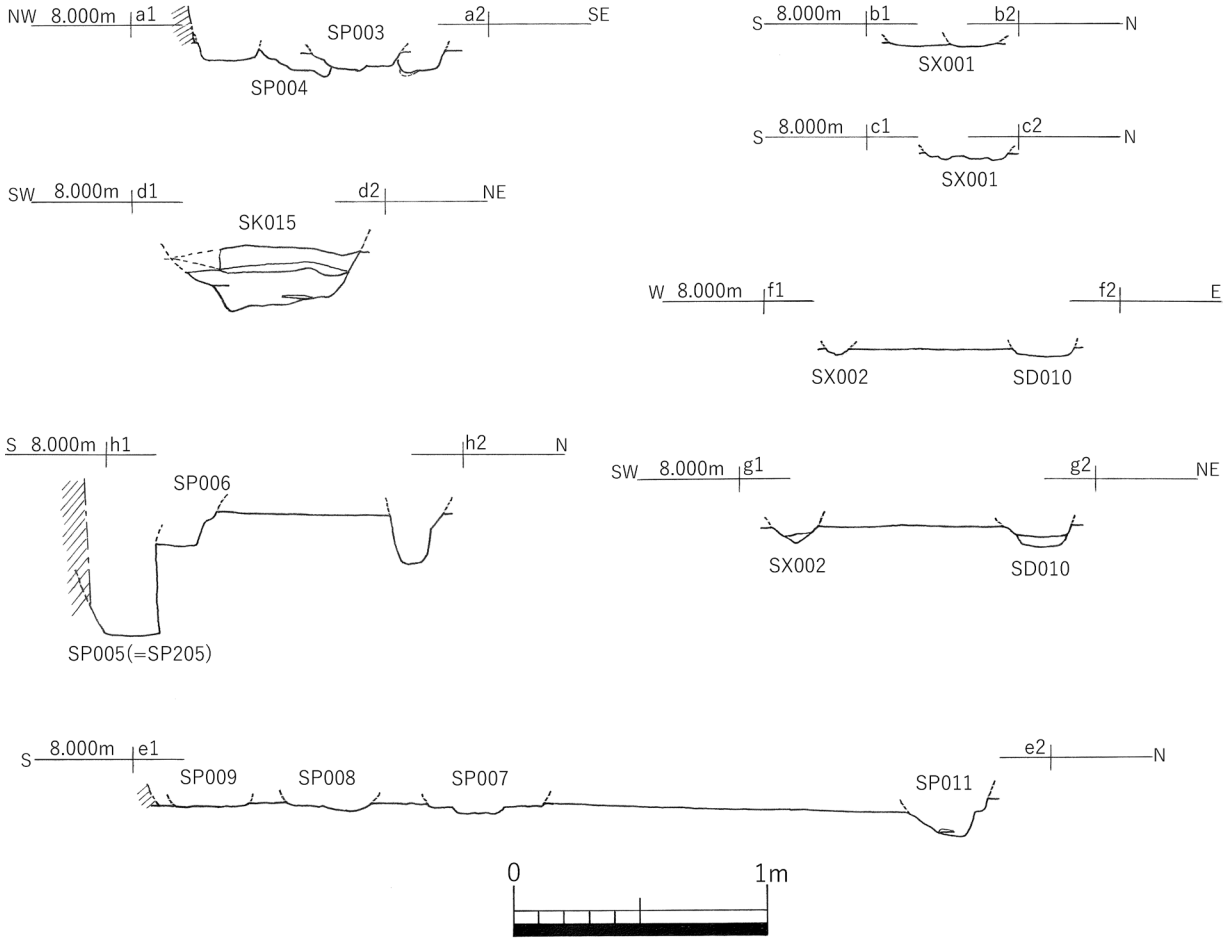
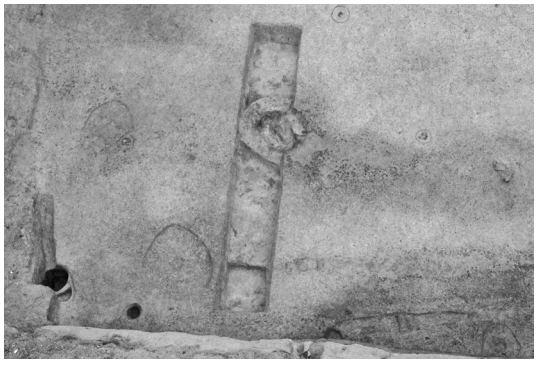



Fig.6　遺構断面図（S=1/30）　※断面位置は Fig.5 参照



Ph.6　調査区南東側遺構掘削状況（東から）

Ph.7　SP007 ～ 009、SP010，SK002 掘削状況（西から）

4．出土遺物

本調査では、総量にしてパンケース 1 箱未満の遺物が出土した。弥生土器および古墳時代後期から飛鳥時代と思われる土師器と須恵器があるが、いずれも小片である。図示できたものはわずかである（Fig.7）。1 は試掘トレンチ埋め戻し土から出土した須恵器大甕の胴部片で、外面タタキ、内面は当具痕。2 は土師器の甕の底部付近の破片である。ほぼ丸底で、内面は摩滅しているがおそらくヘラケズリ。いずれも古墳時代後期～飛鳥時代であろう。

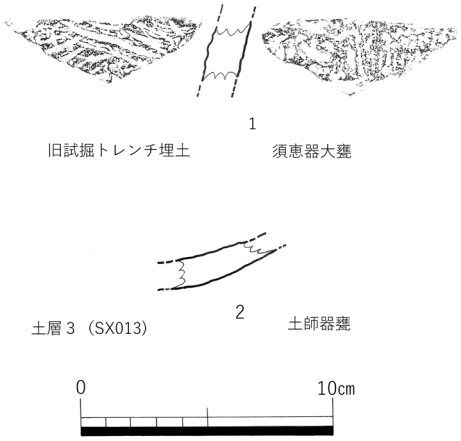


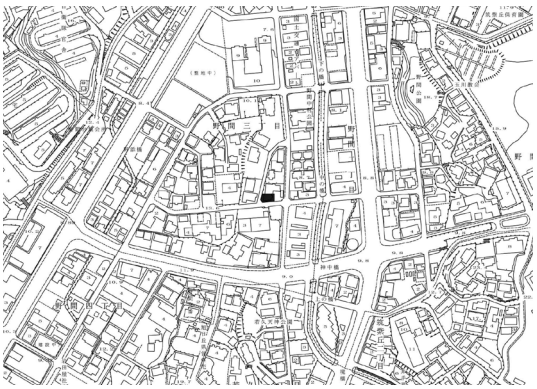

Fig.7　中村町 9 次調査出土遺物（S=1/3）

5．まとめ

検出遺構のうちいくつかは竪穴住居の壁周溝の可能性がある。調査地点西側の丘陵頂部の 1 次調査では古墳時代後期から飛鳥時代の集落跡が検出されており、9 次調査でも前後する時期の集落跡の広がりを検出したとみられる。

# 2010　中村町遺跡第 10 次調査（NMM-10）

所 在 地　南区野間 3 丁目 179 番の一部
調査原因　宅地造成
調査期間　20200601 ～ 20200626
調査面積　110.44㎡
担 当 者　久住猛雄
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（51　高宮　0167　S = 8,000）

Ph.1　中村町遺跡 10 次調査状況全景（東から）

調査の概要

1．調査に至る経緯

1．位置と環境

中村町遺跡の位置と環境については、前項の「2009 中村町遺跡第 9 次調査」を参照されたい。中村町第 10 次調査は、第 9 次調査と同じ敷地内の南側隣地にあたる（中村町 9 次報告 Fig.3）。調査区は、廃土処理の都合上、北側で 9 次調査と重複する部分が生じている。9 次調査と同様に、西側に高さ 1.5m 前後のブロック塀があり西側が高く、原地形からかなり造成され、調査区側が削平されていることが予想される。調査区西側の現地表面の標高は 9.25 m（南西）～ 9.0m（北西）前後、東側は 8.9 m前後、西側道路の標高は 10.5 ～ 10.7 m前後である。

2．調査の概要

調査は、9 次調査と同様に予定される盛土造成が試掘調査により確認された遺構検出面から 2m 以上となるため、調査当時の同一敷地のうち南西約 1/4 の盛土造成予定範囲を対象として行われた。ただし実際には隣地境界との安全確保のため、敷地境界から若干引きを取った範囲を掘削して発掘調査を行った（中村町 9 次報告 Fig.3）。また先に実施した 9 次調査とは、遺構面における実質調査範囲の確保のため、やむを得ず調査区上端に若干の重複を生じている。調査区の座標は任意座標であるが、付近の国土座標基準点から国土座標（世界測地系）を移動して調査区の位置を求めている。また標高は、国土座標基準点の標高を移動して用いている

遺構は現況地表下 120㎝前後の黄褐色粘質シルトないし砂層の上面で検出した（本報告 Fig.3）。基本土層は 9 次調査とほぼ同じである。検出遺構は、溝状遺構 2、土坑 2、その他柱穴になる可能性があるピットである。

3．検出遺構（Fig.2）

SK201 は調査区南西側で検出した長軸 144㎝、短軸最大幅（中央やや東側）92㎝～中央 85㎝前後の不整楕円形、深さ 45㎝、断面Ｕ字状の土坑（Fig.4,Ph.6 ～ 10）。長軸方位は N-75° -E。中央やや西側上層下部に土器が一括して出土した（Ph.6 ～ 8）。調査途中で豪雨があり、雨水で上部の壁が流失し完掘時には一回り大きくなってしまったが（Ph.10）、図面上では当初検出の上端ラインで修正している。土層を見ると（Fig.4 右）、33 ～ 35 層の存在から、掘り返しもしくは木枠ないし側板のようなものがあった可能性もある。底面は湧水がみられ。底面中央に凹みがあることも考慮すると、「井戸」であった可能性もある。出土遺物（Fig.8-3 ～ 9）は、上層・下層ともに古墳時代後期前葉（須恵器の MT15 型式期）の幅におさまり、遺構の時期も同様だろう。SK202 は調査区南西側、SK201 の北西 1.1 mで検出した東西 78㎝×南北 70㎝、深さ 12㎝の略円形土坑（Fig.5、Ph.11・12）。浅い土坑だが、土器片が若干出土した。中央には弥生土器片（Fig.8-1）、中央やや西側検出面直下には土師器片（Fig.8-2）が出土した。時代の異なる遺物であるのは明らかで、弥生土器片は表面の摩滅度が大きく混入であろう。遺構の時期は土師器片（古墳時代後期）が示している。ただし、削平された遺構に弥生時代後期前葉頃のものがあったことが示唆される。SD208 は調査区北東で検出した長さ 2.95m（北端の小ピットは除き、南端のピットは含める）、最大幅 67㎝、深さ 15㎝以内の溝状遺構（Fig.2）。方位は N-7° -W。底面に凹凸とピットの重複があるが（断面は

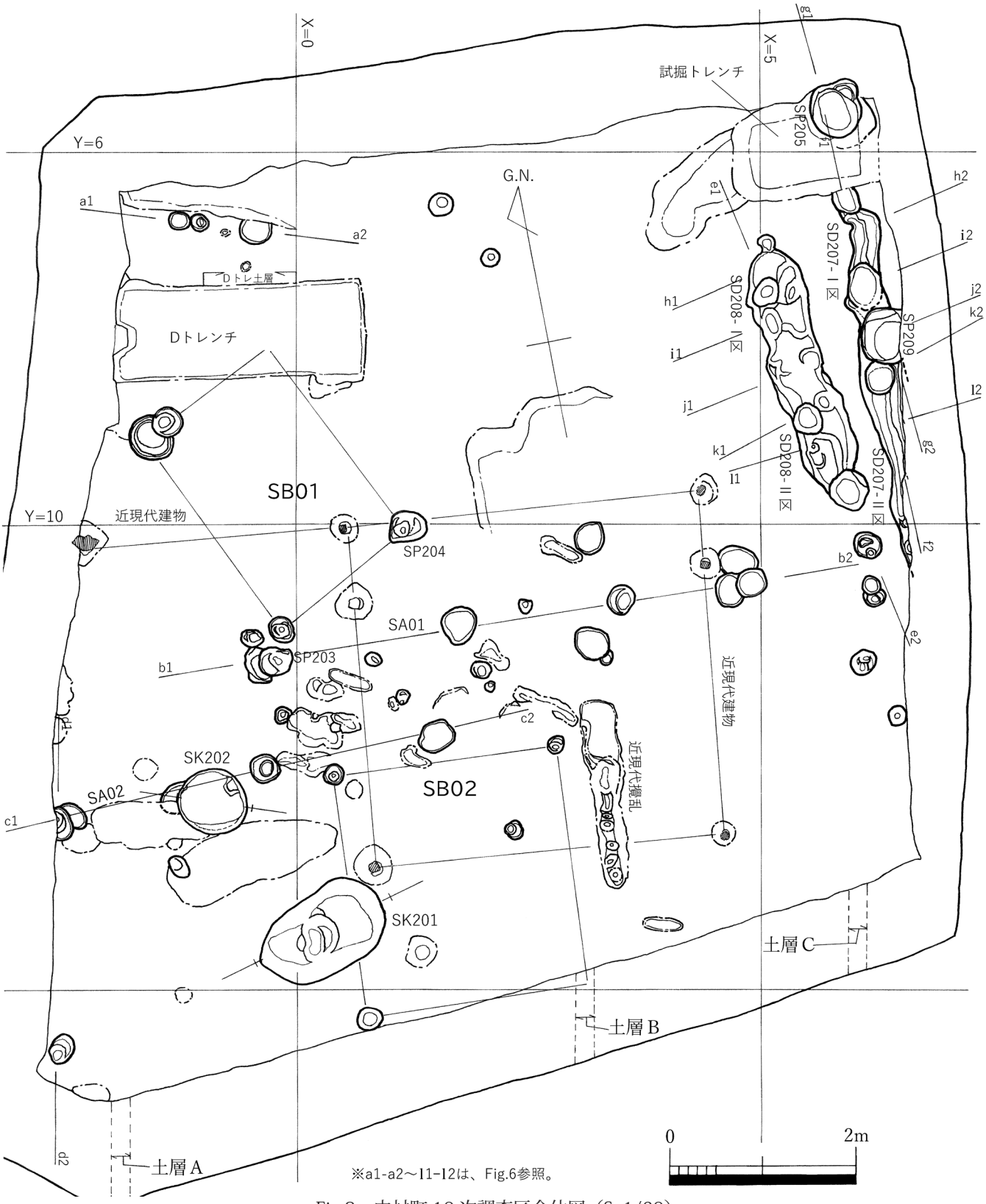



Fig.2　中村町 10 次調査区全体図（S=1/60）

Fig.6「e1-e2」「h1-h2」～「l1-l2」）、重複するピットはあるいは同時存在の可能性もある。おそらくなんらかの区画溝だろう。遺物は僅かに出土したが、図示できるものに須恵器片があり（Fig.8-11）、古墳時代後期前葉（MT15 期）頃である。SD207 は SD208 の東側でおよそ平行して検出した溝状遺構（Fig.2）。南側は調査区外に延び、北側はピットに切られる。長さ 3.9m 以上、幅 50㎝以内（東側が調査区外になる部分が多く推定）、深さは最深 12㎝だがそれは重複ピットの箇所で他は 6㎝前後と浅い（断面は Fig.6「f1-f2」～「l1-l2」）。重複ピット部分を除くと SD208 と異なり底面の凹凸は少なく、幅も狭いので、竪穴住居の壁周溝の残存の可能性もある。その場合遺構

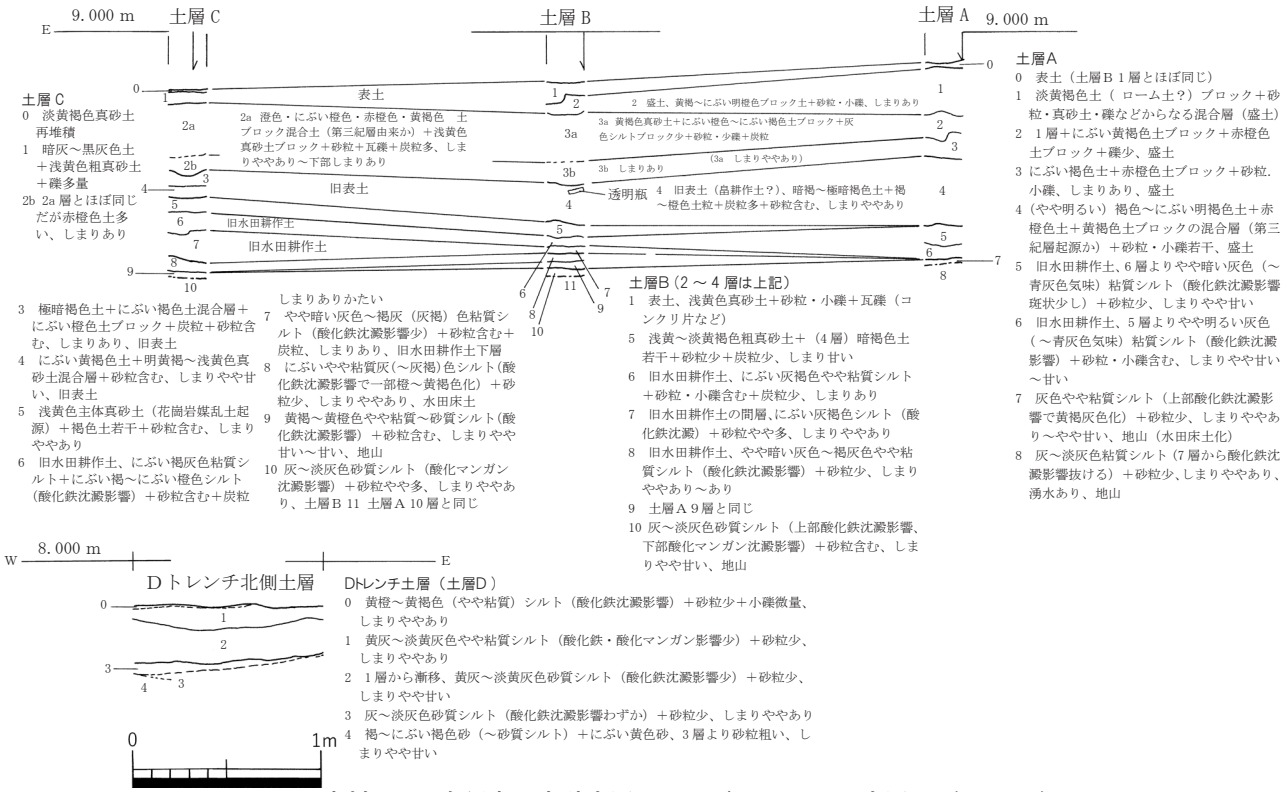
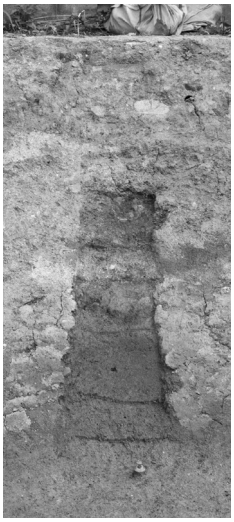



Fig.3　中村町 10 次調査区南壁土層図および D トレンチ土層図（S=1/40）

Ph.2　中村町遺跡 10 次調査状況全景（北から）

Ph.3　D トレンチ北側土層状況（南から）



Ph.5　南壁土層 C

Ph.4　南壁土層 A

は東側に広がるか。方位は N-1° -E で、SB02 に近い。遺物の出土は少ないが、須恵器片があり（Fig.8-10）、古墳時代後期後葉（TK43 期＝Ⅲ B 期）頃と考えられる。SB01 は調査区中央西側で推定した 1 × 1 間の掘立柱建物（Fig.7 上）。1.7m × 2.54m、方位は N-26° -W。強いて言えば SK201 の長軸方位の直交に近い。遺物はほとんどないが、おそらく古墳時代後期。SB02 は調査区な中央南側で推定した 1 × 1 間の掘立柱建物（Fig.7 下）。2.42m × 2.66m、方位は N-2.7° -E。SD207 の方位に近い。遺物はほとんどないが、古墳時代後期か。SA01 は調査区中央で東西に並ぶ､4 柱穴 3 間のピット列(断面は Fig.6「b1-b2」)。長さ 5.2 ～ 5.4m 前後。N-87.5° -W の方位で、SD207 の直交方位に近い。SA02 は SA01 の南側にある､3 柱穴 2 間のピット列(断面は Fig.6「c1-c2」)。長さ 4.3m 前後、方位は N-87° -E で、SD208 の直交方位に近い。SP205 は 9 次調査 SP005 と同一のやや大型の柱穴だが、10 次調査側で完掘したもの（Fig.2、Ph.16）。試掘トレンチにかかっているので浅くなっているが、本来の遺構検出面からの深さは 51㎝で（断面は Fig.6「g1-g2」)、平面規模も径 70㎝前後での検出だが、本来は一回り大きく

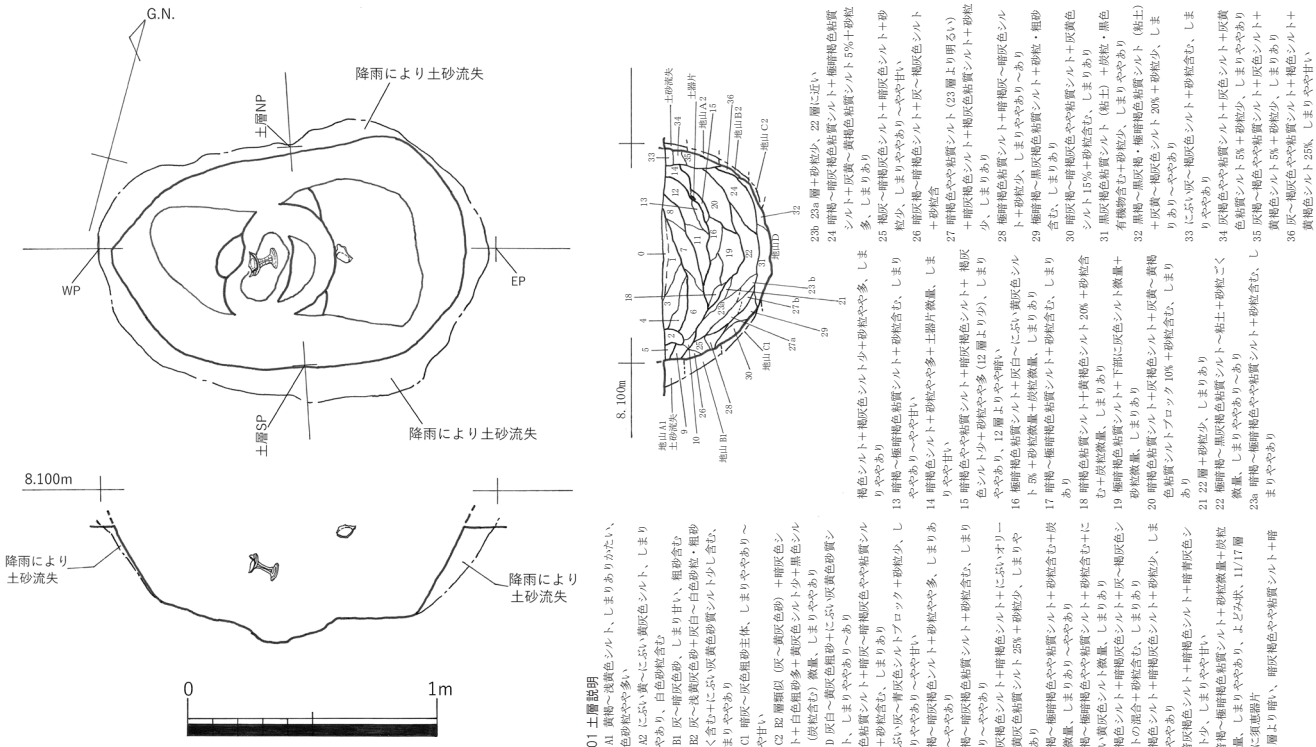
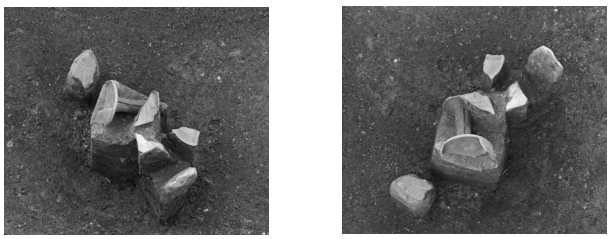



Fig.4　SK201 実測図および土層断面図（S=1/30）

Ph.6　SK201 遺物出土状況（北西から）



Ph.7・8　SK201 遺物出土状況近影（南東から / 北東から）

Ph.9　SK201 ベルト土層状況（北東から）

Ph.10　SK201 掘削状況・高坏出土状況（南東から）

※雨天時に上部流出し拡張

なるものである。SP209 は SD207 を切るとみられるやや大型の柱穴（Ph.15）。径 60㎝前後、深さ 46㎝（断面は Fig.6「f1-f2」「g1-g2」「j1-j2」）。土層を観察すると廃絶時に柱を抜いた可能性が高い。SP205 と SP209 は似た雰囲気の柱穴であり、この両者で組み合って削平された竪穴住居の主柱穴または掘立柱建物の一部になる可能性もあろう（2 柱穴の断面は Fig.6「g1-g2」）。なおこの 2 柱穴を結んだラインの方位は N-2.5° -W で、SA02 に近い。

## 4．出土遺物（Fig.8）

本調査では、パンケースにして総量 2 箱程度の遺物が出土した。弥生土器、土師器、須恵器の破片があるが、

古墳時代後期から飛鳥時代の土師器、須恵器が主体である。そのうちいくつかを Fig.8 に示した。1 は SK202 出土の弥生土器だが、形態からみて弥生時代後期前葉の壺である。器表面は全体的に摩滅している。また図示していないが焼成剥離痕とみられる部分がある。2 は SK202 出土の土師器の甕。器面が摩滅気味で内外の調整が不明確だが、外面はおそらくタテハケ、内面はヘラケズリか。外面にわずかに煤痕跡がある。3 ～ 9 は SK201 出土の須恵器と土師器。上下層に出土は分かれるが、須恵器は型式的に上下層ともに MT15 期。3 は MT15 の典型的な長脚一段透かしの高坏。青灰色気味の暗灰色。5 は小型だが、おそらく高坏形器台の脚台部で、裾部に丁寧な櫛描波状文がある。明灰色で 3 の高坏とは生産窯が異なるか。4 は鼈の可能性も考えたが、想定法量などから壺とした。8 は土師器の小型甕としたが、鉢の可能性もある。9 は比較的精製の土師器椀状坏。6,7,11（11 は SD208）は微妙に形態の差異があるが MT15 期の坏蓋のバラエティでよいだろう。10（SD207）はそれらより明らかに後出する型式の坏蓋で、TK43 期（Ⅲ B 期）。

## 5．まとめ

遺構の遺存状況は良くなかったが、北側 9 次調査と同様に、主に古墳時代後期の遺構と遺物を検出した。西側丘陵頂部の 1 次調査付近から、丘陵西側斜面には古墳時代後期前後の集落が広がっていることが明らかになった。

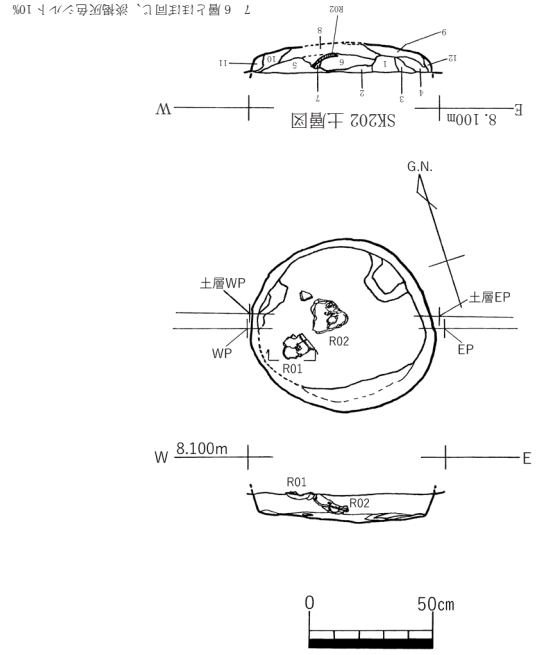
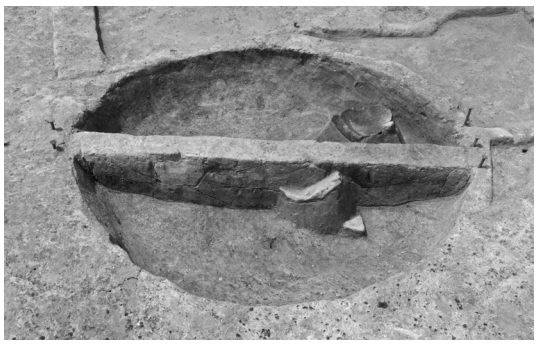
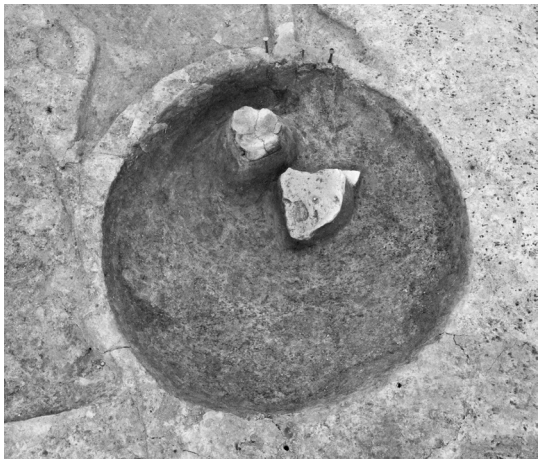



Fig.5　SK202 実測図および土層断面図（S=1/30）



Ph.11　SK202 ベルト土層状況（北から）

Ph.13　調査区北東側 SD207・SD208 ほか掘削状況（東から）



Ph.12　SK202 遺物出土状況（南から）

Ph.14　調査区北東部 SD207・SD208 ほか掘削状況（南西から）

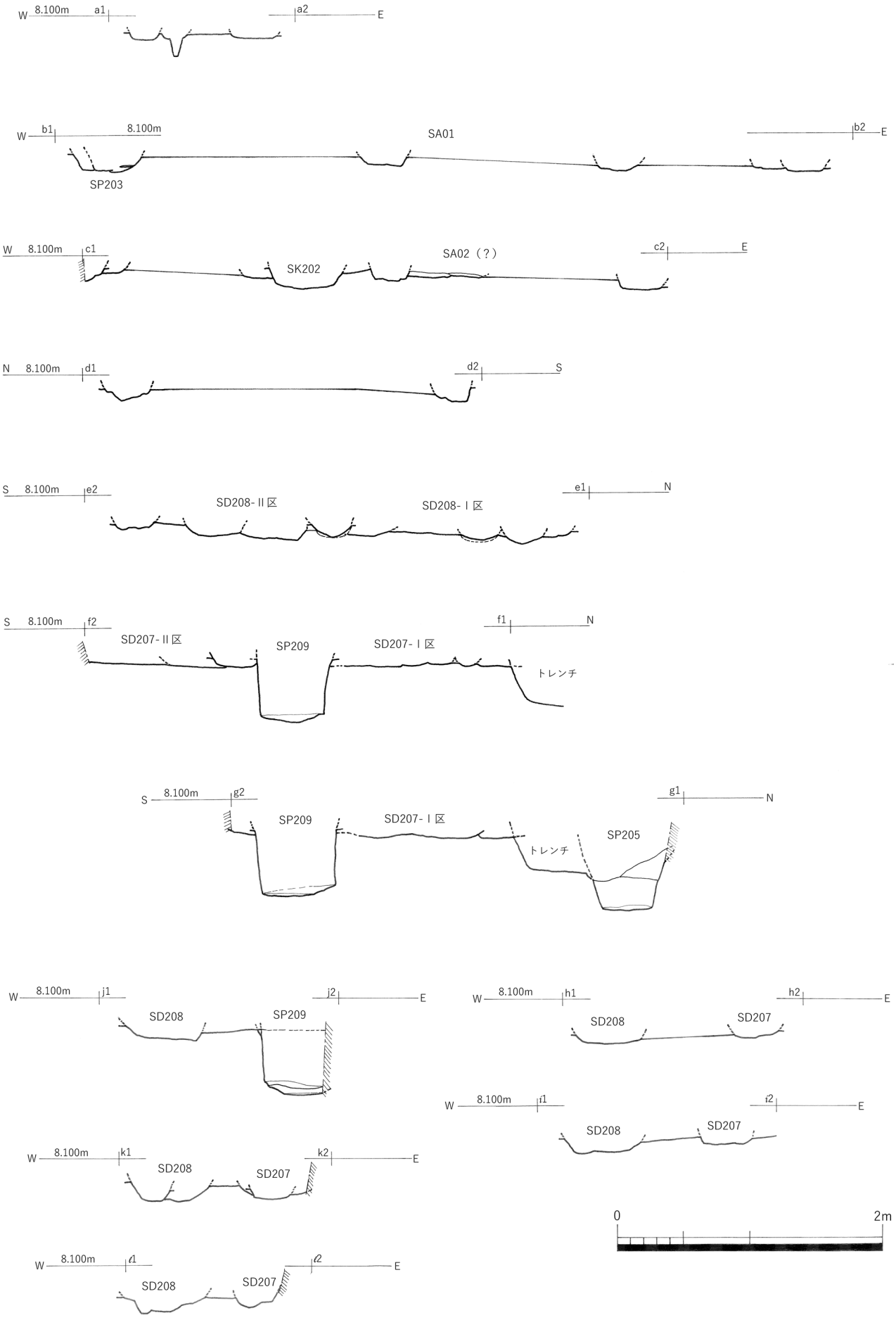



Fig.6　遺構断面図（S=1/40）　※ A1 － A2 ～ L1 － L2 の位置は Fig.2 参照

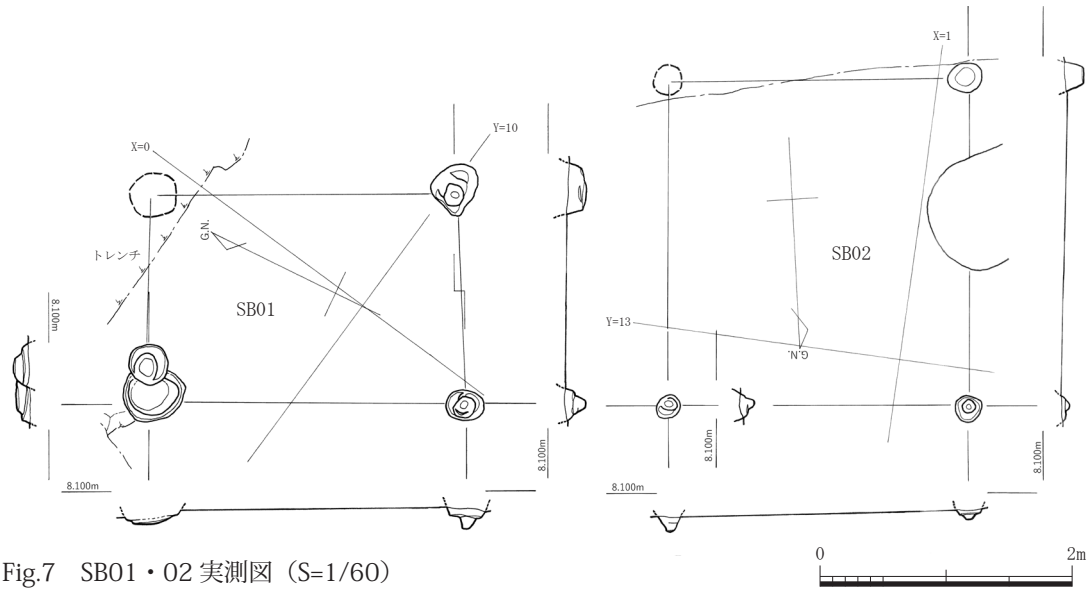
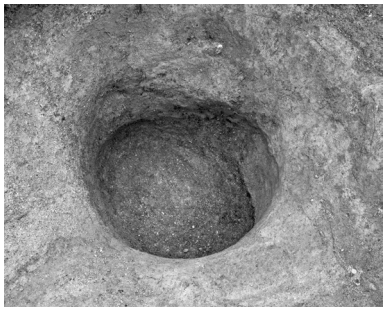



Fig.7　SB01・02 実測図（S=1/60）

Ph.15　SP209 土層状況（西から）



Ph.16　SP205 完掘状況（南西から）

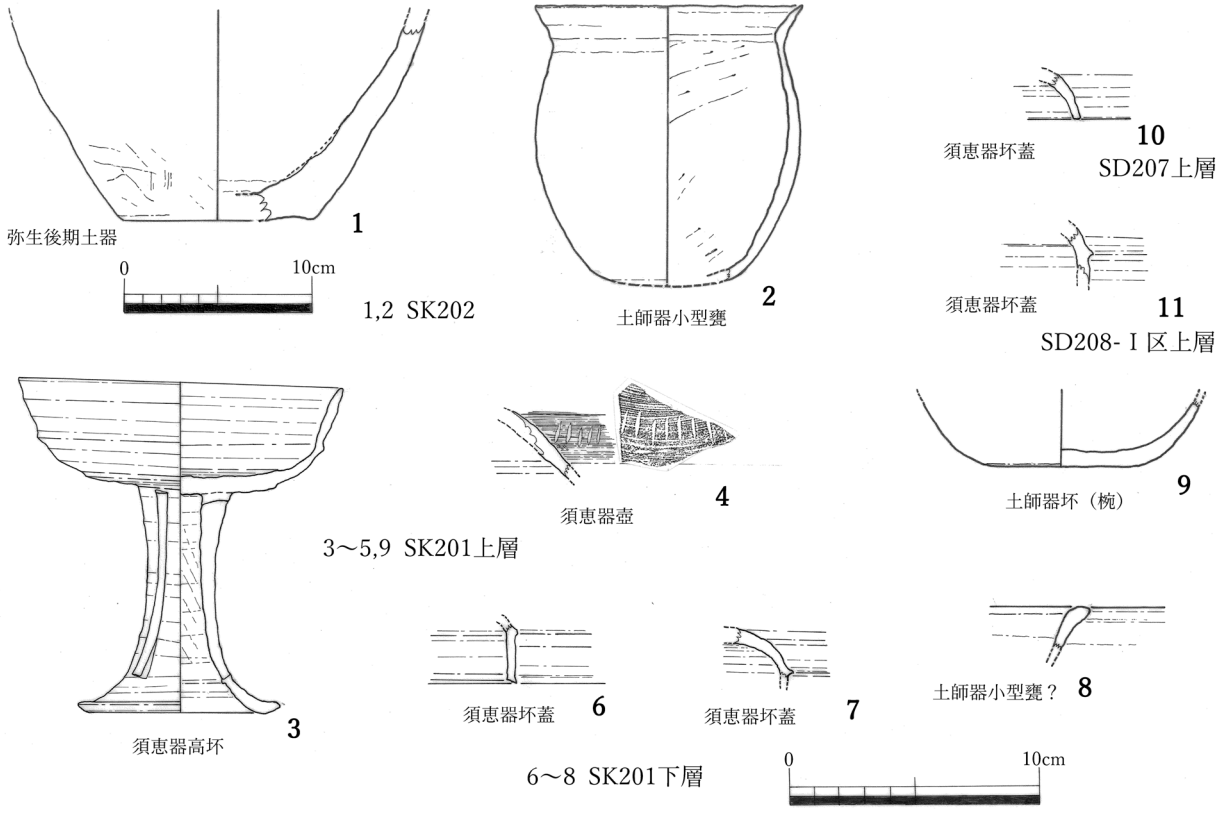
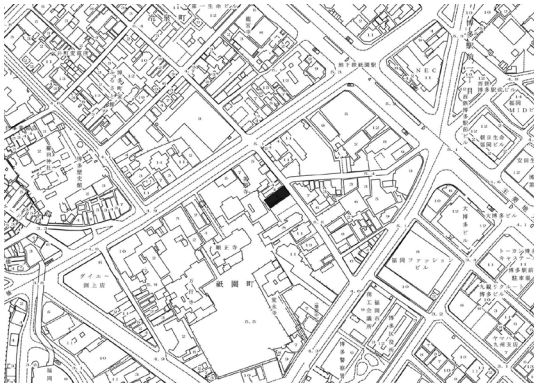



Fig.8　中村町 10 次調査出土遺物（S=1/3）

## 2012　博多遺跡群 241 次（HKT-241）

所 在 地　博多区祇園町 326-1
調査原因　ホテル建設
調査期間　2020.6.1 ～ 2020.9.4
調査面積　197㎡
担 当 者　佐藤 一郎
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（49　天神　0121　S = 8,000）

### 調査の概要

博多遺跡群は福岡平野の中央､那珂川河口部右岸に位置し、博多湾岸に沿って形成された古砂丘上に立地している。　調査地は博多遺跡群中央の南寄りに位置する。

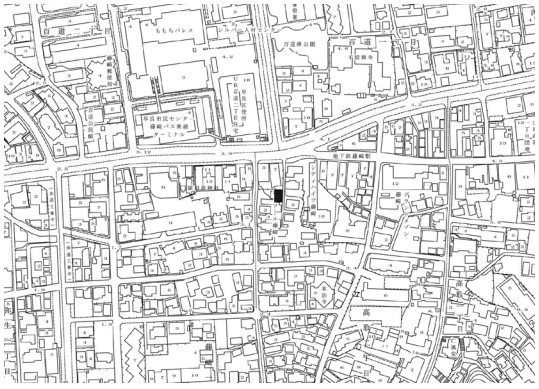
近世以降の堆積直下、標高 4m 前後の砂丘砂上面で、12 世紀前半～ 13c 後半の井戸を 9 基、土坑を 8 基、ピット状遺構 40 基を検出した。調査区北東部では 8 世紀以前の遺物包含層が残り、掘り下げていく過程で、4 世紀代の竪穴住居跡・土坑、8 世紀代の土坑・ピット状遺構数個を検出したが、4 世紀代の住居跡や土坑は後世の遺構や撹乱に切られ断片的に残るのみであった。

検出された遺構は中世前半、12 世紀後半を主とし、12 世紀前半・13 世紀後半がそれに次ぐ。古墳時代から古代にかけての遺構も検出したが、後世の遺構に切られて残りはよくない。

2．調査区全景（東から）

## 2013　藤崎遺跡 40 次（FUA-40）

所 在 地　早良区高取 2 丁目 154 番 2
調査原因　個人住宅建設
調査期間　2020.6.1 ～ 2020.6.30
調査面積　36㎡
担 当 者　荒牧宏行
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（81　室見　0307　S = 8,000）

### 調査の概要

博多湾に沿って延びる砂丘に立地した藤崎遺跡の南西部に位置する。砂丘の最も高い部分は明治通りから商店街へと続き，弥生時代の甕棺墓が集中している。今回の調査地点は浜堤列の後背部に位置し、南側に下降していく地形である。地山の明黄褐色砂の標高は 2.9 ～ 2.5m を測り、南西部は粗い海浜砂となる。

検出した遺構は 7 世紀後半～ 8 世紀前半代と 12 世紀代の柱穴、土坑、溝などの集落に関係したものである。この成果は隣接した第 20 次調査成果に近い。

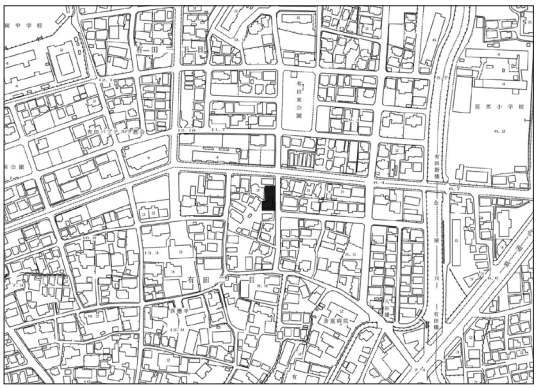
7 世紀後半～ 8 世紀前半代の須恵器や 12 世紀代の中国陶磁器のほか漁業に関連して土製の錘や鉄製の釣り針などが出土した。

区画溝が検出されたことから、集落の地割、範囲等に関して具体的な様相を知るうえで新たな資料となった。

2．調査区南側全景（北から）

# 2014　有田遺跡群 271 次（ART-271）

所 在 地　　早良区有田２丁目 11 番２
調査原因　　戸建住宅建設
調査期間　　2020.6.15 ～ 2020.7.9
調査面積　　148.29㎡
担 当 者　　三浦萌
処　　置　　記録保存



1．調査地点の位置（82　原　0309　S = 8,000）

## 調査の概要

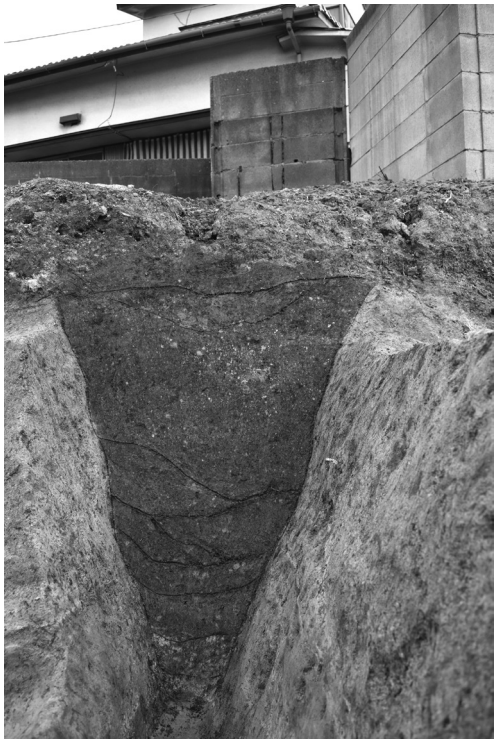
### 1．調査にいたる経緯

令和元年１２月１７日付けで、当該地における埋蔵文化財の有無についての照会文書が提出された（事前審査番号 2019-2-998）。申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である有田遺跡群に含まれていることから、令和２年１月８日に申請地で確認調査を実施した。その結果、現地表下 70㎝の橙褐色粘質土層上において柱穴等の遺構が検出された。協議の結果、個人住宅建築に際し現況面から切り下げを行うことから、埋蔵文化財への影響は免れないため、発掘調査による記録保存を行うこととなった。調査は令和２年６月１５日から開始し、同年７月９日に終了している。

2．SD001（東から）

### 2．調査の概要

有田遺跡群は早良平野の北側中央部に位置する独立中位段丘上に存在する。今回の調査地はその有田遺跡群の南東部、ゆるやかな斜面上に位置する。廃土置き場の都合上、重機による遺構面までの掘り下げを３回にわけて行った。現地表下約 50 ～ 70㎝で遺構面を検出したが、調査区全体で既に削平をうけており、重機による攪乱等で遺構の残存状況は良いものではなかった。発見された遺構は調査区をほぼ中央で東西に横断する溝１条とピット複数である。遺物は小片が多く、図示できるものは少ない。



3．SD001 土層断面

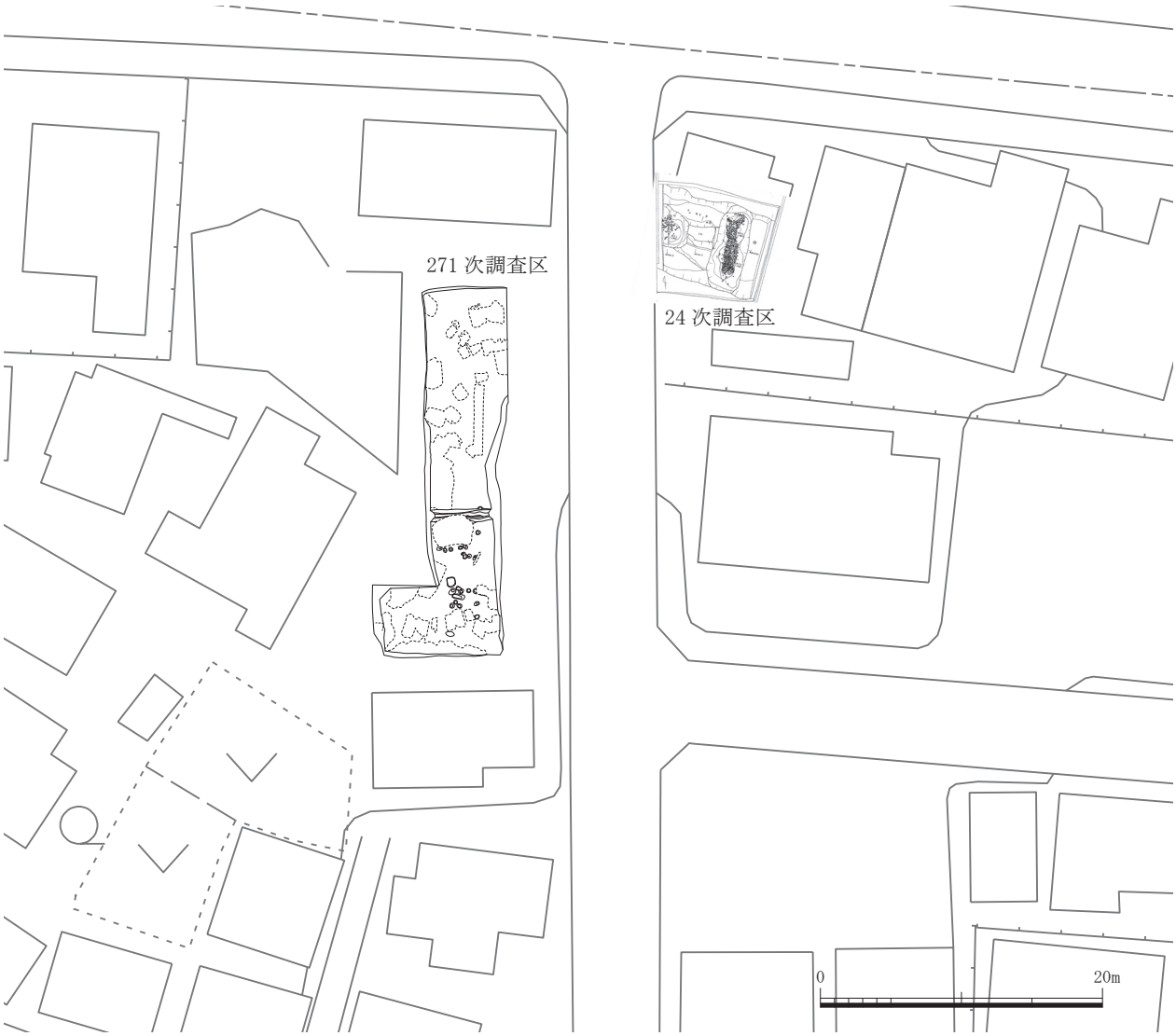
### 3．遺構と遺物

溝が１条とピットが複数検出されている。

ＳＤ－００１（図２、３）

調査区のほぼ中央で東西に横断する形で発見された溝である。幅 90㎝、深さ１ｍで断面Ｖ字形をとる。板付式土器が出土していることから、時期は弥生時代前期である。遺物は主に１層と２層から出土している。

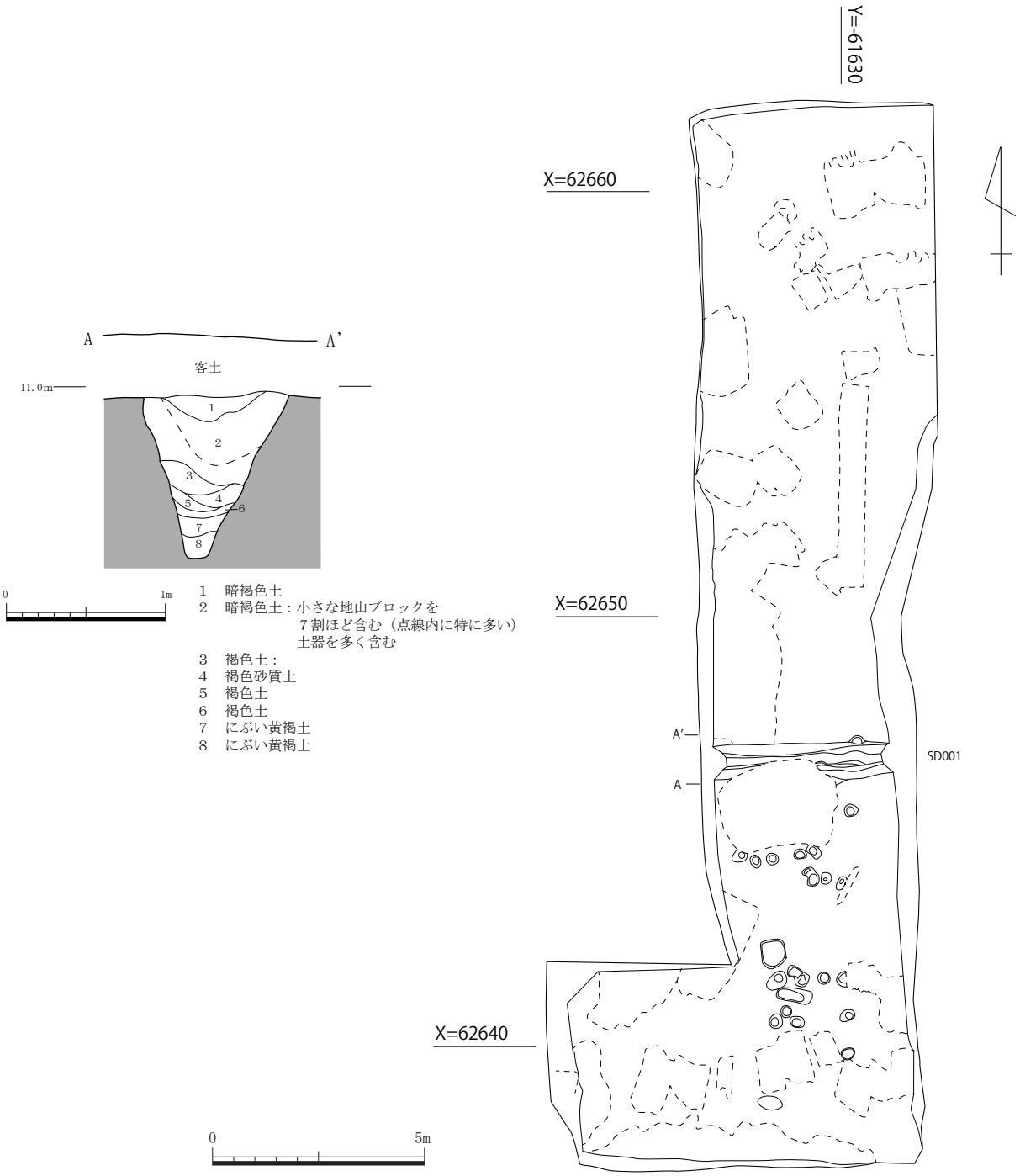
１～３は弥生土器である。１・２は壺である。同一個体であると思われる。１層と２層から出土している。板付Ⅱ式土器か？　３はおそらく甕の底部である。底径 6.5㎝。内面の底部に指ナデが残っているものの、内外面ともに風化によって調整は不明瞭である。２層からの出土。４は土錘である。長さ 4.3㎝、幅 3.4㎝、孔径 1㎝で、指圧痕がわずかに残るものの丁寧なナデ調整が施されている。黒色を呈す。２層からの出土。



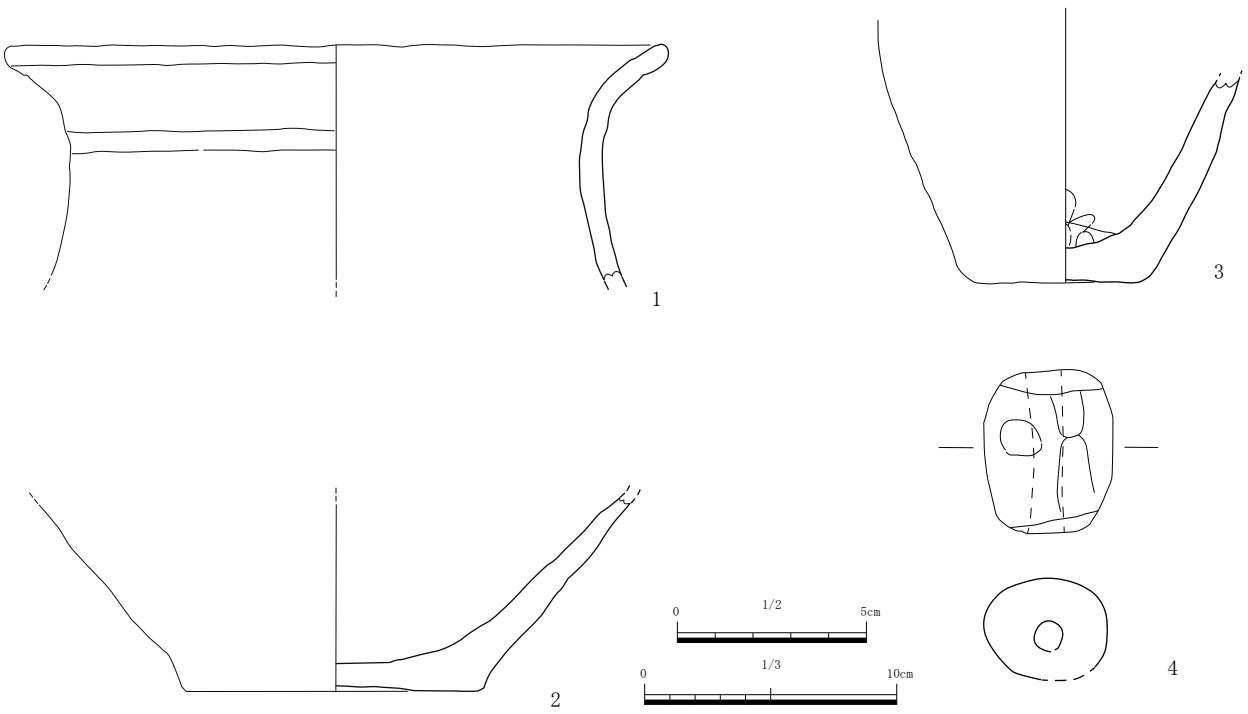

4．調査区位置図（S=1/500）

## 4．まとめ

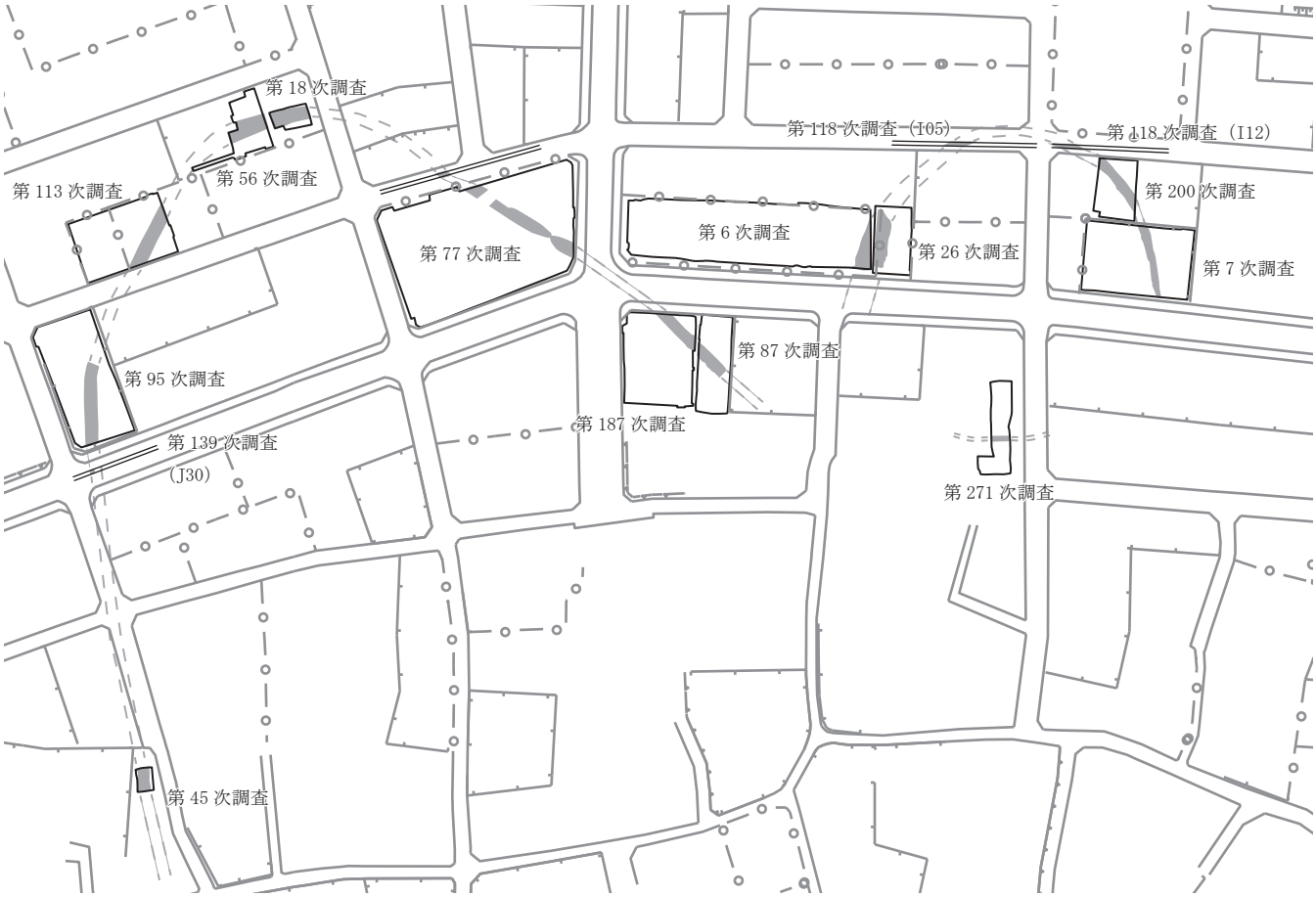
今回発見された遺構は断面Ｖ字形の弥生時代前期の溝である。これまでの調査によって、有田遺跡群では周溝が発見されている。１つは遺跡東側にある断面Ｖ字形をとるものであり、もう１つは西側にある断面台形をとるものである。今回発見された溝は断面形態と時期等から第７次調査と第 28 次調査において発見された東側の溝とつながるものであると考えられ、このことからこの東側の周溝は比較的小規模な範囲をめぐっていることがわかった。




5. 調査区全体図（1/150）と SD001 土層図（1/40）



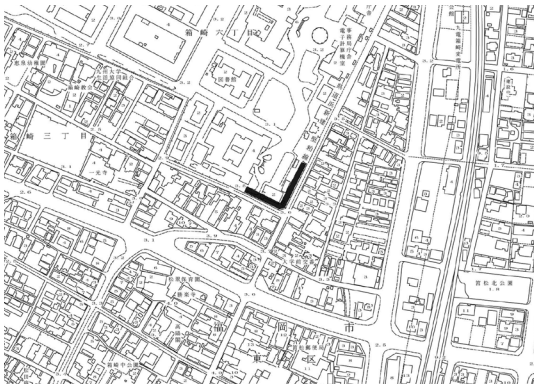

6. SD001 出土遺物（1 ～ 3：1/3　4：1/2）




7. 有田遺跡群環濠復元図（1/2000）

## 2015　箱崎遺跡 109 次（HKZ-109）

所 在 地　東区箱崎 6 丁目 10-1（記録資料館 2 次）
調査原因　学術研究（記録保存・HZK2003）
調査期間　2020.6.22 ～ 2020.10.10
調査面積　530㎡
担 当 者　九州大学埋蔵文化財調査室
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（34　箱崎　2639　S = 8,000）

2．発掘区全景（東から）

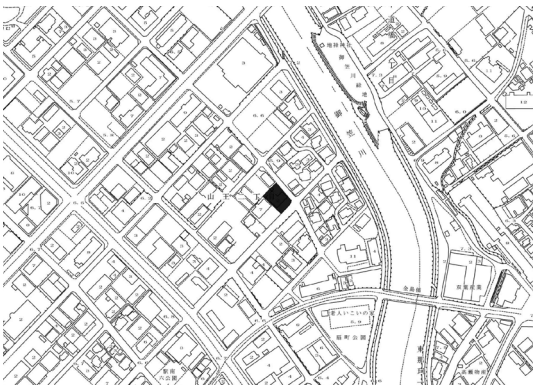
### 調査の概要

今回実施した HZK2003 地点（記録資料館地点 2 次）は、九州大学箱崎キャンパス南東端に位置する。目的は、中世都市箱崎の北端エリアの性格解明である。

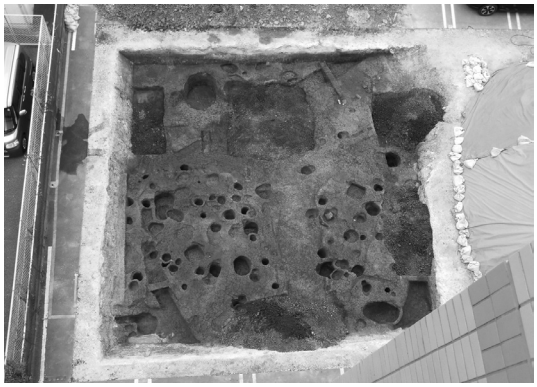
遺構は 236 基発見された。土坑・柱穴（礎石を検出したものを含む）・溝・井戸に加え方形の粘土遺構や、土師器の坏皿を一斉に投棄した土坑がみとめられた。特筆されるのは、調査区の全域からかなりの量の瓦（鬼瓦、軒丸瓦、軒平瓦含む）が出土した点である。土坑のほか、廃絶した井戸跡からも多数の出土が確認された。年代の検討はこれからだが、瓦は丸瓦・平瓦に縄目のつく例があり、また瓦当の巴文の特徴から、鎌倉期のなかでも古手に属するものとみられる。板碑の残欠も 2 点出土した。これらは 14 世紀以降の例と考えられ、長期に及ぶ土地利用の推移について復原することが今後の課題である。

## 2016　山王遺跡 16 次（SNN-16）

所 在 地　博多区山王 2 丁目 32-1
調査原因　共同住宅建設
調査期間　2020.7.27 ～ 2020.10.14
調査面積　214㎡
担 当 者　今井隆博
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（37　東光寺　2379　S = 8,000）



2．調査区北半全景（西から）

### 調査の概要

山王遺跡は御笠川の西岸にあり、弥生時代から古墳時代の大集落である比恵遺跡群の東側に隣接している。今回の調査地点は山王遺跡の南端付近にあたり、周辺では弥生時代から中世の集落が確認されている。地表から約 70㎝で遺構検出面であるローム面となる。ローム面の標高は約 5.8 mで，南から北に向かって低くなっている。

検出した遺構は弥生時代から中世の竪穴建物・溝・土坑・井戸・ピットである。調査区内は以前の建物によって大きく破壊されている。竪穴建物の遺存状況は悪く、いずれもコーナーや壁溝など部分的にしか残っていない。弥生時代の土坑・井戸、古墳後期頃の溝、中世の井戸等を検出した。

弥生時代後期の井戸の底からは小型仿製鏡（内行花文鏡）が出土した。井戸の祭祀に伴うものと思われる。

## 2017　博多遺跡群 242 次（HKT-242）

所 在 地　博多区冷泉町 414 番
調査原因　ホテル建設
調査期間　2020.7.1 ～ 2020.8.31
調査面積　116㎡
担 当 者　神啓崇
処　　置　現状保存

### 調査の概要

博多遺跡群は、玄界灘に面する博多湾岸の砂丘上にあり、弥生時代から近世まで連綿と続く複合遺跡である。とくに中世が濃密である。土師器や陶磁器が多く出土するが、中国をはじめとする外国との貿易で入手した陶磁器は日本国内でも屈指の出土量を誇る。

本調査地点は博多浜中央西寄りに位置する。3 面（一部 2 面）の調査を実施し，奈良時代から中世前半を主とする井戸、土坑、柱穴を検出した。そのほか、古墳時代前期の土坑を検出し、古墳時代集落の広がりを確認できた。

出土した陶磁器や土師器はコンテナケース 35 箱分。陶磁器では，中世博多で活躍した中国商人を示す「綱」を墨書した磁器碗が注目される。また，古墳時代前期（3 世紀～ 4 世紀）の土坑からは壷が出ており、古墳時代集落の広がりを考えるうえで重要な成果を得た。

1．調査地点の位置（49　天神　0121　S = 8,000）

2．Ⅰ区砂丘面全景（南東から）

## 2018　博多遺跡群 243 次（HKT-243）

所 在 地　博多区店屋町 27-1、27-2
調査原因　ホテル建設
調査期間　2020.7.13 ～ 2020.12.11
調査面積　336.31㎡
担 当 者　木下博文
処　　置　記録保存

### 調査の概要

博多遺跡群は、博多湾岸に沿った 3 列の砂丘上に立地する複合遺跡である。今回の調査地点は呉服町交差点の南東に位置し、中世に敷設された博多の基幹街路の推定線上に当たる。

計 3 面の調査を行い、東西に分けた調査区のうち、東半の 1 区では第 2 面、標高 3.1 ～ 3.3 mで幅 4.7 ～ 5.2 mを測る中世の道路面を検出した。道路の側溝は第 3 面、標高 2.5 ～ 2.8 mの砂丘面で確認された。砂丘面では平安時代末期を中心とする土坑・井戸・ピットが多数検出された。全体で 120 箱分の遺物が出土した。中国産陶磁器のほか、イルカ・猫などの多数の動物骨、近世の繭形分銅、博多出土銅銭では希少な正隆元宝（金　1158 年初鋳）や、古代官人のベルトに使用された石製装飾など特筆すべき遺物が出土している。

1．調査地点の位置（49　天神　0121　S = 8,000）

2．1 区 2 面全景道路検出状況（北東から）

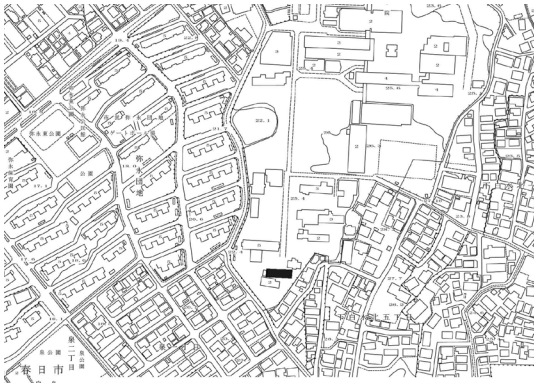
## 2019　弥永原遺跡 18 次（YNB-18）

所 在 地　南区曰佐 3 丁目 42-1
調査原因　学生寮建設
調査期間　2020.8.24 ～ 2020.10.29
調査面積　272㎡
担 当 者　久住 猛雄
処　　置　記録保存

### 調査の概要

弥永原遺跡は、福岡平野の南側に位置し、平野を北流する那珂川と御笠川に挟まれた洪積段丘上に立地する。

調査地の標高は、現状では 25.6 ～ 25.8m 前後であるが、遺構の遺存状況などを見ると本来は西側が高かったものが削平されているとみられる。遺構は、主に調査区の東半分で認められた。多くは中小のピット群であり、柱穴が含まれ、図上で 20 棟前後の掘立柱建物を復元できた。その他、土坑が 7 基ある。土坑の中には、木棺墓が 1 基、足元掘込土壙墓の可能性があるものが 2 基､土壙墓の可能性があるものが 1 基、焼土坑とみられるものが 1 基あった。いずれの遺構も出土遺物が無いか僅少で、多くの遺構の時期が不明確である。遺物は、コンテナケース 1 箱のみで、弥生土器（中期～後期）、須恵器、中世土器の破片がある。木棺墓と見られる SK002 からは赤色顔料（ベンガラ）粒子を検出した。



1．調査地点の位置（26　上曰佐　0105　S = 8,000）

2．調査区東端遺構検出状況（北から）

## 2020　福岡城跡 82 次（FUE-82）

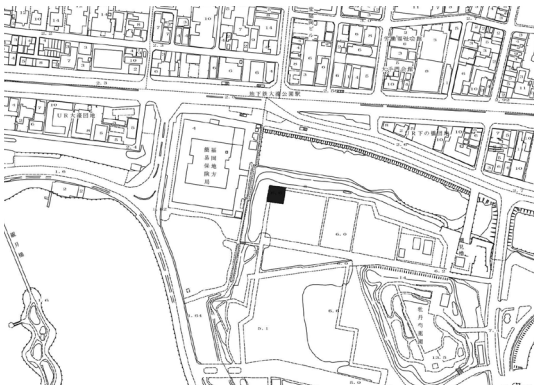
所 在 地　中央区城内
調査原因　史跡整備
調査期間　2020.5.25 ～ 2021.8.31
調査面積　98.2㎡
担 当 者　大塚紀宜　史跡整備活用課
処　　置　現状保存

### 調査の概要

今回の調査は潮見櫓の復元整備に向けた石垣整備に伴う発掘調査で、石垣の現状確認のため実施した。潮見櫓は福岡城の北西隅に位置する櫓で、明治時代末に櫓建物が崇福寺に払い下げられた後、石垣は完全に埋没していた。

石垣は北面、西面の 2 面が築かれており、調査の結果、北面で全長 14m、西面で全長 16.3m を確認した。築石は野面積みで、北面、西面とも 4 ～ 5 段以上の築石を確認した。築石の大きさは 40 ～ 60cm 大のものが多く、城内の他の石垣よりも小型の石材が使用されている。築石の石材は近隣で採取可能な礫岩が主に使用されていた。

出土遺物はコンテナケース 15 箱で、大半が櫓建物の瓦破片である。調査後、石垣は整備され、石垣築造時の形状に復元している。

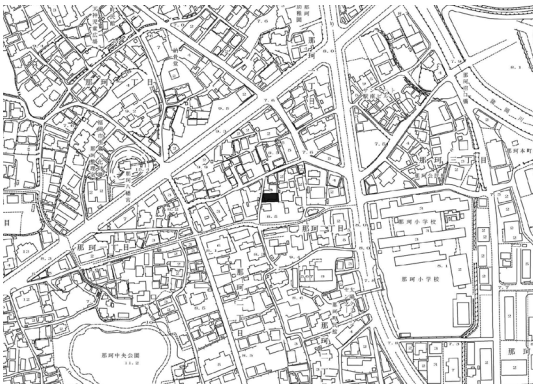


1．調査地点の位置（60　舞鶴　0193　S=1/8,000）

2．潮見櫓石垣出土状況（北西から）

# 2021　那珂遺跡群第 183 次調査（NAK-183）

所 在 地　　博多区那珂 1 丁目 392 番 2
調査原因　　共同住宅建設に伴う駐車場造成
調査期間　　2020.07.13 ～ 2020.08.04
調査面積　　41.32㎡
担 当 者　　久住猛雄
処　　置　　記録保存



1．調査地点の位置（37　東光寺　0085　S = 8,000）

## 調査の概要

調査の概要

1．位置と環境

那珂遺跡群は、福岡平野の中央やや北部、那珂川と御笠川に挟まれた中位段丘上に立地する。183 次調査地点は遺跡が立地する段丘の中央部付近で、現在の標高は西側道路面が 8.1m 前後、東側が 8.8 m（調査区北東側）～ 8.55 m（調査区南東側）前後であるが、竪穴住居痕跡の遺存状況などを考慮すると、弥生時代には 1m 近く高かった可能性がある。なお調査対象地は、西側にある南北の小路に向かって低くなる斜面地であるが、本来の地形を反映しているものかは不明である。周囲の宅地の現況を観察すると、本来の段丘地形の起伏はかなり失われている可能性がある。また調査地点の西方 160m には那珂八幡古墳が立地している（Fig.1）。調査地周囲は遺跡範囲中央部であるが、周囲直近での調査事例が少ない場所である。

Fig.2　那珂 183 次調査地点の位置と周辺街区図（S=1/500）

2．調査の概要

調査は、調査対象地の敷地のうち、西側の道路面に合わせて駐車場造成の切り下げ行う範囲について実施した（Fig.2）。東側の共同住宅建設部分については基礎工事が遺構面に及ばないとみて慎重工事で対応している。調査区の座標は任意座標である。国土座標については、付近に互いを見通せる二つの基準杭（鋲）が見当たらなかったため座標を入れられず、調査区の位置は敷地周囲を測量して福岡市の都市計画図に入れ込んでいる。また標高は、以前に埋蔵文化財課が那珂遺跡群内に設置した基準杭から移動して用いた。

遺構は表土直下のＧＬ－ 10 ～ 30㎝で鳥栖ローム地山上面となり、そこで検出している。なお遺構検出面の標高は、調査区北東で 8.44m、東辺中央で 8.29m、南東で 8.16m、北辺中央で 8.39m、中央部で 8.22m、南辺中央で 8.20m、南西で 7.87m である（西縁は近代以降の攪乱の落ち込みがありさらに下がる）。検出遺構は、①黒褐色土～極暗褐色土、②極暗褐色土～暗褐色土、③褐色土のものがある。周辺の調査や出土遺物からみて、①は弥生時代～古墳時代、②は飛鳥時代～奈良時代、③は中世のものと考えられるが、後世遺構に①や②の覆土が二次的に堆積する場合もあるので注意を要する。現に、SK001 は遺物から中世遺構と判明したが、当初は土色から飛鳥～奈良時代の井戸遺構ではないかと考え掘削し始めていた。

３．検出遺構

検出した遺構は、大型土坑（ないし溝状遺構の一部の可能性）1基（掘り返しがある）、ピット（柱穴ほか）30前後、竪穴住居跡の壁周溝痕跡とみられる溝状遺構1条、掘立柱建物の可能性があるもの2棟である（Fig.3）。全体的な削平と多くの近代以降の攪乱により遺構の遺存状況はあまり良好ではない。

SK001は調査区中央東側で検出した大型土坑である（Fig.4）。東側は調査区端の先に延びる。検出できた平面形は、略楕円形状で、東西3.2m以上、東西2.4m、検出面からの深さは65㎝である。南北の横断面形は逆台形状だが、西側と北側法面上半は傾斜がやや緩い。土層や覆土の特徴はPh.3と表1に記した。掘削途中の面で、遺構東側に径1.1m弱の略円形の遺構（SK001-a）を検出した（Ph.4）。上面では検出できなかったが、掘り返し（再掘削）の痕跡と思われる。再掘削前の掘方下層をSK001-bとした（Ph.5）。当初は「井戸」の可能性を考え掘削し始めたが深くならず「土坑」としたが、横断面形が左右非対称な逆台形であること（区画溝などにこのような場合が多い）、掘り返しがあること、遺構がさらに東側に続くことなどから、「溝状遺構」とした方がいいかもしれない。遺物は、全体的に散漫に出土したが、下層床面近くにいくつかのまとまりがあった。このうち底面南東側の一群（Ph.6）はSK001-bに伴うもので問題なく、また漆製品の痕跡などもあったが、底面南西側の一群は、位置的に見て、覆土途中で検出したSP017の下部掘り残しであった可能性が残る（Fig.3）。出土遺物（Fig.8）には、古墳時代後期、飛鳥～奈良時代の遺物も少なくないが、中世の糸切底の土師器坏・小皿や土師器鍋・捏鉢片なども含み、13～14世紀前後の遺構であろうと考えられる。

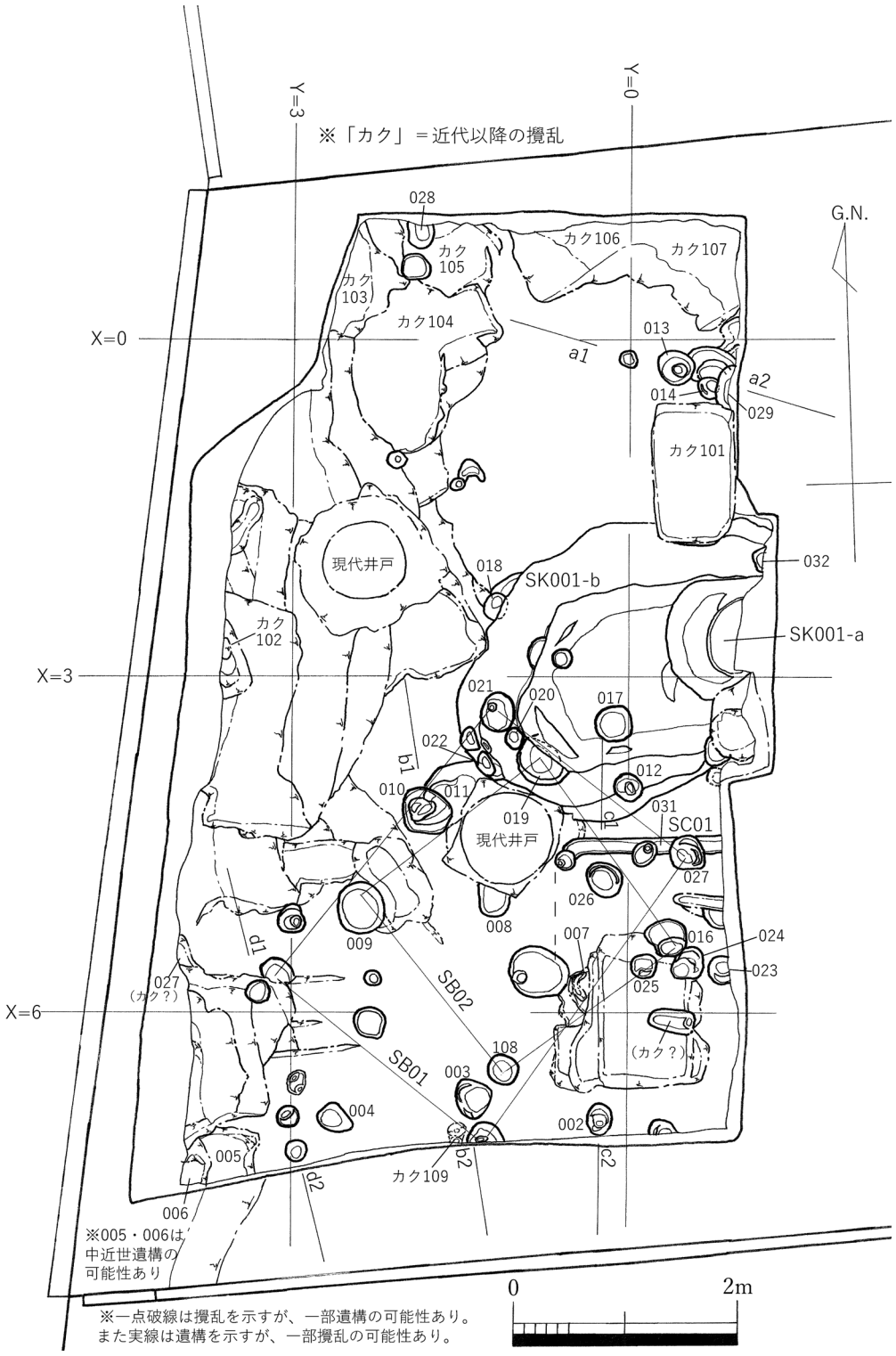


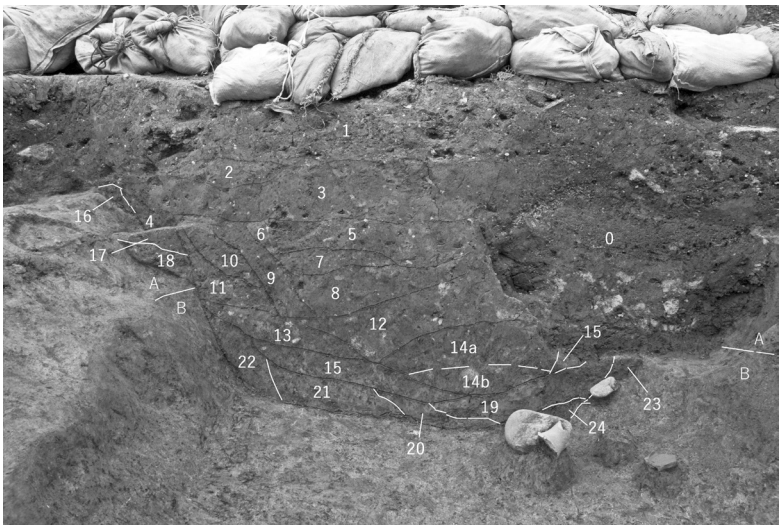

Fig.3　那珂183次調査全体図（S-1/60）

調査区南西側で検出したSC001は、その北辺を画すであろうSD031（Ph.7）を竪穴住居跡の壁周溝と推定したものである（Fig.5）。ただしSD031が南に屈曲する西側の延長の西辺壁周溝は検出できなかった。削平されたか。遺構の規模は、東西1.5m以上、南北2.7 m以上で、東側と南側に遺構は延びると思われる。方位はほぼ正方位をなす。中央に攪乱があり分かりにくいが、貼床土は削平されているものの、攪乱の東辺で緩い段差があり、あるいは北側にベッド状遺構などがあったものの痕跡である可能性がある。主柱穴は不明確だが、SP023,SP024,SP025のいずれかが候補になるが、比較的深いSP025の可能性が最も高い。SD031や上記3柱穴の覆土は暗褐色であり、飛鳥～奈良時代の可能性があるが、遺物がほとんど無く厳密には不明である。

Ph.1　那珂遺跡群第183次調査状況全景（南から）

SB01とSB02は調査区南半で検出したいずれも1×1間の掘立柱建物（Fig.6）。ただし調査中は気づかず、図上復元である。SB01は1.95m×2.0m、方位はN-36.5°-Wである（北は都市計画図上での方位北）。柱穴のうち、SP009,SP016,SP019は極暗褐色土覆土であったが、SP108は調査時は暗褐色土＋ロームブロックでしまりがやや甘く、攪乱の疑いありとしていたが、位置関係とSB02とSB01が方位は少し違うがおそらく連続的に重複した建物だろうと考えたことから、SP108を生かした。SK001に切られ、SC001と重複関係にあるが前後不明である。ただしSP024がSC001に伴うとすると、SP016がSP024を切ると判断したので、SC001を切る可能性がある。一方、極暗褐色土覆土が多いことから、古墳時代前後の可能性がある。SB02は、2.15～2.35m×3.05m、方位はN-40°-Eである。柱穴のうち、SP027は暗褐色土、SP021は褐色土、西側柱穴は暗褐色土＋ロームブロック、南側柱穴は褐色土の覆土である。このうち南側柱穴から近世の瓦質土器小片が出土しているが、上層（上面）出土であり、混入の可能性が高い。SP021がSK001に切られることからすると中世以前であるが、SP027がSD031（SC001）を切るので、SC001の時期が不明確だが、それ以降となり、確率的にはSB02は古代前後の蓋然性が高い。しかしながらいずれの柱穴も遺物がほとんど無いので時期限定は難しい。

Ph.2　那珂遺跡群第183次調査状況全景（東から）




Ph.3　SK001東側調査区壁面土層状況（西から）※土層番号あり（注記次項）

調査区南西端斜面で検出したSD005,SD006は、SD005が同一溝の上層で褐色覆土、SD005が同一溝の下層

表 1　SK001 調査区東壁面土層（Ph.3）注記

0・1　表土、盛土、近現代攪乱
2　一見遺構覆土だが株に 1 層の瓦礫小片あり、褐色土＋極暗褐色　土 5%＋ローム ブロック少、しまりやや甘い
3　褐色土＋暗褐色土 30%＋極暗褐色土 5%＋ローム ブロック少＋土器片少、しまりやや甘い、包含層状
4　暗褐色土、しまりややあり、ピット
5　暗褐色土＋褐色土 35%＋極暗褐色土 5%＋ローム ブロック 5%＋焼土粒＋土器片少、しまりややあり
6　褐色土 50%＋暗褐色土 40%＋極暗褐色土微量＋ローム粒子＋焼土粒、しまりやや甘い
7　10YR 褐色土 55%＋暗褐色土 35%＋極暗褐色土 7%＋ローム ブロック 3%、しまりあり
8　10YR 褐色土＋暗褐色土 30%＋極暗褐色土 5%＋ローム ブロック 5%＋焼土粒少＋土器片少、しまりあり
9　10YR 褐（～暗褐）色土＋極暗褐～黒褐色土ブロック 10%＋ローム ブロック 3%＋八女粘土ブロック 微量＋土器片少、しまりややあり～あり
10　暗褐色土＋褐色土 20%＋ローム ブロック・粒子 3%＋八女粘土ブロック微量、しまりややあり
11　褐色土＋暗褐色土 35%＋ローム ブロック 5%＋八女粘土ブロック微量、しまりやや甘い～ややあり（12 ～ 15 層　SX001a）
12　褐色土＋暗褐色土 30%＋ローム ブロック 5%＋八女粘土ブロック 5%＋砂礫少、しまりあり
13　暗褐色土 50%＋褐色土 30%＋ローム ブロック 17%＋八女粘土ブロック 3%、しまりややあり
14a　褐色土＋暗褐色土 35%＋ローム ブロック・粒子 5%＋焼土粒微量、しまりあり
14b　褐色土 55%＋暗褐色土 30%＋ローム ブロック 15%＋焼土粒微量、しまりあり
15　暗褐色やや粘質土＋ローム ブロック・粒子少＋八女粘土ブロック少＋土器片少、しまりあり
16　褐色土＋暗褐色土 30%＋ローム ブロック・粒子 10%、しまりあり
17　暗褐色土＋褐色土 20%＋砂礫少、しまりややあり
18　褐色土 50%＋暗褐色土 45%＋ローム ブロック 5%、しまりあり
19　褐～暗褐色粘質土＋ローム ブロック 10%＋炭粒 2%＋焼土粒微量、しまりややあり
20　暗褐色粘質土＋ローム粒子少、しまりやや甘い
21　暗褐色やや粘質土＋ローム ブロック 7%＋極暗褐色土 3%、しまりややあり～あり
22　褐～暗褐色やや粘質土＋ローム ブロック・粒子 3%、しまりややあり
23　褐色土 50%＋暗褐色土 30%＋ローム ブロック 20%、しまりややあり
24　暗褐色土やや粘質土＋褐色土 20%＋ローム ブロック・粒子 7%、しまりやや甘い
ローム A　橙褐色～明茶褐色粘質土、上部明るく下部暗い
ローム B　黄褐色＋にぶい褐色＋白っぽい褐色の粘質土、八女粘土への漸　移層、全体に明るい、黒色パミス多い

で暗褐色覆土とみられるが、遺物が無く時期不明である。覆土の特徴からは古代から中世の溝の可能性がある。

その他、調査区北東（Fig.3）のピット（柱穴）SP013,SP014,SP029 は極暗褐色土覆土（SP029 は極暗褐色～暗褐色土）で、弥生時代～古墳時代の可能性がある（断面図は Fig.7 a1-a2）。調査区中央から南側の SP010, SP003 は特徴的に対になるかと考えた柱穴だが、SP010 は暗褐色土、SP003 は極暗褐色土覆土である（断面図は Fig.7 b1-b2）。SC001 の範囲の北西にある SP026 は深いしっかりした柱穴で（断面図は Fig.7 c1-c2）、暗褐色土覆土。また調査区南西部に小ピットだが対になると考えた深さの近い 2 柱穴があり（断面図は Fig.7 d1-d2）、北ピットは暗褐色土、南ピットは褐色土覆土である。

また攪乱であるが、調査区北東部、SK001 北側のカクラン 101 からは、弥生時代終末期の大型甕形土器片が出土し（Fig.8-23,24）、内面赤彩があり、甕棺墓であった可能性が高く、カクラン 101 の覆土にも黒褐色～極暗褐色土が混入しているので、この攪乱の位置に甕棺（小児甕棺）が本来あった可能性がある。

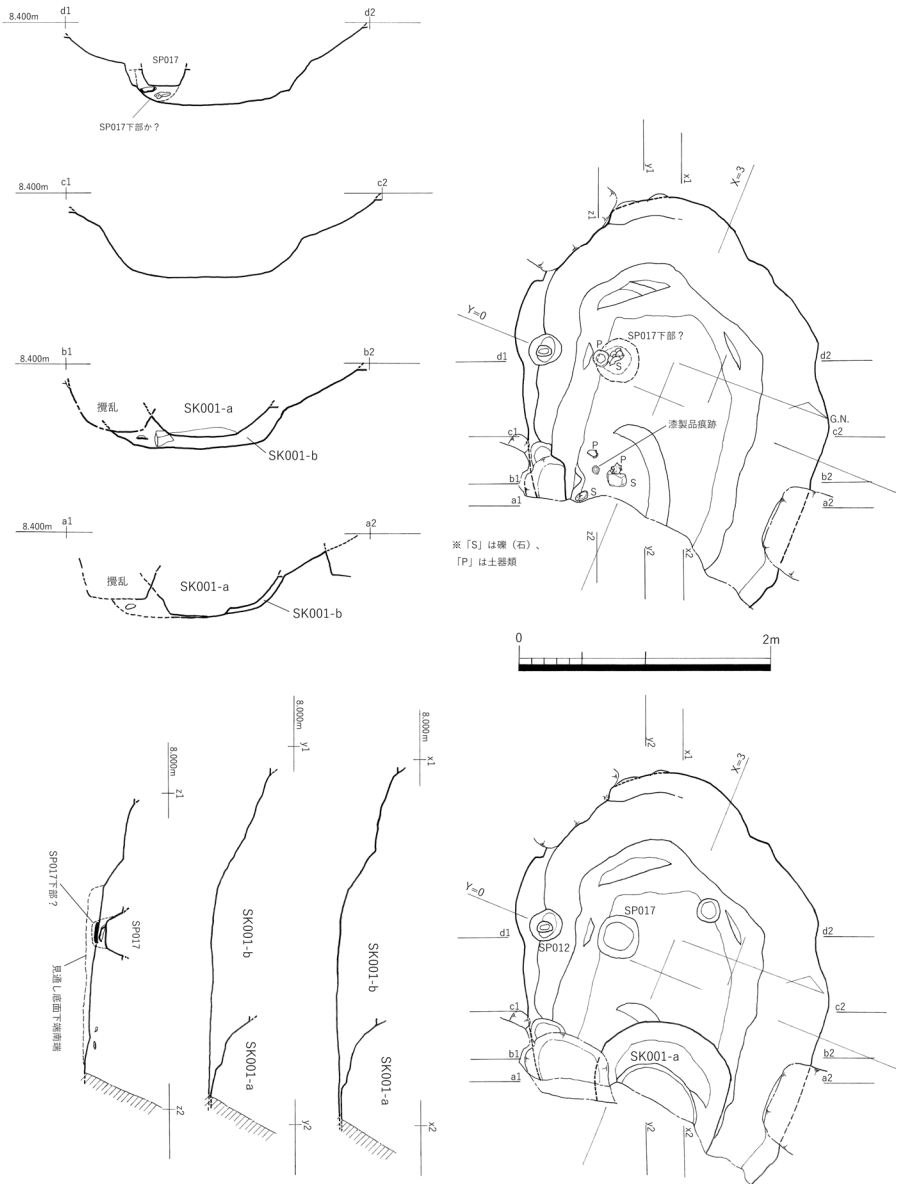



Fig.4　SK001a・b 実測図（S=1/60）

4．出土遺物

本調査では、総量にしてパンケース３箱ほどの遺物が出土した。出土遺物には、弥生土器、古墳時代～中世の土師器、須恵器、中世の輸入陶磁器、近世の瓦質土器、各時代の石器・石製品がある。図化可能なものに関しては実測して掲載した（Fig.8）。1 ～ 19,24,25 は SX001 出土（出土層位などは Fig.8 参照）。1,3,8?,11,12,18 は奈良時代、4,7,13 は古墳時代後期末（Ⅲ B 期）、19 は飛鳥時代前期（Ⅳ期）、2,15 は弥生時代中期、5,6,9,10,12,14,16,17 は中世前期後半（13 ～ 14 世紀前半）で、中世遺物が遺構の年代となる。24 は敲打痕などから台石としたが鍛冶具の鉄床石の可能性がある。25 はおそらく弥生時代前半期。20 は奈良時代。21 は 14 世紀前後か。22 は頸部に突帯があったものが剥離したらしい（23 の口縁部）。弥生時代終末期。23 の内面は赤彩痕跡が残るが、埋蔵文化財センターでの分析の結果、酸化鉄（ベンガラ）の可能性が高いとの結果が出た。遺構の項で述べたように小児甕棺墓であった可能性が高い。

以上のように那珂 183 次調査では、限られた調査範囲であったが、弥生時代中期・終末期、古墳時代後期、飛鳥～奈良時代、中世（13 ～ 14 世紀）の遺構と遺物を検出した。調査事例が少ない地区での貴重な調査成果となった。

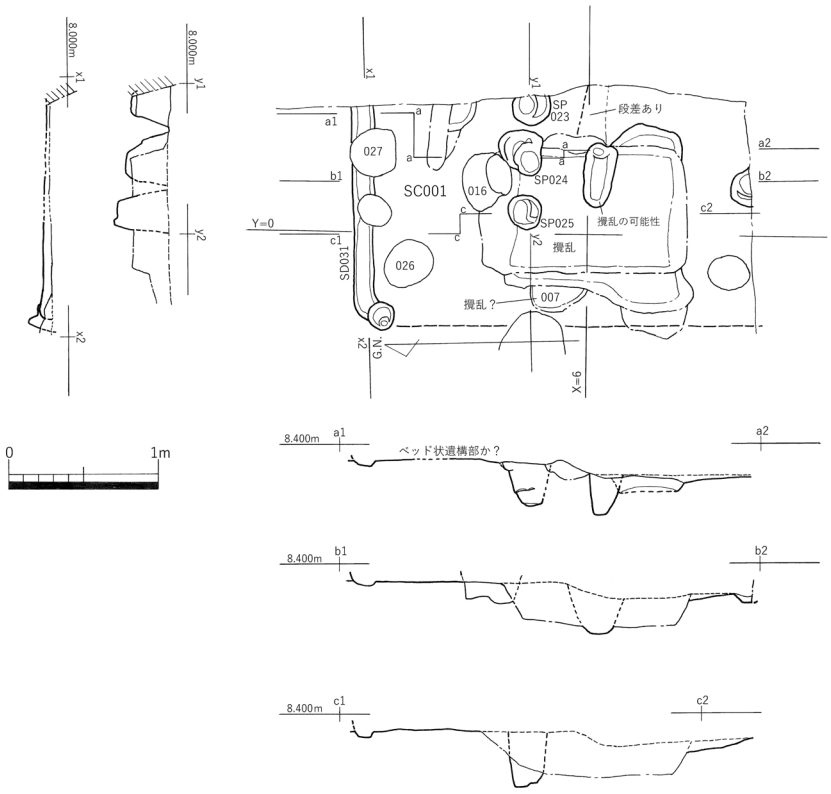
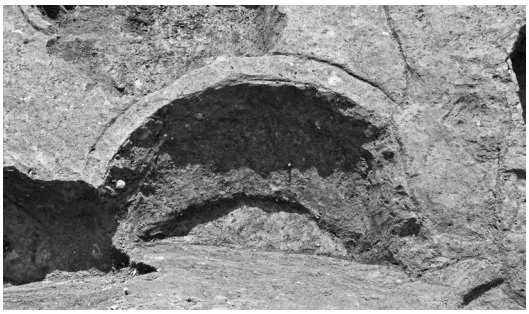


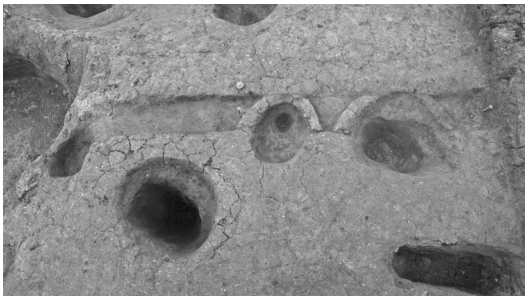

Fig.5　SC001 実測図（S=1/50）



Ph.4　SK001a 掘削状況（東から）

Ph.6　SK001b 南東下層漆器痕跡など遺物群出土状況（北から）

Ph.5　SK001 b 下層遺物出土状況（ほぼ完掘、西から）



Ph.7　SC001 北側壁溝掘削状況（南から）

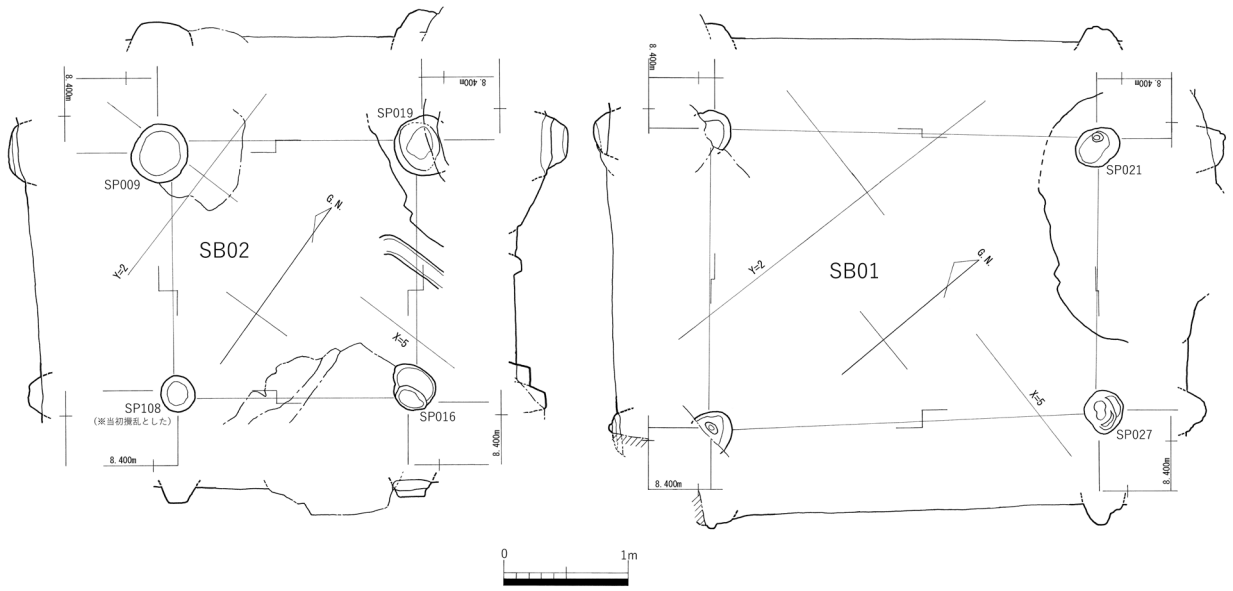



Fig.6　SB01・SB02 実測図（S=1/60）

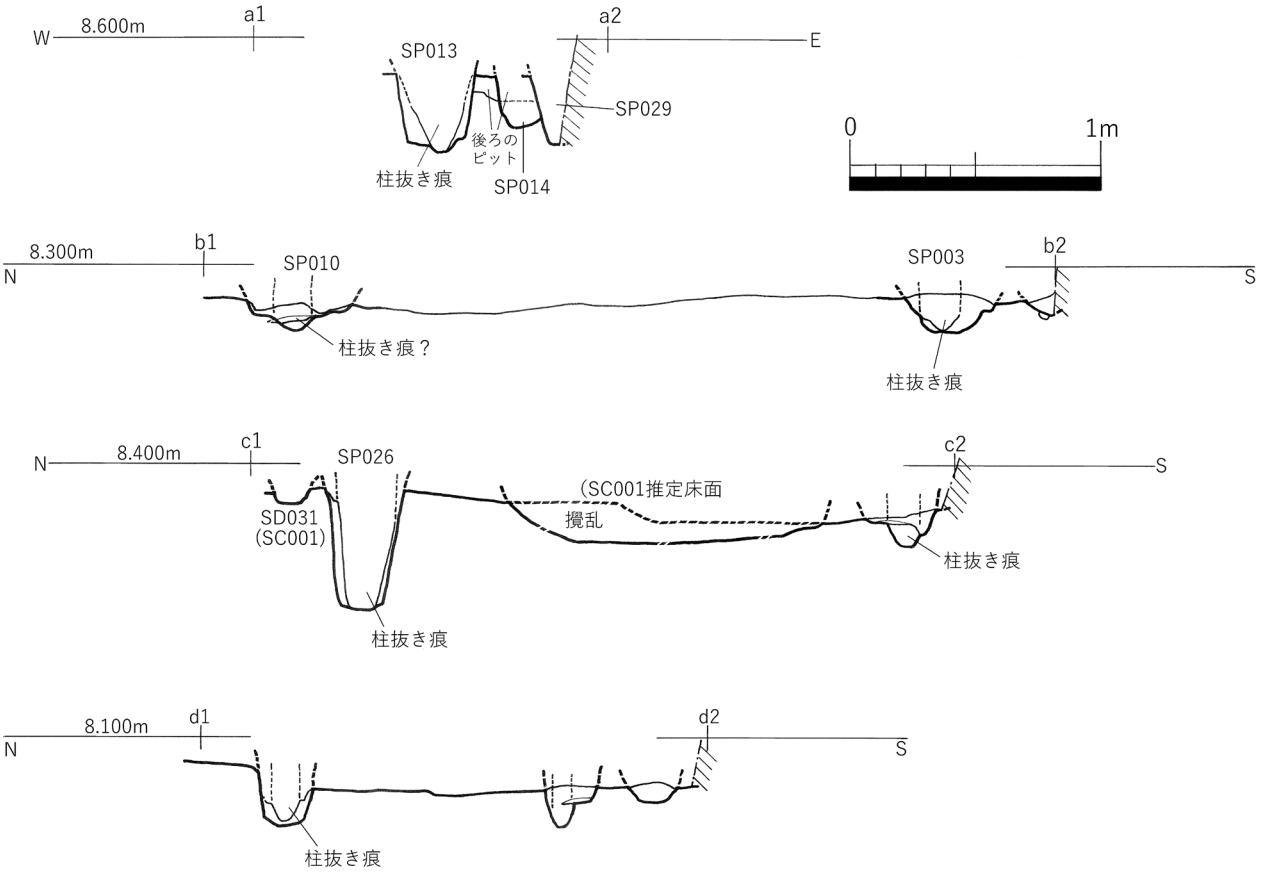



Fig.7　遺構断面図（S=1/30）　※断面位置 A1 － A2 ～ D1 － D2 は Fig.3 参照

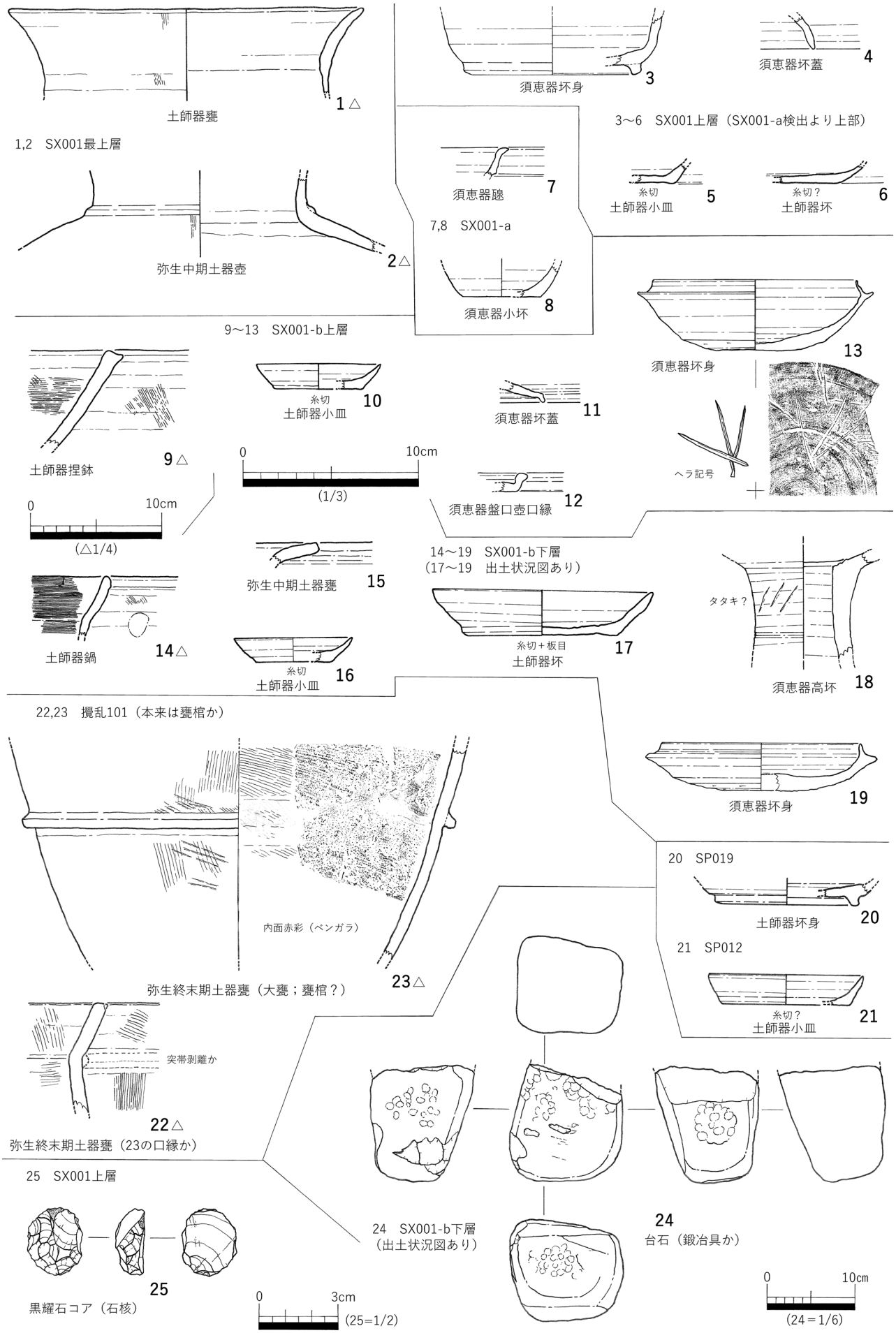
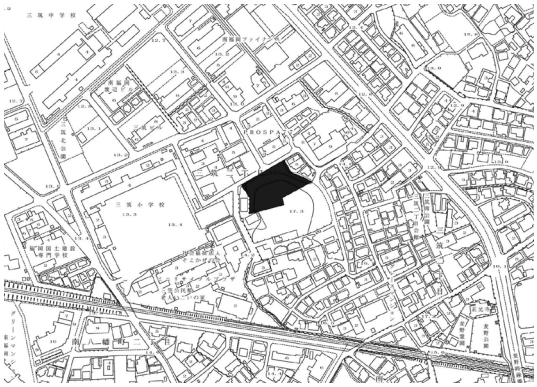



Fig.8　那珂 183 次出土遺物実測図（S=1/3、△は S=1/4、24 は S=1/6、25 は S=1/2）

# 2022　麦野Ｂ遺跡群７次（MGB-7）

所 在 地　　博多区三筑２丁目 11 番２外
調査原因　　保育所建設
調査期間　　2020.7.20 ～ 2020.9.3
調査面積　　981.39㎡
担 当 者　　三浦萌
処　　置　　記録保存



1．調査地点の位置（25　井尻　0049　S＝8,000）

## 調査の概要

１．調査に至る経緯

令和２年６月３日付けで、当該地における埋蔵文化財の有無についての照会文書が提出された（事前審査番号 2020-2-167・175）。申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である麦野Ｂ遺跡に含まれていることから、令和２年６月 23 日に申請地で確認調査を実施した。その結果、現地表下 30㎝の橙色ローム上にて遺構が検出された。協議の結果、工事によって埋蔵文化財への影響が避けられないことから、建造物が建築される範囲において発掘調査を行うことで合意した。

発掘調査は令和２年７月 20 日から開始し、令和２年９月３日までに終了している。

2．Ⅰ区全景（北から）

２．調査の概要

麦野Ｂ遺跡は福岡平野を流れる御笠川と那珂川にはさまれた中位段丘上に位置している。周辺は開析谷が入り込む複雑な地形をなしており、開析によって北にむかって三つに段丘がわかれている。

本調査地は麦野Ｂ遺跡の末端部にあたる。北に向かって緩やかに傾斜する南西では第６次調査が行われており、縄文時代以降の落とし穴状の遺構が２基発見されている。本調査における調査区は道路を挟んでⅠ区とⅡ区にわかれている。Ⅰ区Ⅱ区ともに遺構検出面の上には黒色土（黒ボク土）が約 20 ～ 30㎝ほど堆積している。Ⅰ区はゆるやかに傾斜しており、一番高い場所ではほぼ表土直下で遺構面が検出された。調査前は木が生い茂っていたとのことから、その伐根のためか攪乱が多い。土坑が４基発見されている。Ⅱ区は道路を挟んで東側に位置している。ピットが多数発見された。

3．Ⅱ区全景（西から）

３．遺構と遺物（図５～ 11）

Ⅰ区で土坑を４基発見した。遺物の出土は極めて少なく、またいずれも小片であるため図示できるものは少ない。いずれも埋土はしまりが弱く、植物根を多く含んでいた。SK-002、003 は調査区内では標高が高く比較的平坦な面で発見されたことに対し、SK-001、004 は斜面上で発見されている。いずれからも遺物は出土していない。なお SK-001、002、004 は底面を一部掘りすぎている。

ＳＫ－００１（図６・10）

Ⅰ区北西部で発見された長軸 1.12 m、短軸１m、深さ 86㎝の土坑である。ＳＫ－００２、００３と比べ標高が低い位置で発見された。

ＳＫ－００２（図７・10）

Ⅰ区南部で発見された長軸 1.2 m、短軸 1.08 m、深さ 1.25 mの土坑である。底面に径 18㎝、深さ 20㎝のピッ

トがみられる。標高 15 m以下の埋土には地山ブロックが含まれている。

ＳＫ－００３（図８・10）

Ⅰ区南東部で発見された長軸 1.5 m、短軸 1.14 m、深さ 1.06 mの土坑である。標高 15 m以下の埋土には地山ブロックが含まれている。

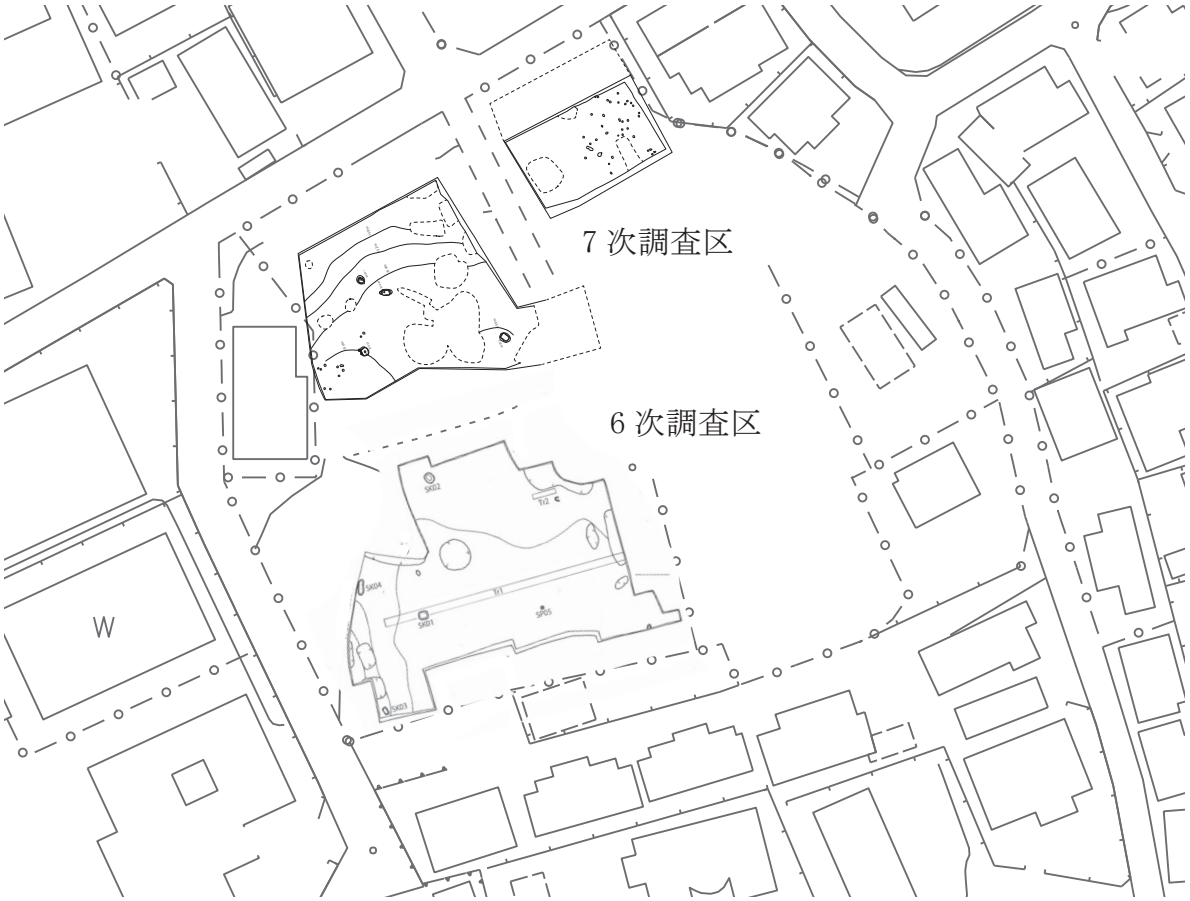
ＳＫ－００４（図９・10・11）

Ⅰ区北西部で発見された長軸 1.7 m、短軸 0.8 m、深さ 0.92 mの楕円形をした土坑である。ＳＫ－００２、００３と比べ標高が低い位置で発見された。底面に径 12㎝、深さ 10㎝のピットが見られる。

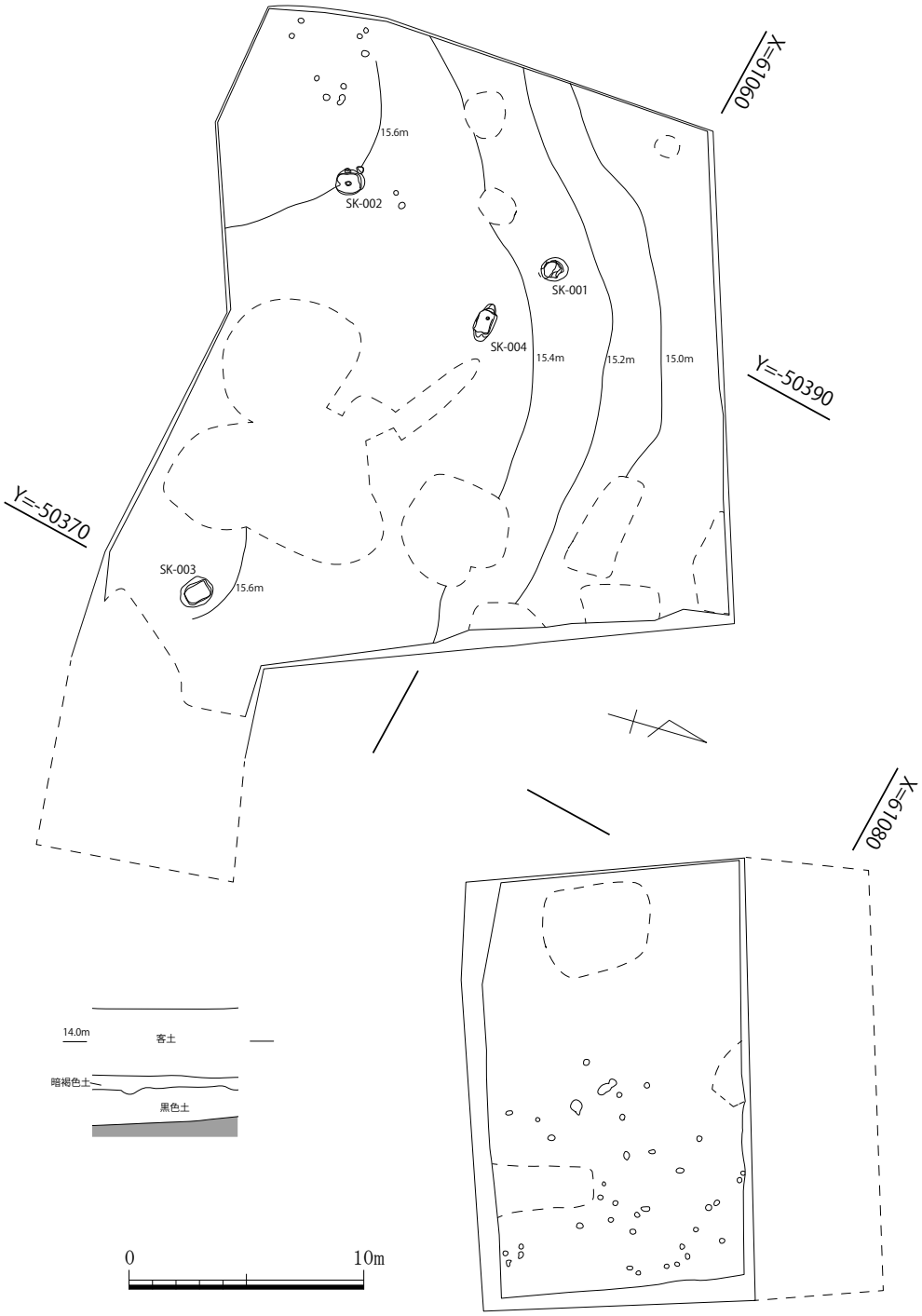
１はⅡ区清掃中に発見した須恵器の坏身である。復元高台径 9.4㎝、残存高 1.5㎝。内外面ともにナデ調整が施されており、内面の一部に回転ヨコナデが残っている。

４．まとめ

今回の調査で発見された遺構は土坑が４基とピットが複数である。遺物が少なく時期を判断することは難しいが、確認できた遺構の特徴から南部で行われた６次調査で発見された土坑２基と同時期のものではないかと考えられる。また第３次調査では落とし穴状遺構が４基みつかっており（市報 568）、６次調査でも２基確認されている（年報 Vol.32　p.31-34）。SK-002 と SK-003 はその形態や長軸がおおよそ傾斜方向に向いていることから、これらと同様落とし穴である可能性も考えられる。



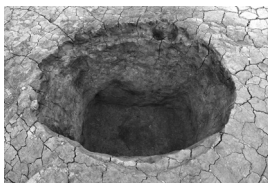

４．調査区位置図（1/1000）




5. 調査区全体図（1/300）、Ⅰ区北壁土層柱状図

6. SK-001（西から）

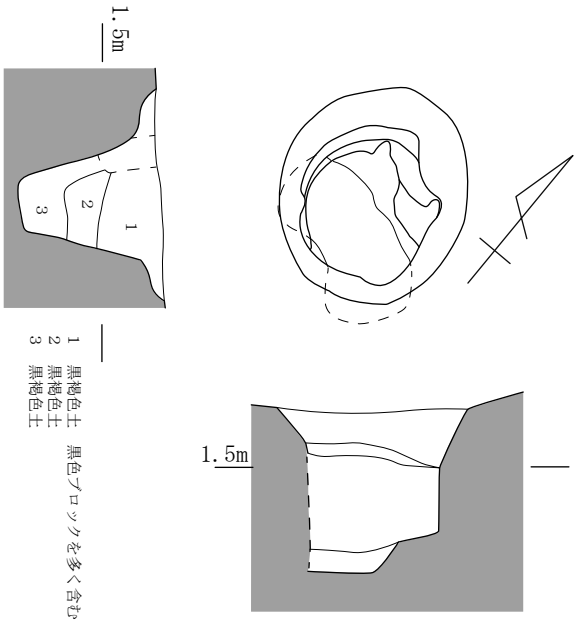
7. SK-002（西から）



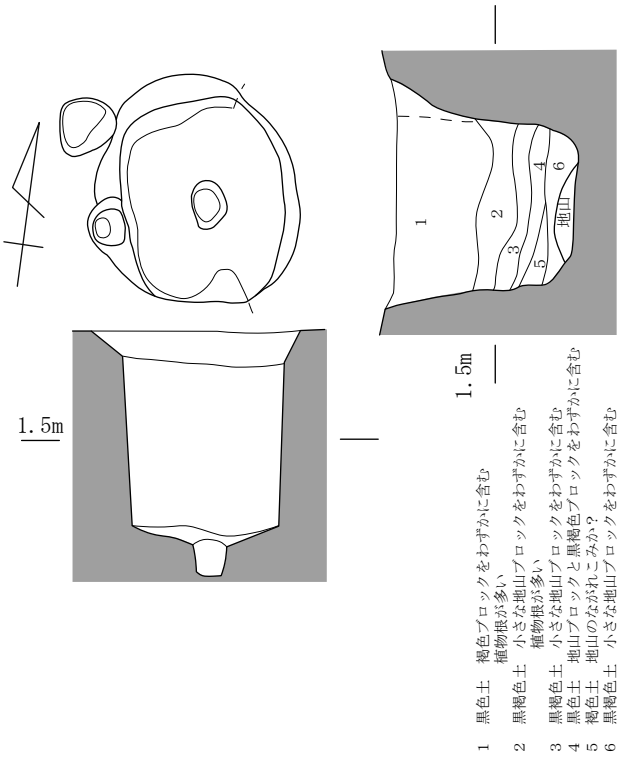
8. SK-003（東から）

9. SK-004（北から）

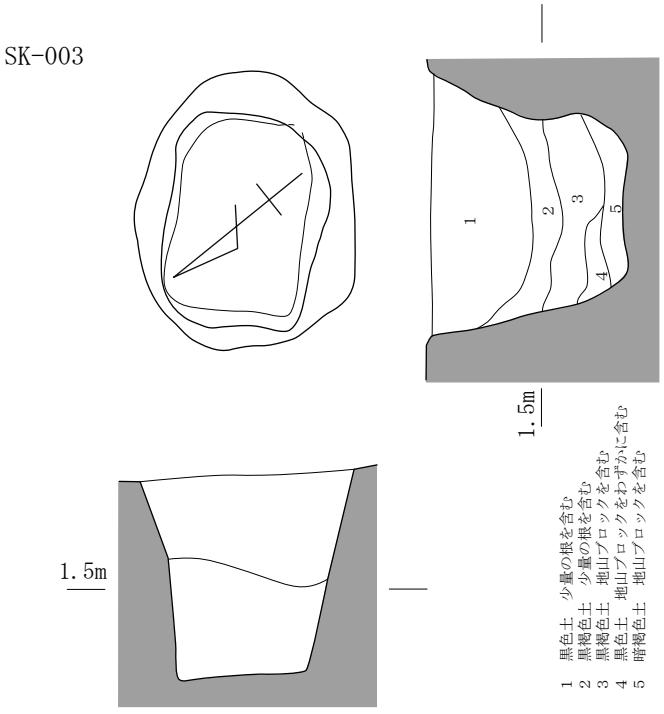
SK-001



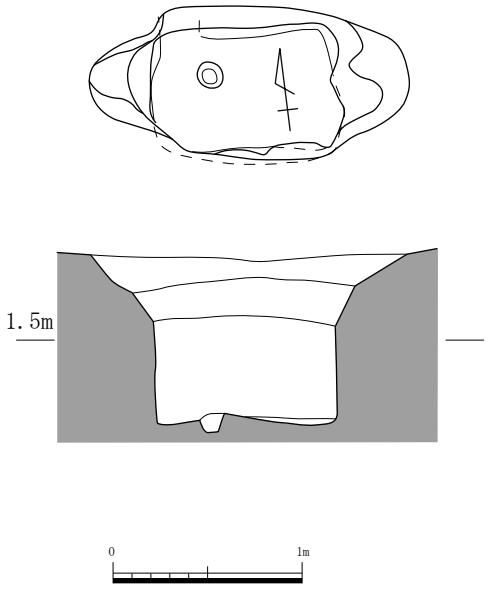

SK-002



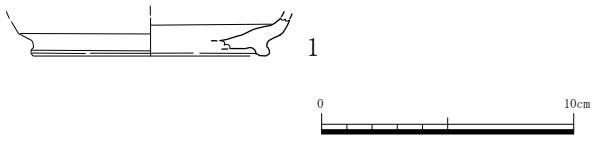

SK-003




SK-004



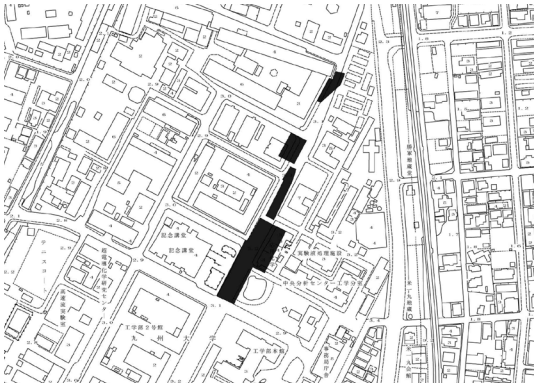

10. Ⅰ区検出遺構実測図（1/40）




11. Ⅱ区出土遺物（1/3）

## 2023　箱崎遺跡 113 次（HKZ-113）

所 在 地　東区箱崎 6 丁目 10-1
調査原因　都市計画道路建設
調査期間　2020.7.16 ～ 2021.2.28
調査面積　6,220㎡
担 当 者　阿部泰之・今井隆博
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（33　貝塚　2639　S = 8,000）

2．池状遺構（東から）

### 調査の概要

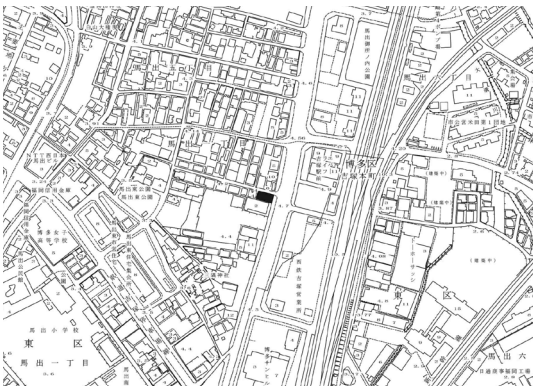
箱崎遺跡は、西に博多湾を臨み、東を宇美川に限られる砂嘴状の砂丘上に位置する。今回の調査地は遺跡の北端、九州大学旧箱崎キャンパス跡地内である。遺構面は、地点により起伏があるものの，標高 2 m前後の黄色砂丘砂である。

検出した遺構は、柱穴･土坑･溝･井戸･墓･池状遺構である。井戸は瓦組みで、幕末～近代のものと思われる。墓は 12 世紀後半頃の木棺墓で、土師皿・龍泉窯青磁椀・白磁皿・湖州鏡・刀子が副葬されていた。撹乱坑からも湖州鏡やほぼ完形の青磁椀が出土しており、付近には同時期の墓の存在が想定される。池状遺構は中世後半～近世のものと思われ、落ち際には多量の礫が散乱していた。礫のなかには板碑が混じっており、板碑を転用して組み合わせた箇所もある。

今回の調査では平安時代～江戸時代の集落･墓を検出した。遺跡北端部の様相を把握することができた。

## 2024　箱崎遺跡 110 次（HKZ-110）

所 在 地　東区馬出 1 丁目 363-1、2、3
調査原因　共同住宅建設
調査期間　2020.8.11 ～ 2020.9.17
調査面積　99㎡
担 当 者　荒牧宏行
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（35　吉塚　2639　S = 8,000）

2．調査区南半部（西から）

### 調査の概要

箱崎遺跡の南西端に位置する。地山の明黄褐色砂は 3.8 ～ 3.6m を測り、西側へ下降する。調査区西端付近では明黄褐色砂の包含層が堆積し、その下層である地山の明黄白色砂は標高 3.2m まで急下降する。

検出された遺構は柱穴を主に木棺墓 3 基である。柱穴を含め、地形が落ちていく西側では遺構密度が疎となっていく。木棺墓の 1 基からは土師器椀、鉄刀、刀子が出土した。全体からの出土遺物中には古代～中世瓦片が比較的多く含まれ、周辺の調査と合わせ，寺院が近辺に建立されていたとみられる。

出土遺物の時期は古墳時代初頭、古代～中世前半期がみられ、12 世紀中頃が比較的多い。

# 2025　箱崎遺跡 111 次（HKZ-111）

所 在 地　東区箱崎 6 丁目 10-1（五十周年記念講堂南）
調査原因　学術研究（記録保存・HZK2004）
調査期間　2020.8.24 ～ 2020.10.8
調査面積　400㎡
担 当 者　九州大学埋蔵文化財調査室
処　　置　記録保存

1．調査地点の位置（34　箱崎　2639　S = 8,000）

2．発掘区全景（南西から）

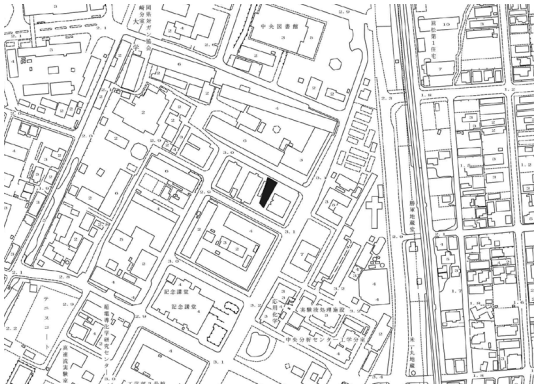
## 調査の概要

本調査地点は、九州大学箱崎キャンパスの南部、五十周年記念講堂の南側道路部分にあたる。元寇防塁推定ライン上に位置しており、当該地における元寇防塁とその関連遺構・遺物の把握を目的として調査を行った。

検出遺構は溝 2 条、土坑 2 基、ピット 3 基。近現代の攪乱層から中世の陶磁器・土師器などが一定数出土することから、近現代の整備の際に遺跡が壊されてしまった可能性が高い。元寇防塁の石積み遺構は確認できなかったものの、近現代の攪乱層の下部から、防塁に伴うと考えられる大溝を検出した。本調査地点の北側に位置する HZK1805 地点、また南側に位置する HZK1901 地点でも、同様の遺構が見つかっており、検出位置や掘り込みの形状、大溝内の埋土の状況など類似性から、本調査地点で検出した大溝も元寇防塁に伴うものである可能性が極めて高いと判断した。

# 2026　箱崎遺跡 112 次（HKZ-112）

所 在 地　東区箱崎 6 丁目 10-1（理学部二号館前南地点 4 次）
調査原因　学術研究（記録保存・HZK2005）
調査期間　2019.8.20 ～ 2019.9.25
調査面積　40.0㎡
担 当 者　今井隆博
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（33　貝塚　2639　S = 8,000）

2．発掘区全景（南西から）

## 調査の概要

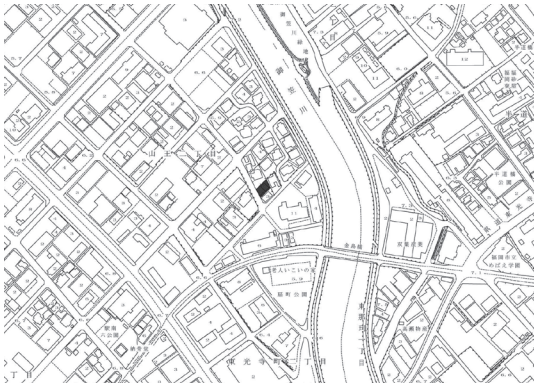
今回実施した HZK2005 地点（理学部二号館前南地点 4 次）は、2018 年度に元寇防塁関係遺構が検出された HZK1802 地点および同 1805 地点の東隣に位置する。目的は、13 世紀末ないし 14 世紀前半代における防衛施設内部の様相を把握することである。

周辺建物の基礎の撤去を大がかりに行ったらしく、調査地の状態は決して良いものでなかった。調査地の 50％以上で，攪乱が自然堆積層（縞状堆積）まで達している。

遺構は 7 基発見された。ほとんどが小ピットで、土坑と不明遺構がそれぞれ 1 基ずつある。出土遺物も少ない。隣接する HZK1805 地点の遺物の多さが、より際立つ結果となった。

# 2027　山王遺跡 17 次（SNS-17）

所 在 地　博多区山王 2 丁目 18-14
調査原因　戸建住宅
調査期間　2020.9.14 ～ 2020.10.28
調査面積　88㎡
担 当 者　佐藤一郎
処　　置　記録保存

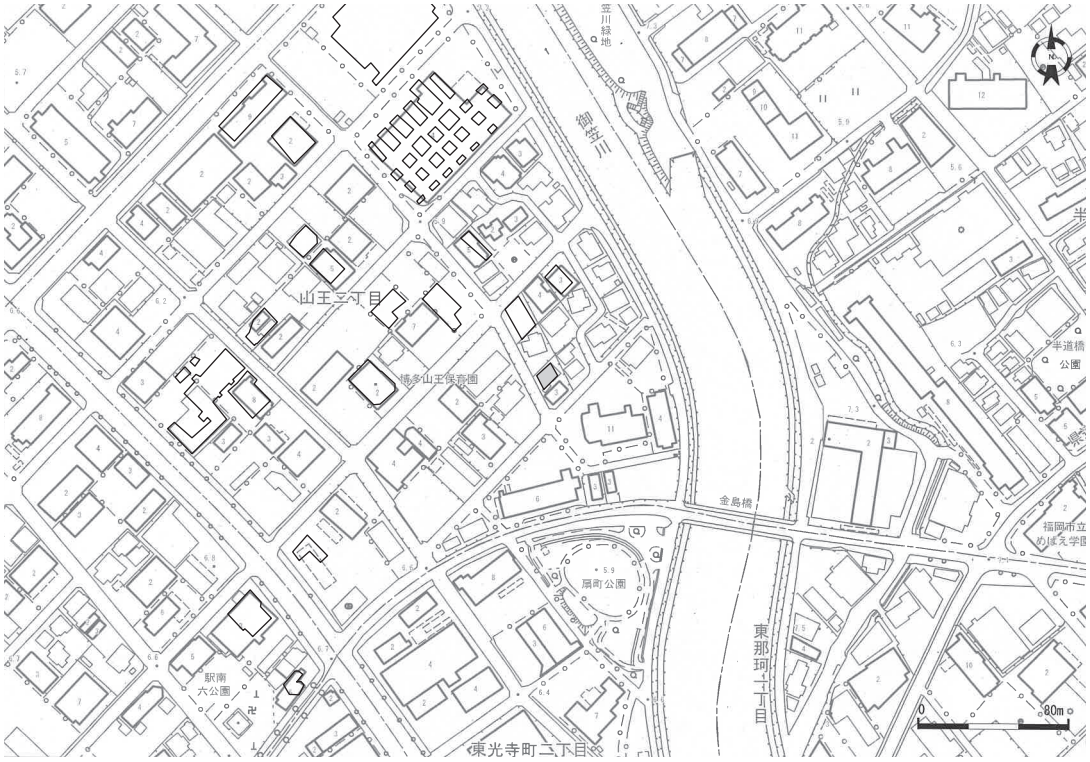


1．調査地点の位置（37　東光寺　2379　S = 8,000）

## 調査の概要

1. 調査に至る経緯

2020（令和 2）年 1 月 22 日と 3 月 25 日に、九州八重洲株式会社から本市に対して博多区山王 2 丁目 18-14 における戸建住居 2 棟の建設に伴う埋蔵文化財の有無についての照会文書（2019-2-1085・1331）が申請された。申請地は周知の埋蔵文化財である山王遺跡の東南端に位置する。埋蔵文化財課は 2019 年 12 月 5 日に設計未定の段階で別申請を受け当該地の確認調査を行っており、現地表から 100cm 以下で遺構を確認している。申請面積 165.10㎡の内、基礎杭打設による破壊が及ぶ 98.56㎡を対象にやむを得ず記録保存のための発掘調査を行うこととなった。調査は同年 9 月 14 日から 10 月 28 日まで行われた。




2．山王遺跡第 17 次調査地位置図（S=1/4,000）

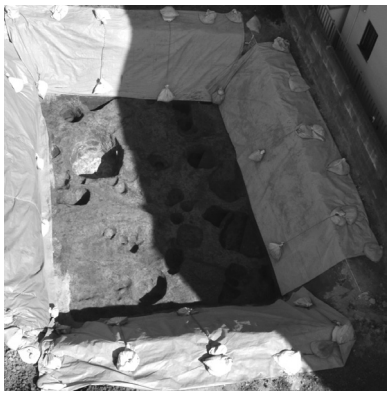
2. 位置と周辺状況

山王遺跡は福岡平野のほぼ中央を流れる御笠川下流域左岸に立地する。調査地は山王遺跡の南東端に位置する。現況は耕作地を盛土して造成した宅地で、遺構は耕作土直下、標高 5m 前後のローム上面で確認され、標高 4.4m 前後で八女粘土層に達する。

3. 遺構と遺物

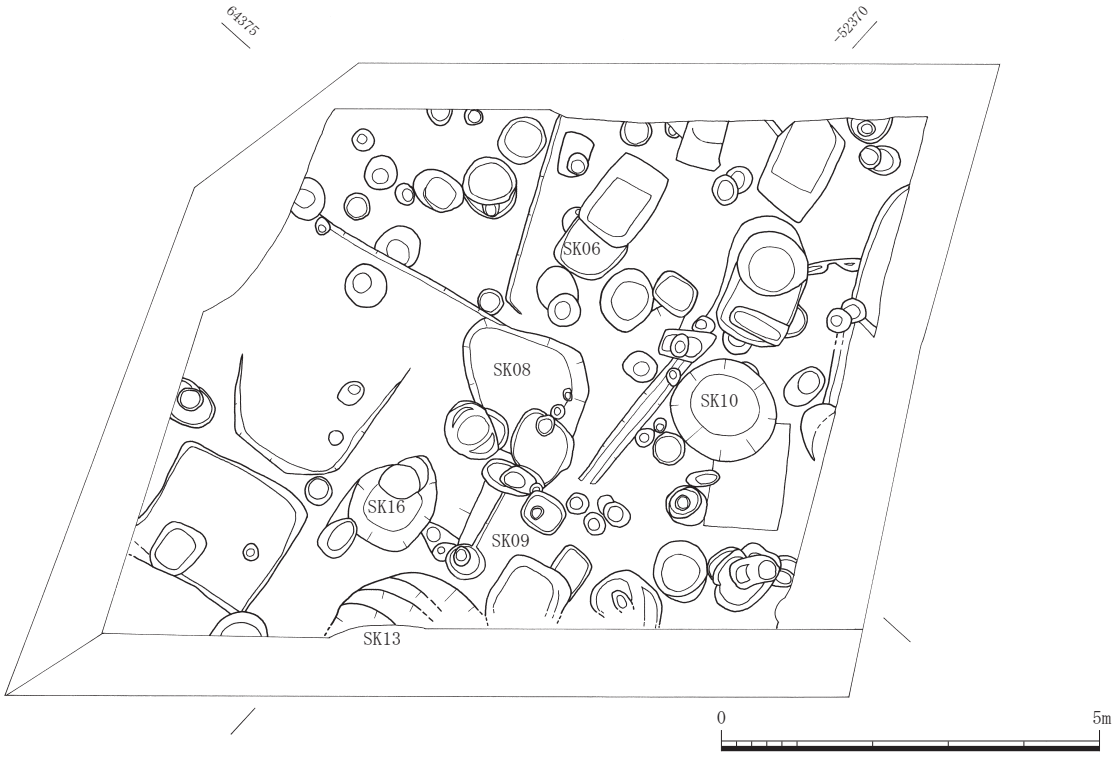
調査対象区域は狭隘で遺構面まで厚く盛土されおり、3 区分して行った。溝 1、土坑 15、柱穴・ピット状遺構 60 余を検出した。遺構からコンテナ 12 箱の土器が出土した。そのほとんどは弥生時代中期後半のものであが、土坑 SK13 から須恵器甕片が出土した他、中世前半の遺物もわずかにみられた。

3.　Ⅰ区全景（南西から）

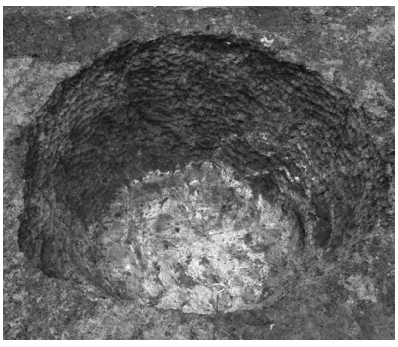


4.　Ⅱ区全景（南西から）

5.　Ⅲ区全景（南西から）

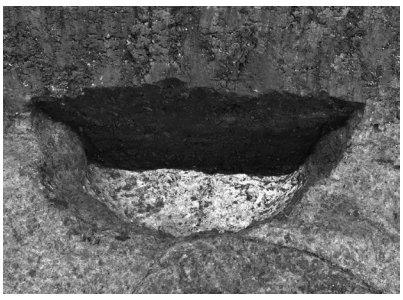



6.　山王遺跡第 17 次調査遺構配置図（S=1/100）



7.　SK10（南から）

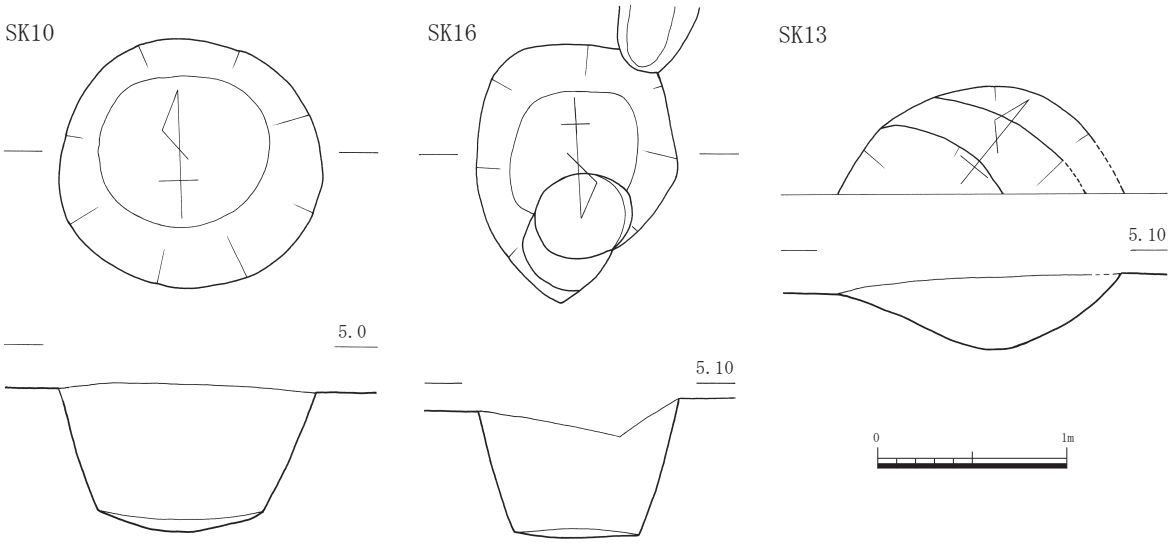
8.　SK13（北から）



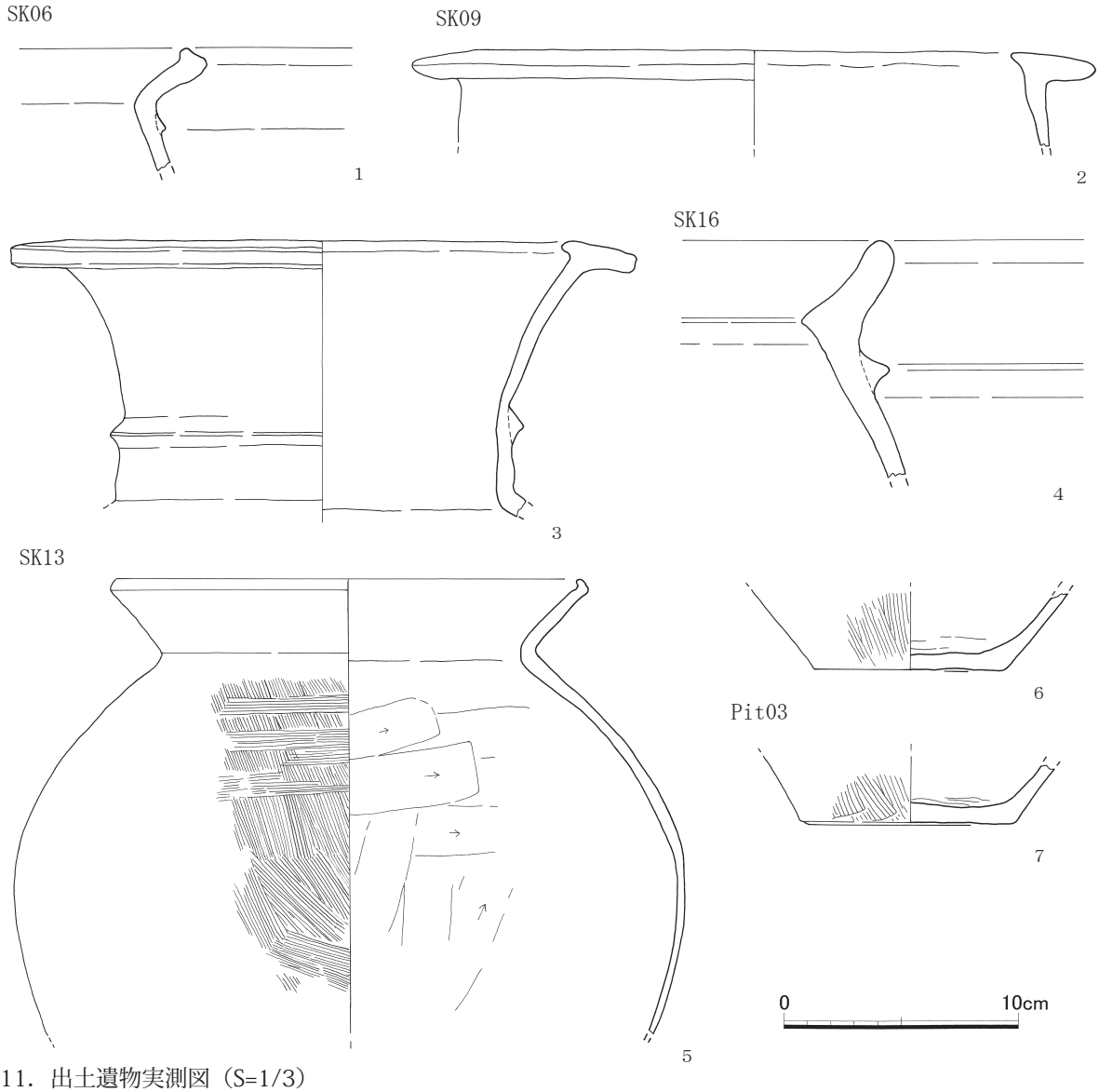
9.　SK16（北から）

検出遺構　土坑 SK10 調査区の東側で検出、円形を呈し、径 1.4m、深さ 0.8m を測る。SK13 南東端で検出、遺構の南東は調査区外に延びる。SK16 南で検出、一辺 1.2m の隅丸方形、深さ 0.8m を測る。

出土遺物　弥生土器 1 は端部が跳ね上がった甕の口縁部片で、屈曲部外面下に断面三角形の突帯が付く。2 は甕、3 は壺の鋤先状口縁部片で、3 の頸部外面には断面三角形の突帯がめぐる。4 は内湾する口縁部外面下に断面三角




10. 土坑実側図（S=1/40）

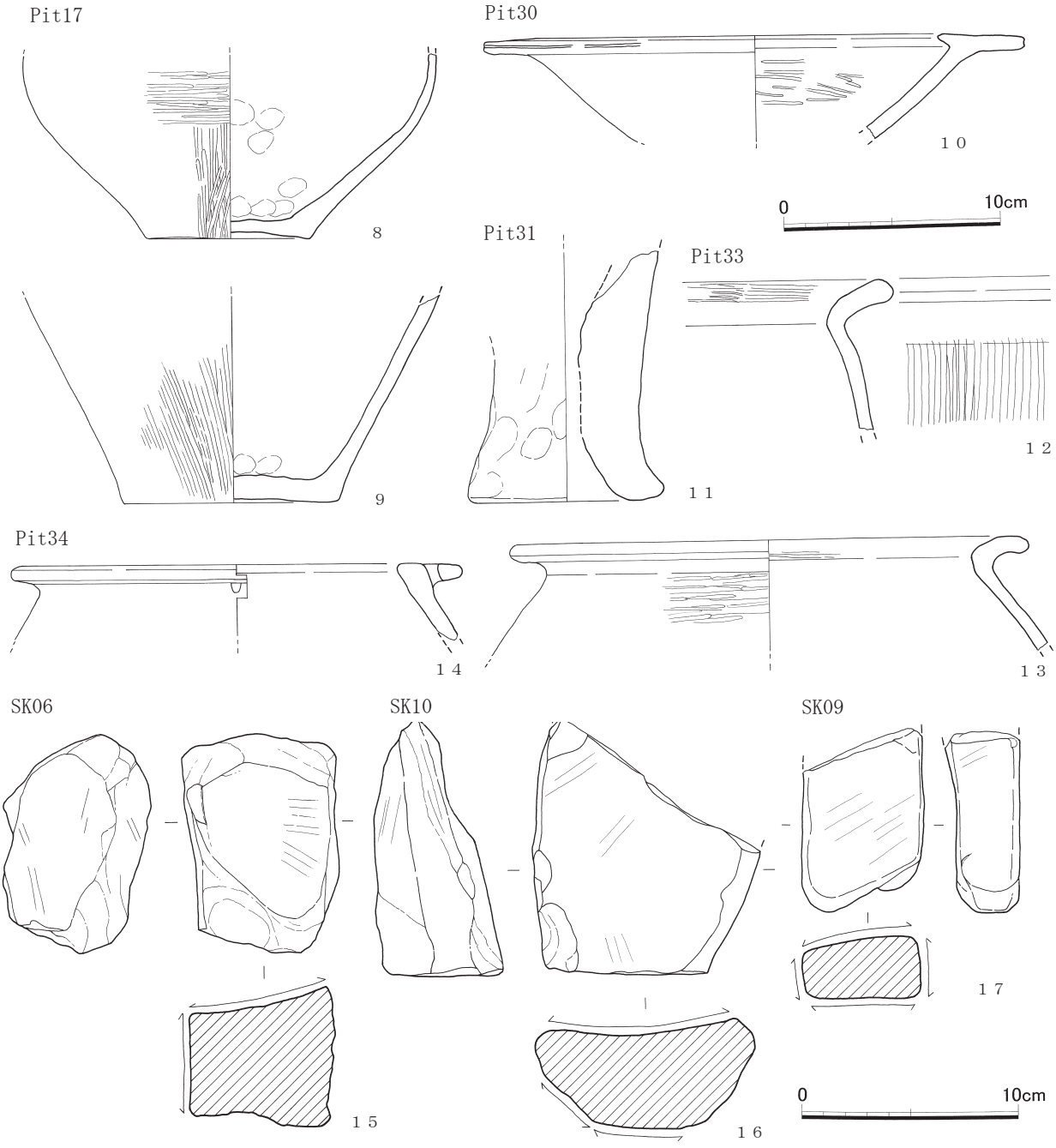



11. 出土遺物実測図（S=1/3）

形の突帯が付く。6･7 は底部片、8 は壺の体部で、外面中位に横方向、下位には縦方向のヘラ磨きを施す。9 は甕の体部下半、10 は鋤先状口縁の高杯の杯部で内面にヘラ磨き痕が残る。11 は器台、12 は甕口縁部、13･14 は壺口縁部片で、14 には蓋を固定するために孔を穿つ。

土師器　5 は甕、口縁部が直線的に外上方に開き、端部は内に突出している。口縁部は内外面とも横ナデ、体部外面上位は縦方向のハケ目の後、横方向のハケ目、中位以下は縦方向のハケ目、内面上位は横方向、中位以下は縦方向のヘラ削りを施す。

石製品　15 ～ 17 は砥石で、2 ～ 4 面を砥ぎ面とする。石材は 15･16 が砂岩、17 は玄武岩である。




12. 出土遺物実測図（S=1/3）

## 2028　久保園遺跡 5 次（KBZ-5）

所 在 地　博多区東平尾 2 丁目 541-1
調査原因　個人住宅建設
調査期間　2020.9.23 ～ 2020.11.20
調査面積　343.12㎡
担 当 者　三浦萌
処　　置　記録保存

### 調査の概要

久保園遺跡は天王山の南西部の緩やかな斜面一帯に位置する弥生から中世にわたる遺跡である。1 次調査では弥生時代中期後半ごろの掘立柱建物が 2 棟発見されている。今回の調査区は天王山の西側裾野に位置し、久保園遺跡の北端にあたる。

今回確認できた遺構は主に弥生時代中期の溝 1 条、弥生末～古墳初の方形（隅丸方形）周溝状遺構 1 基（1 号方形周溝状遺構）である。他には中世の土坑、近世の溝などがある。1 号方形周溝状遺構は約 8 m × 8 m（台地部約 6 m × 6 m）の規模である。当調査区の南西で行われた第 1 次調査で発見された掘立柱建物の時期よりも後出する。また住居址なども確認できていないことから当調査区は集落の端に位置しているものと考えられる。

1．調査地点の位置（22　上臼井　0083　S = 8,000）

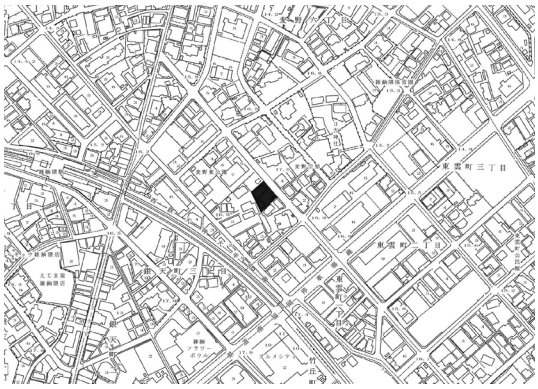
2．Ⅱ区全景（北から）

## 2029　麦野 C 遺跡 19 次（MGC-19）

所 在 地　博多区麦野 6 丁目 12 番 12
調査原因　共同住宅建設
調査期間　2020.10.12 ～ 2020.12.18
調査面積　296㎡
担 当 者　赤坂亨
処　　置　記録保存

### 調査の概要

本調査区は麦野 C 遺跡の北側中央に位置し、現況は北西方向緩斜面である。調査区北側では幅約 4 m深 1.2 mで底面が平らな大溝 SD-1、幅 1.6 m深 0.8 mで断面逆三角形の SD-2 が北東 - 南西の区画整理以前の旧道方向で検出された。またほぼ直交するように溝 SD-3・4 も検出された。これらの溝の時期は室町時代から戦国時代頃とみられる。また調査区南側では竪穴式住居跡 1 棟と、住宅以前の畑の畝の方向に延びる底面が平らな幅 2.6 m深 1.2 mの溝 SD-6 を検出した。それぞれの溝は調査区外に向かってさらに延長する。溝より中世後半の土器および陶磁器が出土した。本調査区で検出された溝と類似する溝は隣接する麦野 A 遺跡でも検出され、天正 9 年 (1581) 戸次鑑連が麦野村に軍勢を置いたとする古記録から、戦国時代の城館を囲む堀と推定されており、本調査区も同様に戦国時代の城館の堀の可能性が考えられる。

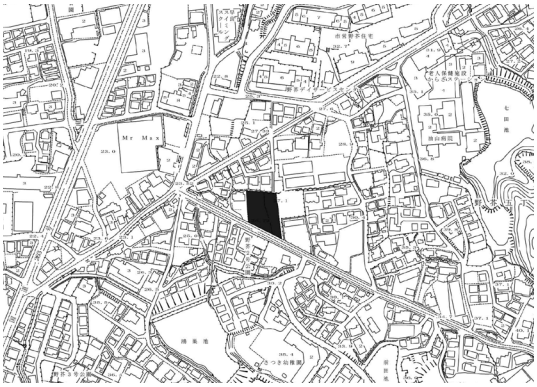


1．調査地点の位置（12　麦野　0050　S = 8,000）

2．Ⅰ区全景（北東から）

## 2030　野芥遺跡 20 次（NKE-20）

所 在 地　早良区野芥 5 丁目 378 番 1
調査原因　宅地造成
調査期間　2020.10.12 ～ 2020.11.11
調査面積　211.5㎡
担 当 者　池田祐司
処　　置　記録保存


1．調査地点の位置（84　重留　0319　S = 8,000）

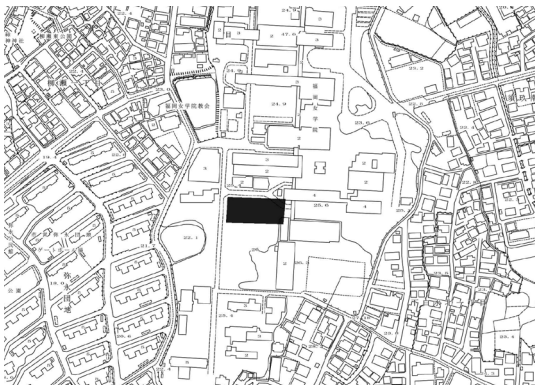
2．調査区全景（北から）

### 調査の概要

油山山塊が平野に接する扇状地状の緩斜面に位置する。黄褐色粘質土および灰白色砂質土上で古墳時代後期の古墳、集落遺構（下面）を確認した。遺構面は南端部で南へ下がる。遺構は竪穴建物 5 基＋α、土坑、ピットである。竪穴建物は残りの良い SC007 で一辺 4.3 mの方形で 4 基の柱穴を確認した。SC009 は一辺 2.6 mほどで北隅にカマドを持つ。出土遺物が少なく時期は決めがたいが、 6 紀末から 7 世紀初めを想定している。南側は谷へと低くなっていると考えられるが、端部でも竪穴建物と考えられる遺構を確認した。また 2 間× 2 間の掘立柱建物を 1 棟確認している。南側では 1 ～ 2 m大の礫が遺構面に突出し、竪穴も規制を受けている。水田耕作時にも障害になったと考えられ、礫を割って埋めた痕跡を確認した。遺構埋土からは、石鏃、松浦産の黒曜石原石など縄文時代の遺物も出土している。

## 2031　弥永原遺跡 19 次（YNB-19）

所 在 地　南区曰佐 3 丁目 42-1
調査原因　体育館建設
調査期間　2020.10.15 ～ 2021.3.16
調査面積　1776.47㎡
担 当 者　清金良太
処　　置　記録保存


1．調査地点の位置（26　上曰佐　0105　S = 8,000）

2．甕棺墓検出状況（上が北）

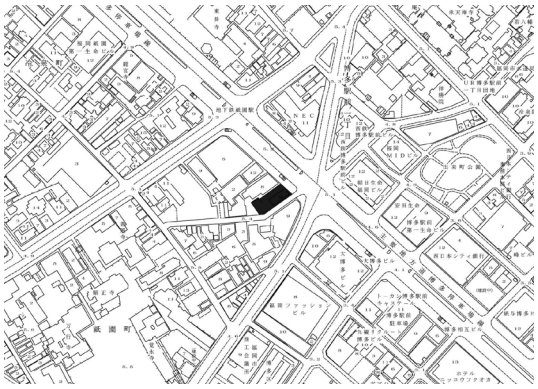
### 調査の概要

対象地は弥永原遺跡の南側、福岡女学院の校内に位置する。調査区の南側では 18 次、北西側では 15 次、北東側では 6 次調査が行われている。弥生時代の甕棺、土坑墓、区画溝が検出されている。

甕棺は 18 基確認でき、そのうち成人棺が 11 基、小児棺が 7 基検出された。北東、北西側の 6 、15 次調査は、墓域であり、19 次調査では北側に甕棺等の墓が確認されたことから、19 次調査地点から北側に墓域が広がっていることが確認された。土坑墓は 3 基あり、そのうちの 1 基から朱が発掘された。土坑墓は底部のみの検出であり、土器が無く時期は不明である。区画溝は墓域を区画するように検出された。この溝にのみ、深いピットがみられることから柵であろうと判断した。土器の破片が数点柱穴からみつかり、古墳時代初めの時期と判明した。

## 2032　博多遺跡群 244 次（HKT-244）

所 在 地　博多区祇園町 2-1、2-2、59、4、5
調査原因　ホテル建設
調査期間　2020.11.9 ～ 2021.1.7
調査面積　145㎡
担 当 者　佐藤 一郎
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（49　天神　0121　S = 8,000）

### 調査の概要

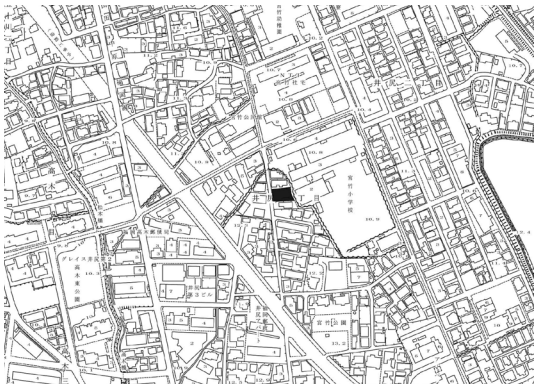
博多遺跡群は福岡平野の中央、那珂川河口部右岸に位置し、博多湾岸に沿って形成された古砂丘上に立地している。調査地は博多遺跡群の南東寄りに位置する。

隣地調査の実績（GL-0.8m 以下で遺構面を確認）から GL-1.3m の包含層（暗褐色砂、8 世紀頃）上面と下面の砂丘砂で遺構検出を行った。包含層上面では、溝 1 条、12 世紀後半～ 13 世紀前半の井戸 5 基、土坑 10 基、柱穴・ピット状遺構を検出した。溝は調査区東で南側の肩と底面の一部を検出、33 次調査で検出された 16 世紀の大溝 SD004 の延長とみられる。また、上面では断片的ではあるが、黒色砂（ I 層、平安中期の風成砂）層が確認された。包含層下面では 10 世紀後半の土壙墓、その上面で土師器杯 5 点・小椀 1 点、須恵器壺 1 点が出土した他、8 世紀代の柱穴・ピット状遺構 4 を検出した。

2．土器埋納遺構（南から）

## 2033　井尻 B 遺跡 47 次（IGB-47）

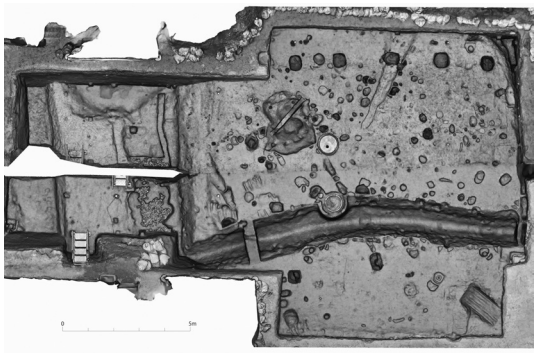
所 在 地　南区井尻 1 丁目 735 番 9
調査原因　戸建住宅建設
調査期間　2020.11.10 ～ 2021.1.15
調査面積　200.93㎡
担 当 者　久住猛雄
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（24　板付　0090　S = 8,000）

### 調査の概要

47 次調査地点は、井尻 B 遺跡の北端近くに位置し、周囲の標高は 11.2 ～ 11.3 mで、南側隣地は 22 次調査地点である。遺構は、鳥栖ローム上面で検出された。溝 9、落込み遺構 1、掘立柱建物 3、炉跡遺構 2、ピット（柱穴など）多数である。比較的大きな溝が 4 条ある。調査区西端南北溝 SD03 は、中世以降と思われ、22 次 SD01 の続きとみられる。切通しの道路遺構の可能性がある。その東側の南北溝 SD01 は、下層の一定の高さに礫敷遺構 SX01 がみられた。中世後半である。SD02 は東西溝で、弥生時代終末期の掘削だが、飛鳥時代に再掘削されている。SD04 は調査区東端の南北溝で、古代の溝である。掘立柱建物はいずれも弥生時代である。炉跡遺構は、削平された弥生時代の竪穴住居に伴うものであろう。井尻 B 47 次調査では、遺跡の北端付近にも関わらず、弥生時代から中世までの遺構が比較的多く検出された。



2．調査区合成 3D 俯瞰写真（上が北）

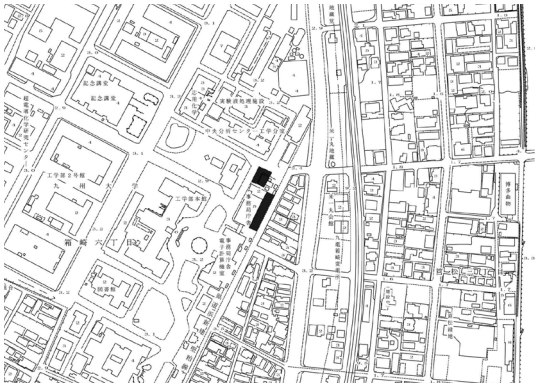
## 2034　箱崎遺跡 114 次（HKZ-114）

所 在 地　東区箱崎 6 丁目 10-1（本部第二庁舎）
調査原因　学術研究（記録保存・HZK2006）
調査期間　2020.12.1 ～ 2021.3.31
調査面積　1,000㎡
担 当 者　九州大学埋蔵文化財調査室
処　　置　記録保存

### 調査の概要

HZK2006 地点（本部第二庁舎地点）は、第二庁舎の基礎撤去に先立ち実施した発掘調査である。第二庁舎建物の北側および東側の 1000㎡を調査した。建物北側を A 区、東側を G 区と呼んで記録を行っている。 A 区では、土坑、土坑墓、火葬土坑など 59 遺構が、G 区では溝、土坑墓、火葬土坑など 20 基が検出された。2018 年度に本地点の近傍で実施した立会調査で、すでに中世前半代の土坑墓を発見していたが、今回の調査でも同種の遺構群が数多く検出され、この一帯が葬俗に関わるエリアであったことが明らかにされた。

土坑墓からは副葬された龍泉窯青磁や土師皿が出土した。また、棺の存在を示す釘類も多く見つかっている。火葬土坑からは、火葬骨や置き台として用いられた板碑などが見つかった。また、攪乱坑の中からも石塔類が 5 例検出されており、今後年代等の検討を進める予定である。



1．調査地点の位置（34　箱崎　2639　S = 8,000）

2．発掘区全景（北東から）

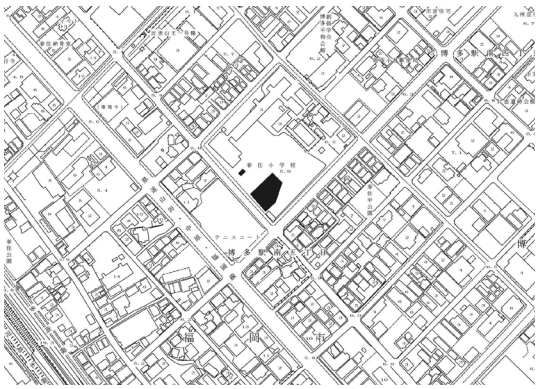
## 2035　比恵遺跡群 157 次（HIE-157）

所 在 地　博多区博多駅南 5 丁目 3-1
調査原因　校舎建て替え
調査期間　2020.11.16 ～ 2021.3.31
調査面積　910.12㎡
担 当 者　三浦萌・中尾祐太・中園将祥
処　　置　記録保存

### 調査の概要

比恵遺跡群は福岡平野の中央を流れる那珂川と御笠川に挟まれた丘陵上に立地する縄文時代から中世にわたる遺跡である。当調査区の西隣で行われた第 8 次・72 次調査では、6 世紀後半から 7 世紀後半の 3 間× 3 間の総柱建物が 10 棟と 3 本一組の柵状遺構が確認されており、那津官家に関連する遺跡として、国史跡に指定されている。

今回調査したのは、福岡市立春住小学校の校庭の一部である。調査の結果、弥生時代の土坑 2 基、古墳時代初頭の井戸 1 基、その他に時期不明（弥生？）のピット複数と近代の溝 4 条を確認した。三本柵列等のミヤケ関連遺構は確認できなかった。よって三本柵列は 8 次・72 次調査区と当調査区の間にある道路付近をめぐっている可能性が高まった。調査区の北東部分は湿地堆積がみられる。また調査区の大半は削平されている。

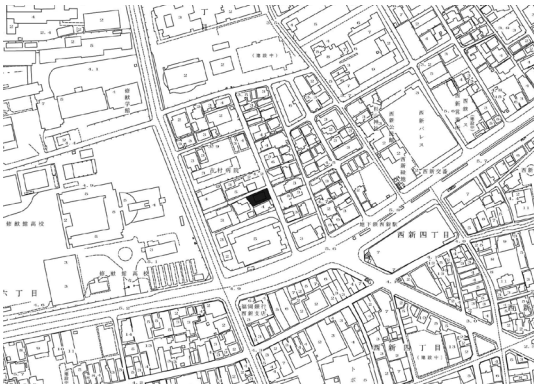


1．調査地点の位置（37　東光寺　0127　S = 8,000）

2．Ⅱ区全景（東から）

## 2036　西新町遺跡 23 次（NSJ-23）

所 在 地　早良区西新 3 丁目 204 番 3
調査原因　土地売却
調査期間　2020.12.14 ～ 2021.1.7
調査面積　90㎡
担 当 者　常松幹雄
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（71　西新　0240　S = 8,000）

### 調査の概要

西新町遺跡は博多湾岸に形成された砂丘遺跡である。調査地は、砂丘の東部に位置している。

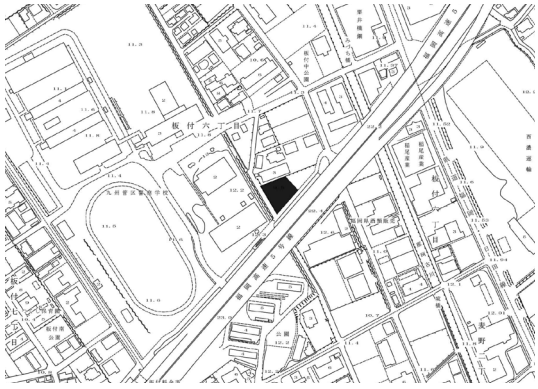
地表から 0.8 m下で黄白色の風成砂の層となる。風成砂を 0.3 mほど掘り下げた面で 4 基の土坑が検出され、うち 2 基の隅丸方形プランの土坑から土器がまとまって出土した。土坑は調査地の東側でも確認されたことから、集落はさらに東側に広がると推定される。土坑からは 3 世紀頃の西新式段階の台付甕や壺などが出土した。風成砂の遺物包含層では漁労に使われた石器なども検出された。

調査区は,これまでの調査で砂丘の最も東に位置している。検出された土坑の分布は、3 世紀代の集落の広がりを示している。今回の調査は小面積ではあったが、弥生時代終末から古墳時代にかけての湾岸部の様相を知るうえで貴重な所見を得ることができた。

2．調査区全景（南から）

## 2037　高畑遺跡 22 次（TKB-22）

所 在 地　博多区板付 6 丁目 10-5
調査原因　共同住宅建設
調査期間　2021.1.5 ～ 2021.3.24
調査面積　240㎡
担 当 者　池田祐司
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（24　板付　0095　S = 8,000）

### 調査の概要

調査地点は高畑遺跡が広がる丘陵の南東裾部に位置する。調査区北西側に八女ロームの斜面がみられ、東側に広がる堆積中で古墳時代後期、弥生前期から後期の遺物が出土した。まず 70㎝ほどの水田土壌を除去した面で土器細片が広がり、密度が高い東側 7 mほどでは、細片の下に土師器を中心とした土器が据えたような状態で出土した。高坏､小壺が目立つ。5 世紀を中心とした土器群と考えられる。

さらに下層には弥生時代の遺物包含層が 50㎝ほど堆積し、前期から後期の遺物が破片で出土する。丘陵斜面と八女ロームに接する包含層最下部ではほぼ前期の遺物のみが出土する。ただし、一区画で後期の土器が包含層最下部まで出土する範囲があり、建築材、鋤などの木製品が出土した。このほかに、縄文時代の磨製石斧、石鏃、旧石器時代の台形石器、細石刃が上記包含層中より出土した。

2．土器集中部（北西から）

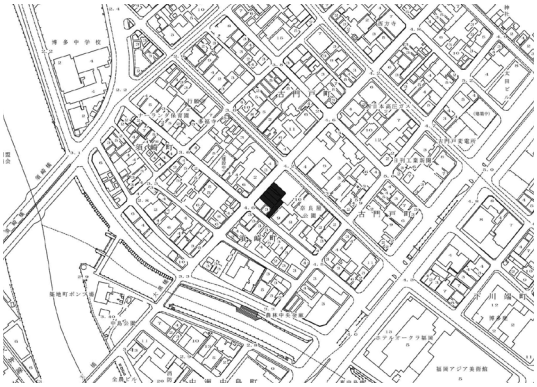
## 2038　博多遺跡群 245 次（HKT-245）

所 在 地　博多区須崎町 5-16
調査原因　テナント付き共同住宅建設
調査期間　2021.1.5 ～ 2021.5.7
調査面積　226.56㎡
担 当 者　中尾祐太・野村俊之
処　　置　記録保存

### 調査の概要

博多遺跡群は福岡平野の中央、那珂川河口右岸に位置し、博多湾岸に沿って形成された古砂丘上に立地する。調査地は遺跡南端に位置し、房州堀推定ラインに近接する。今回の調査では現地表下 0.9 から 1.8m まで礫混じりの粗砂（近世の遺物を含む）、2.0m まで褐灰色土（近世の遺物を含む）が堆積し、2m 以下で 15 世紀中頃までに埋没した河川堆積、もしくは堀の落ち SD01 を検出した。深さ 0.5 ～ 0.6m（標高 1.4m 前後）で地山の灰白色砂となり、岸、立ち上がりを検出することはできなかった。

検出した遺構を河川とした場合、御笠川旧河道の一部とみられる。堀とした場合、埋土から出土した遺物は大内氏の博多支配の時期に相当し、『筑前国続風土記』にある大内氏によって築造された堀の一部となる可能性がある。



1．調査地点の位置（49　天神　0121　S = 8,000）

2．調査区全景（南東から）

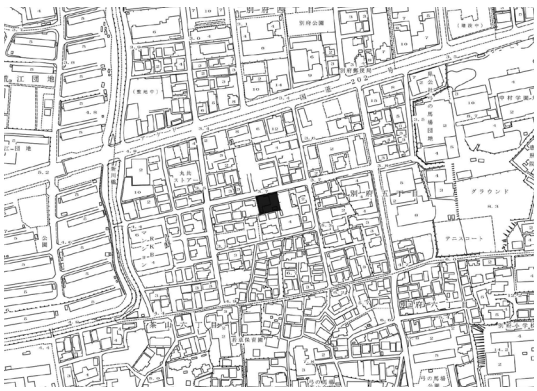
## 2039　別府遺跡 2 次（BEF-2）

所 在 地　城南区別府 5 丁目 198 番
調査原因　共同住宅建設
調査期間　2021.1.25 ～ 2021.3.4
調査面積　400㎡
担 当 者　常松幹雄
処　　置　記録保存

### 調査の概要

別府遺跡は、茶山方面からのびる丘陵の北側に位置している。調査地は標高 4 mほどの丘陵の突端にあたる。

今回の調査では、弥生時代の竪穴住居跡と土坑 2 基が明らかとなった。住居跡は円形プランで直径 5.6 m、約 17 畳の広さとなる。中央には炉跡があり、炉跡を囲むように 4 本の柱穴が見つかった。土坑 SK02 は弥生後期、土坑 SR03 は中期後半に比定される。住居跡床面で弥生中期後半の土器が出土した。炉の西に近接する中央土坑では柱状片刃石斧の破片 1 点、作業用の台石が出土した。土坑 SK03 では弥生中期後半の土器のほか大型石錘が出土した。住居跡に置かれた扁平な灰色の石（火成岩か）は、東の土坑 SK03 の石と色調がよく似ている。土坑の石は、両端を打ち欠かき、大型の錘に加工されている。土坑中央では短軸に 2 つの柱穴が検出されたことから、作業場的な施設だった可能性がある。

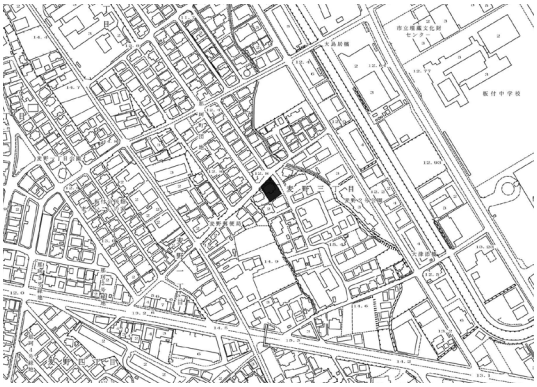


1．調査地点の位置（72　荒江　0244　S = 8,000）

2．調査区全景（西から）

# 2041　麦野 A 遺跡第 31 次（MGA-31）

所 在 地　博多区麦野 3 丁目 11-3、11-99
調査原因　戸建住宅建設
調査期間　2020.1.18 ～ 2020.3.6
調査面積　176.0㎡
担 当 者　中園将祥　野村俊之
処　　置　記録保存


1．調査地点の位置（12　麦野　0048　S = 8,000）

調査の概要

1　調査に至る経緯

平成 30 年 8 月 17 日付けで当該地における埋蔵文化財の有無についての照会文章が提出された（事前審査番号 30-2-476）。これを受けて埋蔵文化財課事前調査係は平成 30 年 9 月 6 日に試掘調査を行い、地表面下約 20 ～ 40㎝でピット状遺構・溝状遺構などの遺構を検出した。遺構の保全等に関して申請者と協議を行い、遺構が影響を受ける 範囲について記録保存のための発掘調査を実施した。調査は対象地が狭いため、2 区画に分けての調査となった。

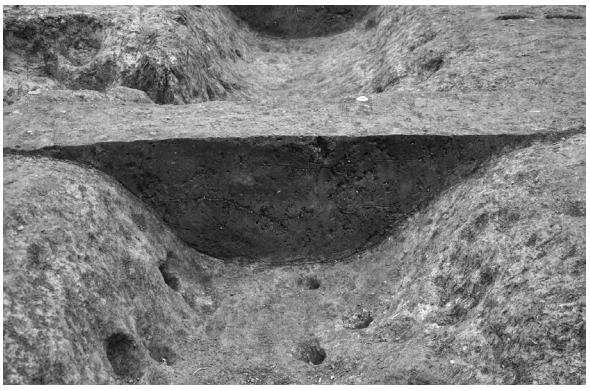
2　位置と環境

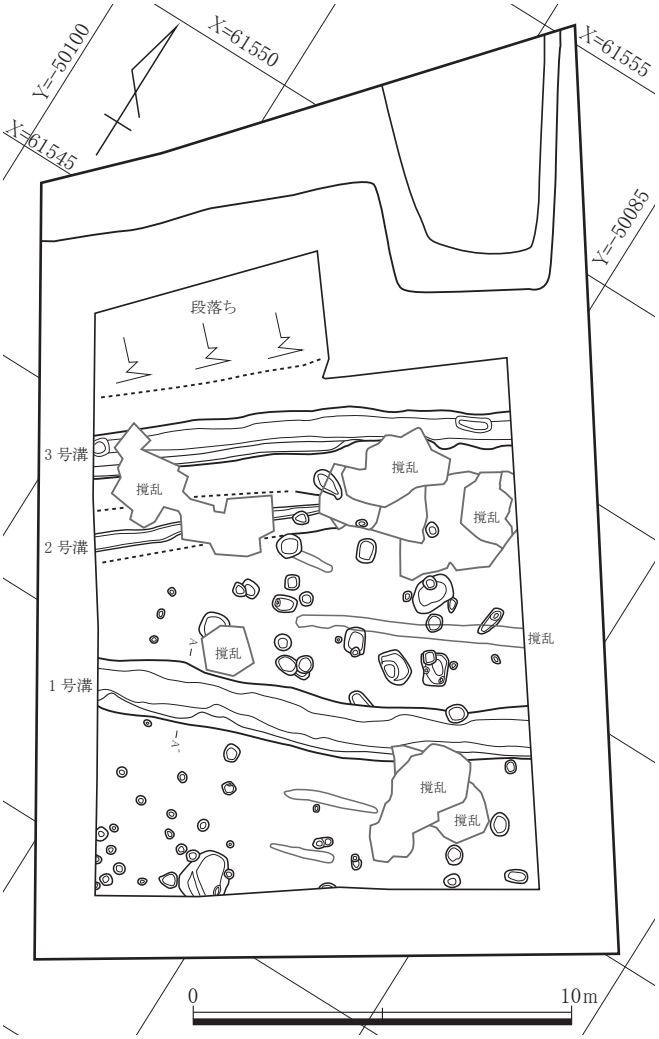
麦野 A 遺跡は、福岡平野を流れる御笠川とその支流である諸岡川に挟まれた標高 12 ～ 17m、南北約 1200 m、東西約 400 mの広さを持つ洪積台地上に立地し、弥生時代から中世にかけての遺構が主体となる遺跡である。今回の第 31 次調査地点は遺跡の東縁に位置し、標高 13.9 メートル前後が遺構検出面である。

2.　I 区全景（北西から）

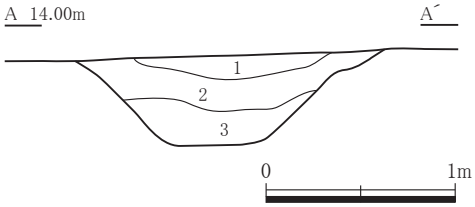
3.　II 区全景（北西から）

4.　I 区 1 号溝（南西から）


5.　I 区 1 号溝断面（南西から）

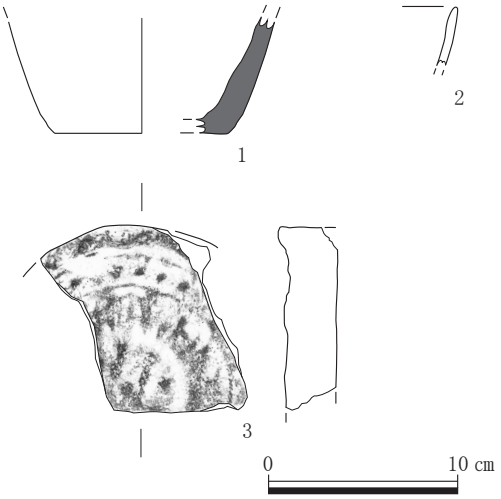



6. 遺構平面図（S=1/200）




1 7.5YR1/1 黒褐色土 1 ～ 3 ㎜大の橙色粒と
1 ～ 3 ㎜大の炭化物を微量含む。
しまり強い 粘性普通
2 7.5YR4/3 褐色土 1 ～ 3 ㎜大の橙色粒中量含む。
しまり普通 粘性普通
3 7.5YR3/3 暗褐色土 1 ～ 3 ㎜大の橙色粒少量含む。
しまり普通 粘性強い

7. 1 号溝断面図（S=1/40）




8. 出土遺物実測図（S=1/4）

3　遺構と遺物

今回の調査では、溝 3 条、ピット状遺構 65 基を検出した。溝は北東 - 南西方向に延びる溝で、両端は調査区外に延びる。1 号溝は幅 150㎝深さ 50㎝、2 号溝は北東部や南西部に撹乱を受けているが幅 110㎝深さ 20㎝、3 号溝は幅 120㎝深さ 20㎝を測る。ピット状遺構の多くは植栽痕（根穴）と思われる掘り込みであり、掘立柱建物跡になりうるピット列は確認できなかった。出土遺物の多くは、須恵器・土師器・磁器の破片であったが、調査区北西部の段落ちの覆土中からは古代瓦（軒丸瓦）の一部が出土した。出土遺物 1 は 1 号溝出土の須恵器の壺の底部。復元底径 9.2㎝、残存高 6.2㎝。内外面ナデ調整。2 は 1 号溝出土の磁器の口縁部。残存高 3.0㎝。灰緑色の釉がかかる。時期は 15 ～ 16 世紀と考えられる。3 は古代瓦（軒丸瓦）。胎土は黄白色を呈し、軟質である。

4　まとめ

今回検出された 3 条の北東 - 南西方向に延びる溝は、当調査地点の南側に位置する第 6、18、20、23 次調査で検出された戦国期の南北約 120m、東西約 160m を測る城館を取り囲む溝と同じ軸である。また出土遺物からも 15 ～ 16 世紀の溝と考えられ、城館の防御を目的とした掘り込み、溝であった可能性もあり、当遺跡周辺の中世の環境を考える上で重要な調査となった。

## 2040　原遺跡 37 次（HAA-37）

所 在 地　早良区原 5 丁目 1333 番 3、1330 番 7
調査原因　共同住宅建設
調査期間　2021.1.21 ～ 2021.3.17
調査面積　555.6㎡
担 当 者　木下博文
処　　置　記録保存

1．調査地点の位置（82　原　0311　S = 8,000）

2．2 区全景（西から）

### 調査の概要

原遺跡は早良平野の中央、金屑川右岸の微高地上に展開する弥生時代から中世にわたる複合遺跡である。

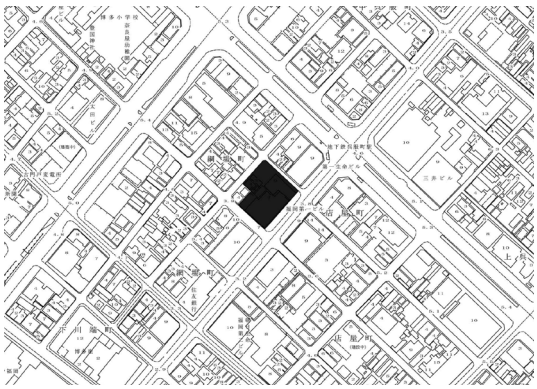
今回の調査地点は、遺跡の北西端に位置し、敷地の西側隣接道路が遺跡の西縁ラインとなっている。現地表面の標高は 5.5 ～ 5.9m である。

遺構は現地表面下 110 ～ 120cm の青灰色ないし黄褐色シルトの上面で、旧河川跡 2 条、古代～中世とみられる溝 6 条、ピットを検出した。出土遺物は旧河川跡から弥生時代終末期の土器、古代とみられる溝から須恵器甕片、遺物包含層から中国産白磁片など、コンテナ 1 箱が出土している。

今回の調査地は遺跡の周縁部に当たり、検出した遺構や出土遺物は少なかったものの、自然環境復元に必要な旧河川跡やその埋没時期がわかる土器、古代とみられる溝が検出されており、貴重な成果を収めることができた。

## 2042　博多遺跡群 246 次（HKT-246）

所 在 地　博多区綱場町 9、10、11、12、13、14 他 12 筆
調査原因　事務所ビル建設
調査期間　2021.2.1 ～ 2021.8.6
調査面積　269.1㎡
担 当 者　赤坂亨
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（48　千代・博多　0121　S = 8,000）

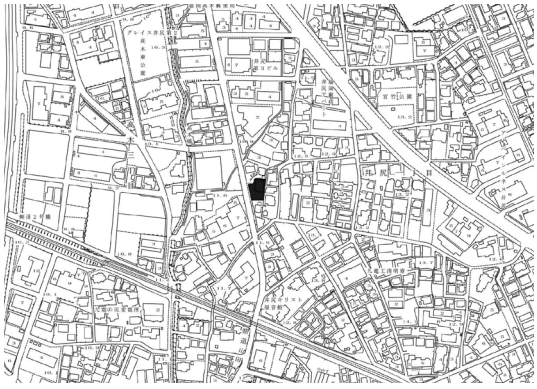
2．第 3 区北東半第 3 面全景（南東から）

### 調査の概要

調査地点は博多浜と息浜が接続する西側部分から，低湿地帯沿いに息浜側に入った砂丘縁辺に位置する。4 調査区を設定し調査を行った。1 区では標高 1.0 ～ 1.4 mで黄灰色粗砂を基盤とする遺構面（砂丘）を確認した。2 区は上層が毀損されていたが、標高 1.1 mで黄褐色砂と黒褐色粘質土が縞状に堆積した地山砂丘面を検出した。3 区では標高 2.0 mで第 1 面、標高 1.6 mで第 2 面、標高 1.3 m砂丘面で第 3 面を確認し、土坑、礎石、石積土坑の一部、西町筋方向の溝、桶枠の井戸底などを確認した。4 区は全面的に毀損されており、発掘調査は行わなかった。遺物は中世後半の糸切底土師皿や陶磁器・近世瓦等が出土した。1・2 区は中世前半頃に新たに形成された息浜の砂丘上に中世後半以後集落が形成されたとみられる。3 区では現在の町割りに沿った溝や遺構が検出され、中世後半～近世に至る都市博多の息浜側の様相が確認できた。

## 2043　井尻Ｂ遺跡 48 次（IGB-48）

所 在 地　南区井尻 1 丁目 704 番の一部、705 番の一部
調査原因　戸建住宅建設
調査期間　2021.2.15 ～ 2021.3.13
調査面積　120㎡
担 当 者　久住猛雄
処　　置　記録保存


1．調査地点の位置（25　井尻　0090　S = 8,000）

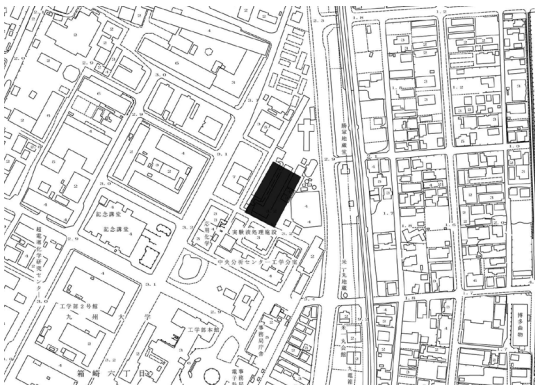
2．調査区南側全景（東から）

### 調査の概要

48 次調査地点は、井尻Ｂ遺跡の東側縁辺部の中央やや北側に位置する。周囲の標高は 11.1 ～ 12.5 ｍで、西に傾斜する。鳥栖ローム上面で遺構が検出された。遺構は全体的に削平され、竪穴住居の痕跡とみられる箇所があったが壁は遺存していない。ピット状遺構が分布するが、確実な柱穴から根穴とみられるものまであり、どちらか不明確なものもある。ただし掘立柱建物が確実なものが 2 棟、あるいは最大 10 棟復元できた。竪穴住居の痕跡も、弥生時代の円形住居と思われるものを含めて数棟あった。また弥生時代中期の不整楕円形土坑が 3 基検出された。出土遺物から、主に弥生時代中期の遺構が多く、一部が弥生時代後期、また一部が中世とであろう。調査区北東側に向かって遺構が濃密になる傾向がある。今回の調査では、主に井尻Ｂ遺跡東側縁辺部における弥生時代集落の展開の様相を確認することができた。

## 2044　箱崎遺跡 115 次（HKZ-115）

所 在 地　東区箱崎 6 丁目 10-1（船舶海洋工学実験室）
調査原因　学術研究（記録保存・HZK2007）
調査期間　2021.2.15 ～継続中
調査面積　3,200㎡
担 当 者　九州大学埋蔵文化財調査室
処　　置　記録保存


1．調査地点の位置（33　貝塚　2639　S = 8,000）

2．発掘区全景（南西から）

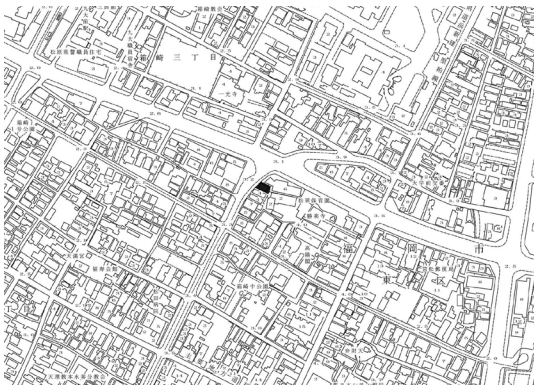
### 調査の概要

HZK2007 地点は、多数の近世墓が検出された HZK1801 地点の南隣に位置する。近世における墓域の範囲・構造・性格の究明を目的として調査を実施した。発掘調査は継続中であり、遺跡の全貌を把握するには至っていない。

HZK1801 地点に近い調査区北側を中心に、現状で 33 基の近世甕棺墓を検出しているが、まだ増加しそうである。甕棺の多くは近現代の改葬を受けているが、人骨が良好に残っているものもある。特筆される点として、調査区南側で荼毘の場と考えられる火葬土坑を 10 基前後検出した。これらの遺構からは、比較的大型の炭化材と焼骨小片が出土し、遺物は基本的に出土しない。焼骨片で部位同定ができるものは少なく、解剖学的位置を保って出土した例はない。遺物が出土しないため、遺構の時期比定が困難である。今後、出土炭化材の年代測定を実施するなどして、所属時期の検討が必要である。

## 2045　箱崎遺跡 116 次（HKZ-116）

所 在 地　東区箱崎 3 丁目 3263 番 2
調査原因　共同住宅建設
調査期間　2021.2.19 ～ 2021.4.9
調査面積　96㎡
担 当 者　今井隆博・野村俊之
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（34　箱崎　2639　S = 8,000）

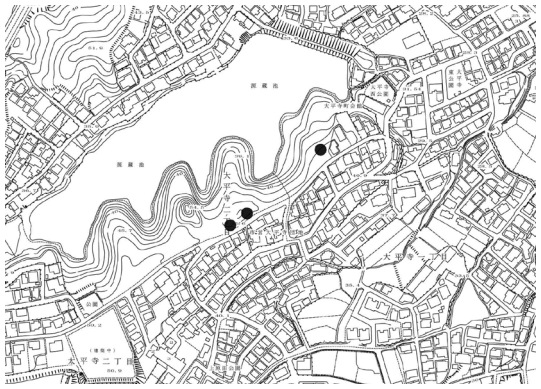
2．Ⅰ区全景（南から）

### 調査の概要

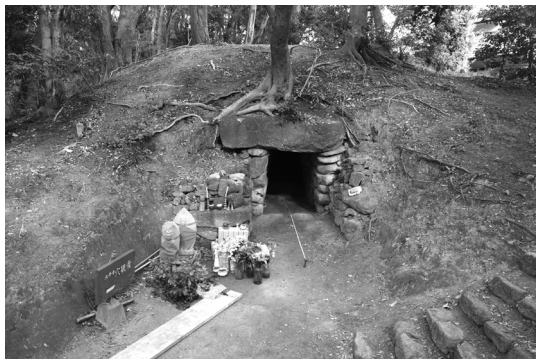
本地点では 2 面の調査を行った。GL-170㎝付近で基盤の黄色砂があり、その上面 20㎝程の遺物包含層・整地層を第 1 面とした。検出した遺構は、柱穴・土坑・溝である。溝は近世～近代のものと思われる。柱穴はまとまって掘立柱建物を構成するようであるが､規模･時期は不明である。2 面では 2.7 m × 2.2 mの方形竪穴土坑を検出し、多量の遺物が出土した。黄色砂の上には縞状の整地層が堆積し、一部焼土を含んでいる。付近の調査で確認されている焼土層と一連のものか。出土遺物は土師器・中国製陶磁器等で、コンテナケース 25 箱分。方形竪穴遺構からは遺存状態良好な足鍋も出土した。今回の調査では中世～近世の集落を検出した。近世以降の遺構も多く、第 1 面の時期は判断し難いが、周囲の調査成果も勘案して 14 世紀頃であろうか。第 2 面では方形土坑や円形土坑が検出されており、12 ～ 13 世紀頃の所産と思われる。

## 2046　大平寺古墳群 1 次（THK-1）

所 在 地　南区大平寺 1 丁目 93 番 1 外
調査原因　学術研究
調査期間　2021.3.8 ～ 2021.8.31
調査面積　8,000㎡
担 当 者　福岡大学考古学研究室
処　　置　現状保存



1．調査地点の位置（53　屋形原　0180　S = 8,000）



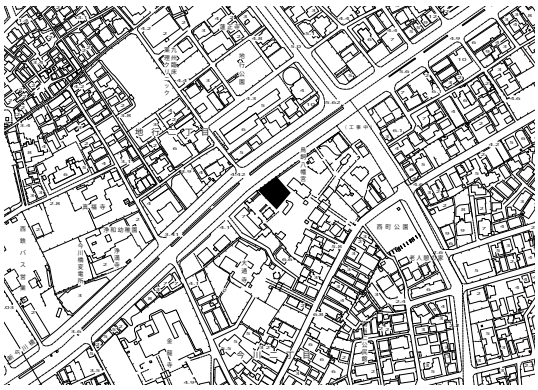
2．6 号墳（西から）

### 調査の概要

大平寺古墳群は油山山塊の東北方に派生する丘陵尾根上、大平寺緑地内に所在し、標高 40 ～ 50 mの尾根線上に 4 基が現存する。5・6・7 号墳の墳丘測量を行った。5 号墳は径約 20m の円墳で、埋葬施設は南北主軸・南面の横穴式石室墳であったと見られるが、盗石で石材を抜かれ陥没壙となっている。墳丘斜面は円墳の旧状をとどめる。6 号墳は 5 号墳東側に隣接し、ほぼ完存する径約 20 mの円墳である。花崗岩構築の東西軸をとる単室両袖横穴式石室は羨道部に矢穴・積直し痕が認められる。7 号墳は、6 号墳の東約 100m、緑地内東端に位置し、後世の改変で墳形は不明であるものの、径約 20 ～ 25m の古墳であることが明らかになった。埋葬施設は東西主軸・西向き開口の横穴式石室と推定されるが、盗石で石材が抜き取られ、墳丘中央から西側に開く陥没壙が残る。陥没壙北西で須恵器片の散布を多数確認した。

# 2047　鳥飼遺跡第１次（TOR-1）

所 在 地　福岡市中央区今川２丁目２２番１
調査原因　納骨堂建設
調査期間　2020.07.21
調査面積　18.6㎡
担 当 者　田上勇一郎　山本晃平
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（71　西新　2435　S=1/8,000）

2．調査地点全景（北から）

調査の概要

１、はじめに

鳥飼八幡宮の境内地において、納骨堂建設に伴う確認調査（事前審査番号 2020-2-282）で、弥生土器が出土した。これまで鳥飼遺跡内において、明確な遺構や遺物は全く確認されていないことから、この場を借りて資料紹介を行いたい。

鳥飼遺跡は早良平野の東側に立地しており、鳥飼八幡宮を中心として包蔵地が設定されている遺跡である。これまで 14 か所において確認調査を行ってきたが、いずれも遺跡を確認するに至っていない。そのため詳細が不明な遺跡である。

調査地点は鳥飼八幡宮内の西側に位置し、前面道路から約 3m 以上高まった土地であった。しかし業者の連絡の行き違いから 93 条の届出前に解体業者によって道路面と同レベルまで切り下げられてしまっていた。そのため 93 条の届出をすぐに行ってもらい、確認調査を行った。

２、確認調査の成果と出土遺物

１）確認調査の成果

トレンチは切り下げられた納骨堂建設予定地のおよそ中央に南東－北西方向に設定した。長さは 12m、幅 0.8m の範囲を掘削した。表面は切り下げ工事のガラなどで荒れており、GL-35㎝で黄褐色砂に、GL-75㎝で黄白色砂を確認した。これら砂層上面で遺構検出を行ったが、遺構及び遺物は確認できなかった。そしてトレンチ内などの記録を取り、埋め戻しを行っている中で設定したトレンチの東側で暗褐色砂を見つけた。当初は切り下げ工事に際しての攪乱かとも考えたが、確認のために一部を掘削することにした。すると一段掘り下げたところで弥生土器数点が出土した。そのためこの暗褐色砂が遺構なのかを確認するために周辺の遺構検出を行ったが、遺構として明確なプランを確認することができなかった。時間的制約のため、遺物の出土状況まで抑えることはできなかったが、暗褐色砂の概ねの範囲は抑えることができた。遺物に関しては確認できたものはすべて回収した。ただ他にもないかを確認するために工事に際して立会を行ったが、確認調査で見つかったもの以外の遺物は確認できなかった。

２）出土した遺物

今回確認調査で出土した遺物はコンテナケース 1 箱弱であった。

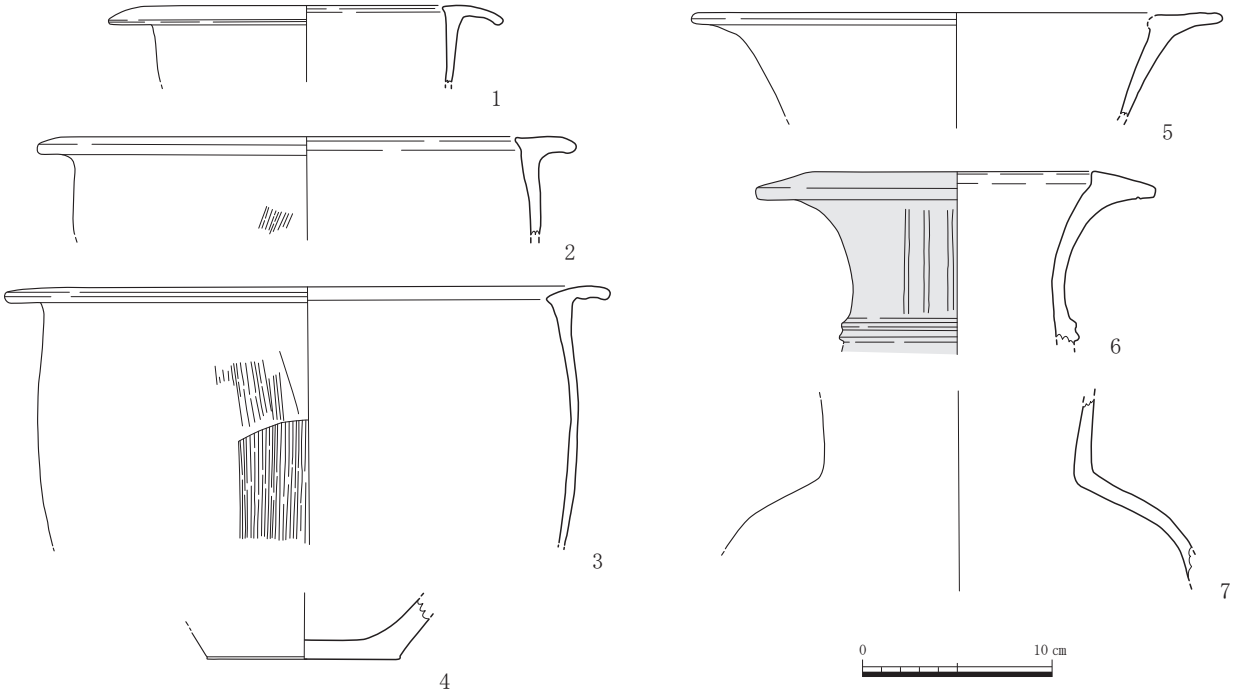
遺物はすべて弥生土器である。１は甕である。復元口径 20.8㎝、残存高 4.5㎝をはかる。口縁部に一部ヨコナデが見えるが、全体的に器壁が摩耗しており、調整は不明寮である。焼成は良好である。胎土は 1㎜程の小石を含んでいる。色調は褐色を呈する。２は甕である。復元口径 28.5㎝、残存高 5㎝をはかる。口縁部にはナデ調整、内面はヨコナデ、外面体部にはハケ目調整である。焼成は良好である。胎土は 1㎜程の小石を含んでいる。色調は暗灰色を呈する。３は甕である。復元口径 32㎝、残存高 13.5㎝をはかる。口縁部から内面体部にかけてはナデ調整、外面体部はナナメハケ～タテハケ調整である。焼成は良好である。胎土は 1㎜程の小石を含んでいる。色調は褐色を呈する。４は甕の底部である。平底である。底径 10.2㎝、残存器高 3.2㎝をはかる。外面内面ともにナデ調整である。焼成は良好である。底部は黒色でそれ以外は褐色を呈する。５は壺である。復元口径 28㎝、残存高 5.5㎝

をはかる。全体的器壁が摩耗しているが、外面にミガキが施されているか。内面はヨコナデである。焼成は良好である。色調は褐色を呈する。６は丹塗の壺である。口径は 21㎝、残存高 9.2㎝をはかる。体部に M 字突帯がある。口縁部から突帯まではヨコナデののちに暗文が施されている。口縁部はナデ調整である。内面は器壁がはがれており、調整不明である。７は壺である。体部のみ残存している。頸部径 14.2㎝をはかる。調整は全体的にヨコナデである。焼成は良好である。色調は褐色を呈する。

３、まとめ

今回の確認調査によって、鳥飼遺跡内で初めて土器の出土を確認できた。出土状況から明確な遺構からというわけではなく、おそらく地形の窪みに入ったものと考えられる。もともとの現地形は道路面より 3m 程高く、もし現地形のまま確認調査を行っていても、届かなかったと考えられる。また表土直下で黄褐色砂を検出しており、出土土器の検出面までほぼ同一の黄褐色砂（風成砂）が堆積しており、地山と勘違いをしてそこで掘削を止めてしまう可能性が高い。そういった意味では今回、道路面まで切り下げられたことによってこれらの土器は発見できたといえる。

これまで鳥飼遺跡は中世の集落と考えられてきた。ただ今回の発見によって、弥生時代中期～後期の集落が存在する可能性が高くなった。今後は周辺の確認調査にはさらに注意が必要である。




3. 鳥飼遺跡第 1 次調査出土遺物（1/4）

# 1805　博多遺跡群 221 次（HKT-221）

所 在 地　博多区上川端町 6-38
調査原因　跡地活用事業
調査期間　2018.4.26 ～継続中
調査面積　Ⅲ区 300㎡　Ⅳ区 476㎡　Ⅴ区 630㎡
　　Ⅵ区 340㎡
担 当 者　大庭康時・岩隈拓人
処　　置　調査中

調査の概要

令和 2 年度に引き続いてⅣ区の近世大乗寺墓地、調査対象地の南辺部に当たるⅤ区、中世初頭の港湾遺構と考えられた石積み遺構の延長部分を含むⅢ区からⅥ区の調査を実施した。

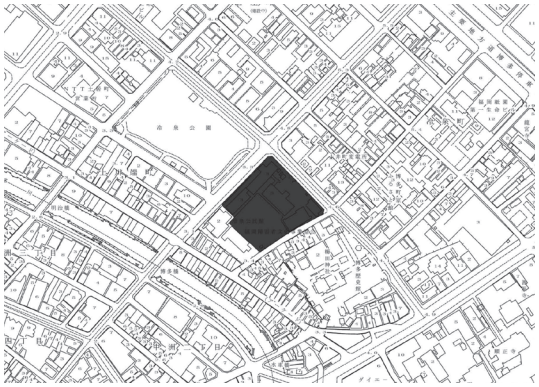
前年度までに出土した石積み遺構は調査対象地をほぼ南北に縦断していることが明らかになった。全長は 67 m以上、幅 1.4 ～ 1.8 mで、その総延長はおそらく 100 mに及ぶものと思われる。石積み遺構の前面は、後背湿地から博多湾に流れ込む旧河川に面し、60 ～ 80㎝の石垣状に積み上げていた。上面は石を敷き詰め、背面は盛土で平坦に整地していることが判明した。Ⅴ区とⅥ区は、石積み遺構の背面にあたり、その南側の一部において、海浜砂による砂丘砂層が検出された。すなわち、調査区の南側では、砂丘が東から伸びてきて、石積み遺構の背面に迫っていた。この部分では、石積み遺構の背面は、急にせりあがった砂丘斜面であった。また、石積み遺構上面の幅は狭く、石積み石垣も一段程度と低く造られていた。

石積み遺構の中ほどにおいて、石積みの欠損部分が確認できた。石積みの軸線は、欠損部分の左右で微妙にずれており、連続していたものが破壊され、中断したものではないことがわかる。この部分は、水際と陸側を結ぶ出入り口と推測される。

石積み石垣は、自然石を使用しながらも、横に目地が通り、同時に、石垣面が垂直に立つように石の背後に小石をはさんで前面の角度を調節するなど、熟練した技術が用いられていた。

Ⅴ区では、青磁碗を副葬した 12 世紀後半の土壙墓が出土した。石積み遺構は、12 世紀中頃過ぎに起こった洪水で埋没し放棄された。これによって、港湾は本調査地点から移転し、12 世紀後半にはすでに屋敷墓を営むような生活域になっていたと言える。

Ⅵ区では、砂丘部分を中心に古代から近世に及ぶ遺構を検出することができた。石積み遺構の時期に当たる 12 世紀前半の井戸は、石積み遺構の背後に関連施設があったことを想起させるが、室町時代後半に大規模な掘削を受けており、港湾施設の構造を解明する手掛かりを得るには至らなかった。



1．調査地点の位置（49　天神　0121　S = 8,000）

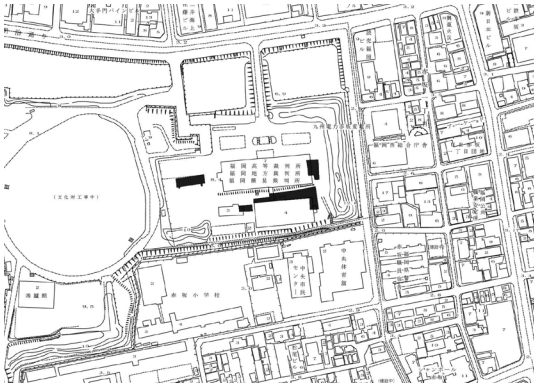
2．石積遺構（西から）

3. Ⅴ区井戸（西から）

4. Ⅵ区埋葬遺構副葬品（北西から）

## 1959　福岡城跡 80 次（FUE-80）

所 在 地　中央区城内
調査原因　史跡整備
調査期間　2020.1.10 ～継続中
調査面積　1,218㎡
担 当 者　阿部泰之・吉田大輔　史跡整備活用課
処　　置　現状保存



1．調査地点の位置（60　舞鶴　0193　S = 8,000）

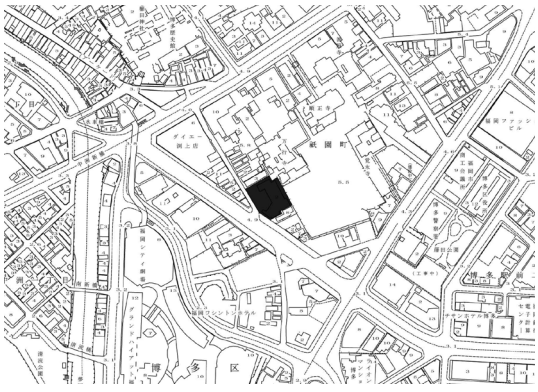
### 調査の概要

鴻臚館跡第Ⅵ期調査として、福岡城三の丸の東側、福岡高等裁判所跡地を対象に調査を実施している（鴻臚館跡としては 32 次調査）。近代以降の削平・攪乱が大きく、遺構の残存状態は不良で、これまでに鴻臚館に関連する遺構は検出されていない。検出遺構は、福岡城関連の石組溝、石敷基礎、礎石据付穴、瓦組井戸、瓦溜り等があり、旧陸軍関連の遺構も確認した。土師器、須恵器、輸入陶磁器、近世陶磁器、近世瓦等コンテナ 60 箱分が出土しているが、古代の遺物はごくわずかである。また、調査地東部で地形の変換点 ( 東への斜面 ) を確認した。この斜面は、福岡城築城時に埋め立てられ、近世まで造成されていないことが判明した。今後も調査を継続し、鴻臚館関連遺構の検出と地形の復元に努めていく。

2．トレンチ 6　地形変換点と築城時の盛土（北西から）

## 1960　博多遺跡群 239 次（HKT-239）

所 在 地　博多区祇園町 417 番、418 番、419 番、420 番、421 番、422 番、425 番、426 番、427 番
調査原因　ホテル建設
調査期間　2020.2.17 ～ 2021.4.23
調査面積　1012.47㎡
担 当 者　屋山洋
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（49　天神　0121　S = 8,000）

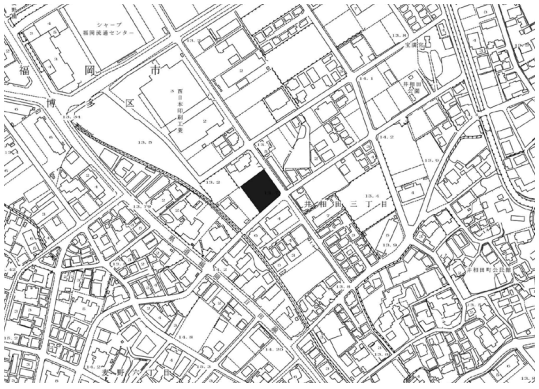
### 調査の概要

239 次調査区は博多遺跡群の南西の隅、砂丘の尾根頂部近くに位置する。調査区内で検出した最も古い遺構は弥生時代中期の甕棺墓である。弥生後期から古墳時代前期には調査区全面に竪穴式住居が分布するが、前期中頃に方形周溝墓が築かれると、その後は 8 世紀まで見られない。8 世紀代になると少数の土坑と墓の他、竪穴式住居が作られるようになる。11 世紀中頃から 12 世紀前半には遺構が全体に広がり、多数の土坑、溝、柱穴状遺構が分布する。特に多量の白磁や土師坏・皿が出土する廃棄土坑は 11 世紀後半に集中している。12 世紀後半になると、集落が北に移動したものと考えられる。近世になると井戸や廃棄土坑が見られるようになり、特に近世末から近代にかけては多数の井戸とともに廃棄土坑が出土した。特に蝋燭立ては多量に出土し、1 基の土坑から 100 点以上が出土した。また窯道具も多少出土している。

2．Ⅰ区 1 面全景（南から）

# 1963　井相田 E 遺跡第 2 次調査（ISE-2）

所 在 地　博多区井相田 3 丁目 8-3
調査原因　土地造成
調査期間　2020.3.5 ～ 2020.3.31
調査面積　661.6㎡
担 当 者　三浦萌
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（12　麦野　2881　S = 8,000）

2．調査区全景（北から）

## 調査の概要

### 1．調査に至る経緯

令和元年 11 月 8 日付けで、当該地における埋蔵文化財の有無についての照会文書が提出された（事前審査番号 2019-2-861）。申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である井相田 E 遺跡に含まれていることから、令和元年 12 月 5 日に申請地で確認調査を実施した。その結果、現地表下 45㎝の黄褐色粘質シルト層上において溝 2 状とピット 2 基が検出された。協議の結果、建物が建築される範囲において記録保存のための発掘調査を行うことで合意した。

発掘調査は令和 2 年 3 月 5 日に着手し、同年 3 月 31 日に終了している。

### 2．調査の概要

井相田 E 遺跡は御笠川と那珂川の間にある段丘上に位置している。今回の調査地点は第 1 次調査地点の南東側に隣接する。1 次調査は官道東門ルートの推定線付近に位置しており、官道に関連すると推測される溝が 2 条発見されている。

調査区の現況は田畑であり、標高は約 12.5 m である。耕作土や床土はほぼ水平に堆積しており、1 次調査区同様、開墾時に大きな地形改変を受けたと思われる。検出した主な遺構は溝 4 条である。

### 3．遺構と遺物（図 4 ～ 7）

溝が 5 条発見されている。このうち調査区南西壁沿いに検出された溝（SD-014）は未完掘である。発見された溝（SD-001、002、005、013、014）はいずれも調査区を南東から北西に縦断しており、1 次調査で発見された溝とほぼ平行する。遺物は須恵器や土師器、青磁などがコンテナケース 1 箱分発見されているが、いずれも小片であり、図示できる資料は少ない。

ＳＤ－００１（図 4、6）

幅 1.2 m、深さ 40㎝の溝であり、SD-014 をきっている。一部、溝の西端を明確には検出できていない。

ＳＤ－００２（図 4）

調査区西側を南北に走る幅約 1.1 m、深さ 10㎝前後の浅い溝である。SD-001 をきっている。埋土は褐色砂質土。

ＳＤ－００５（図 4、6　遺物：図 5）

調査区西側を南北に走る幅 1.4㎝、深さ 10㎝ほどの浅い溝である。SD-001 をきっており、SD-014 とほぼ平行する。埋土は暗褐色砂質土。白磁Ⅴ類が出土したことから時期は 11 世紀後半～ 12 世紀頃である。

1 は SD-005 から発見された白磁碗の底部である。残存高 2.8㎝、高台径 6.1㎝。櫛描文がみられ、灰白色の釉が高台上部まで施されている。白磁Ⅴ類。

ＳＤ－０１３（図 4、7　遺物：図 5）

調査区東部で検出された幅 1.2 m、深さ 30㎝の溝である。調査区を南東から北西に縦断している。出土した遺物から時期は 12 世紀である。

2 は SD-013 から発見された瓦器である。残存高 1㎝、高台径 5.8㎝。内面はナデ調整である。

ＳＤ－０１４（図４、６）

調査区西部で発見された幅 4.5 m、深さ 0.85 ～ 1 mの溝である。完掘はしておらず、トレンチをいれ土層を確認している。トレンチ２、３では標高 11.3 mあたりで湧水した。下面（トレンチ３の４～６層）の堆積状況から水路（河川？）が埋没した後に溝を掘削したものと思われる。同安窯系の青磁皿と思われる破片が出土していることから、時期は１２世紀である。

４．まとめ

今回発見された溝は 1 次調査で発見された溝とほぼ並行しており、官道推定ラインとも平行する。遺構の切りあい関係から、SD-001、002 の時期と SD-005、013、014 の２つの時期があったと考えられる。発見された資料から後者の時期は１２世紀代であるといえる。SD-014 は調査区西部をやや南東から北西にむかって縦断しており、溝の北西端は第 1 次調査区のほうへはしっている。しかし第 1 次調査区内においては SD-014 の続きらしき溝が見当たらない。そのため SD-014 は SD-008 から派生した溝、もしくは第 1 次調査区へ行かずに本調査区の北西端から北東方向へのびる形をとるなどといった別の溝である可能性がある。今後の周辺の調査に期待したい。また SD-013 からはその時期から、１２世紀代になって官道が再整備・使用された時期に掘削されたものと推測されるが、それが官道に伴うものであるかは不明である。

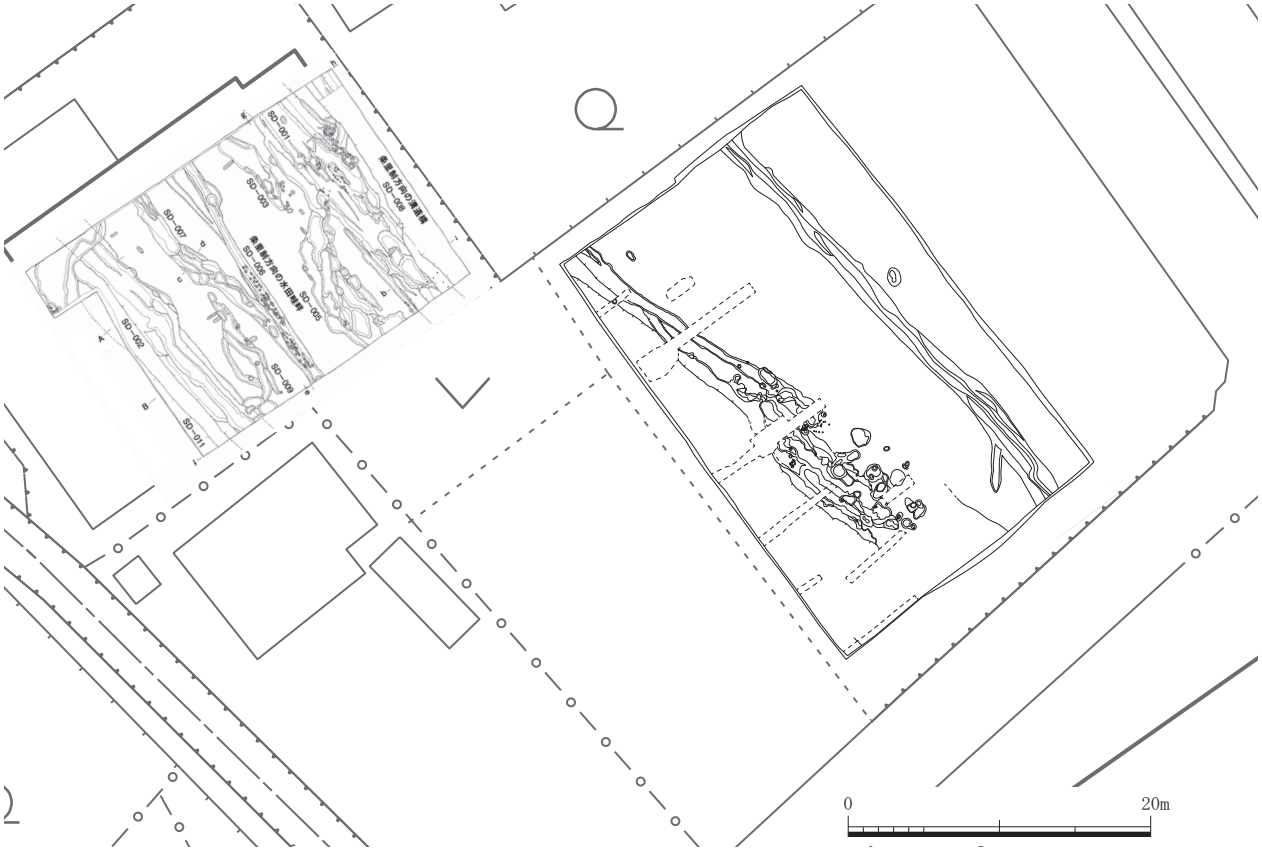



図３　調査区位置図（1/500）

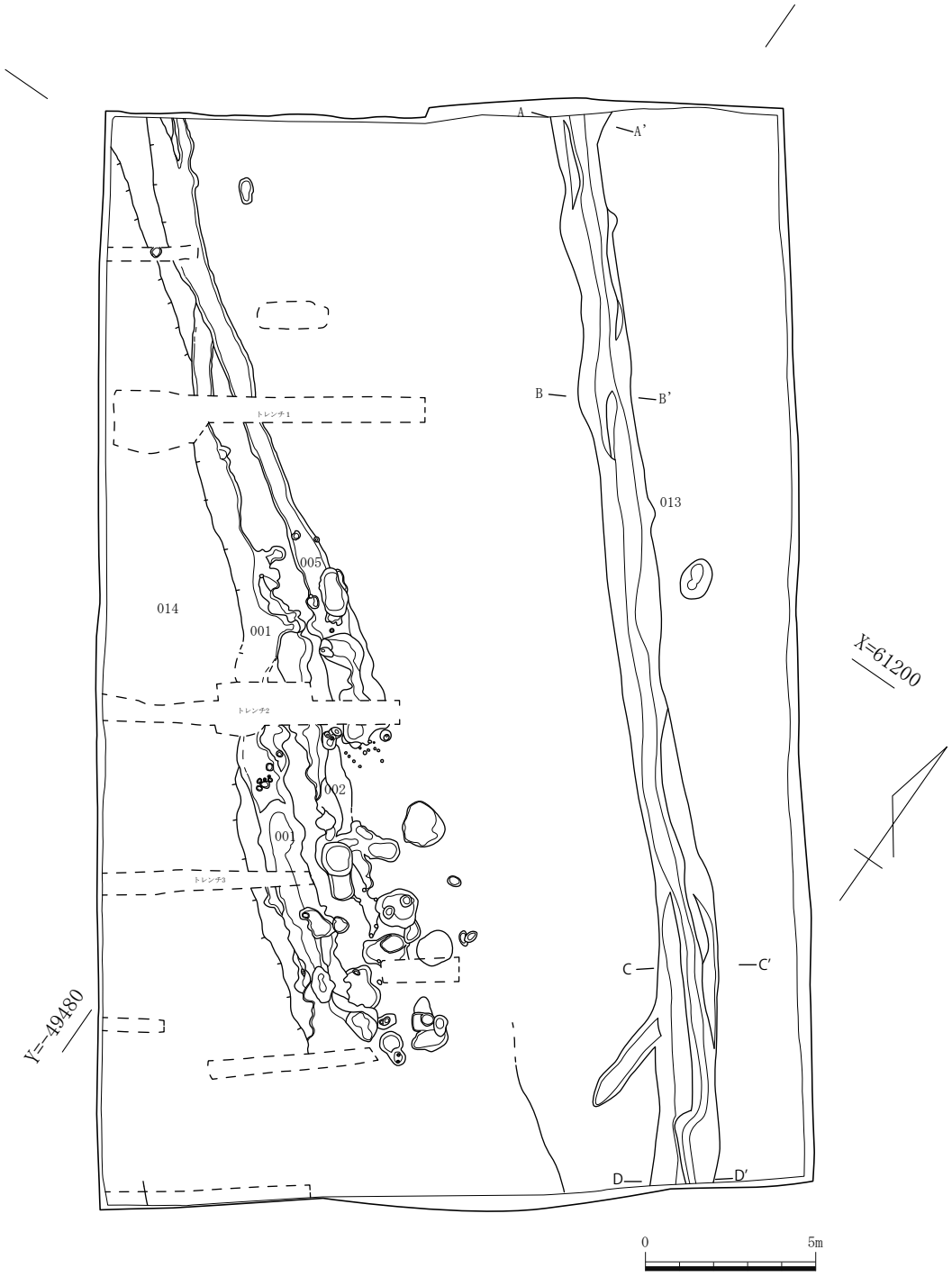



図 4　調査区全体図（1/200）

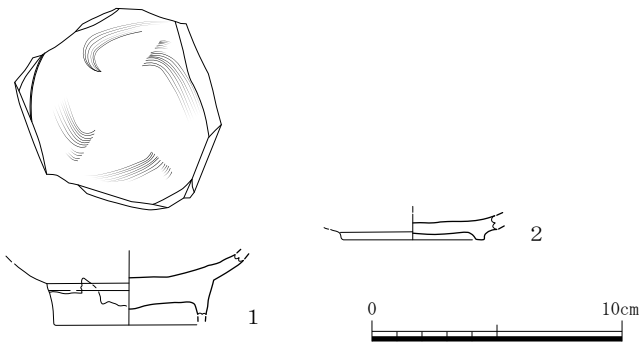
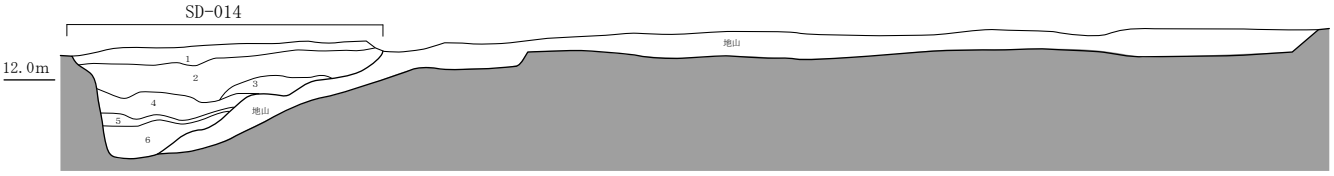


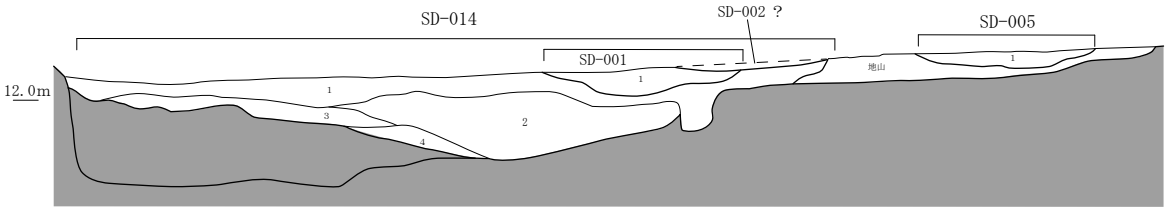

図 5　出土遺物実測図（1/3）

トレンチ１北西壁土層




1　黒褐色土
2　黒色粘質土
3　黄褐色細砂：粗砂まじり
4　黒褐色細砂：茶褐色粗砂ブロックまじり
5　黒色細砂：ところどころに地山ブロックが混ざる
6　黒色細砂と黒褐色細砂の互層

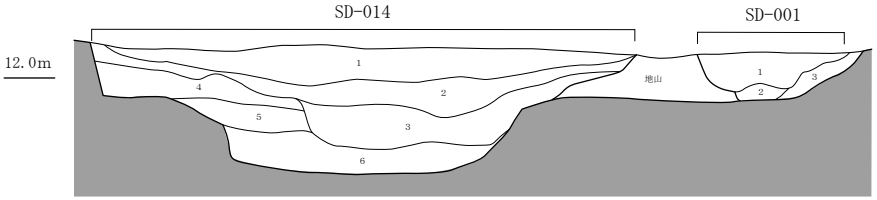
トレンチ２北西壁土層




1　暗褐色砂質土
2　暗褐色粘質土と暗褐色砂の互層
3　黒色粘質土
4　暗灰色粘質土：地山ブロックまじり

SD-001　1　黒色粘質土
SD-005　1　暗褐色砂質土

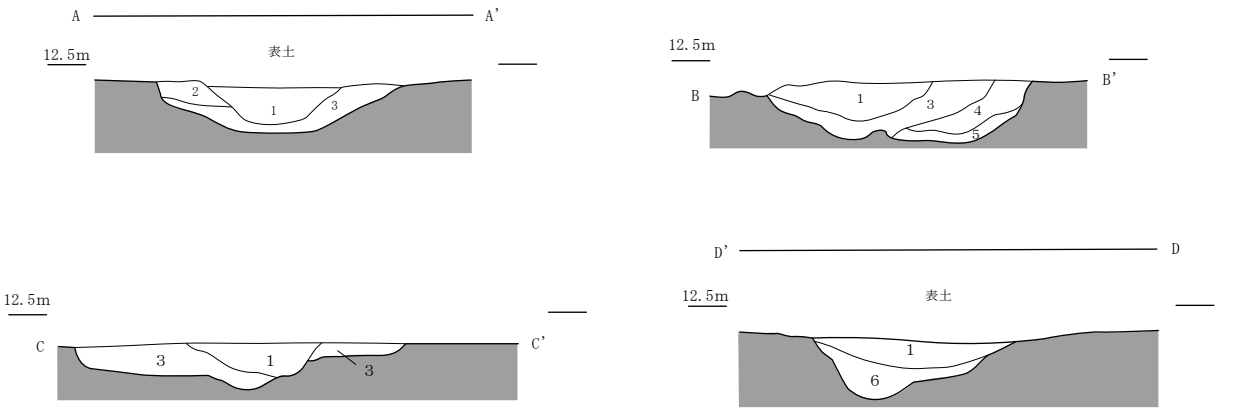
トレンチ３北西壁土層




1　黒色粘質土
2　褐色砂質土：黄色ロームの地山ブロックが混ざる
3　黒色粘質土と灰色細砂の互層
4　褐色細砂層
5　暗褐色細砂と灰色砂の互層
6　灰色粗砂

SD-001
1　黒色粘質土
2　黒色粗砂：黒色粘質土ブロックをわずかに含む
3　黒褐色砂質土：地山ブロックまじり

図６　SD-014、SD-005、SD-001 土層図（1/60）

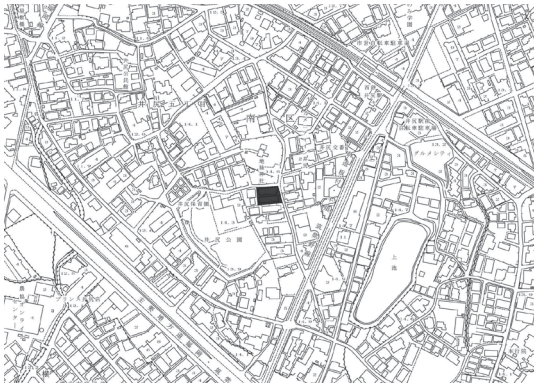



1　黒色粘土（粘質土）：灰色砂質土ブロックまじり
2　地山ブロック？
3　灰色砂質土：地山ブロックまじり
4　灰色砂質土：地山ブロック（砂質土）と白色砂を多く含む
5　暗灰色粘質土：地山ブロック（ローム）を少し含む
6　灰色砂質土：粗砂まじり、３と同一か？

図７　SD-013 土層図（1/40）

# 1966　井尻Ｂ遺跡第 46 次 (IGB-46)

所 在 地　南区井尻 5 丁目 24-1
調査原因　共同住宅建設
調査期間　2020.3.16 ～ 2020.4.13
調査面積　150㎡
担 当 者　今井隆博
処　　置　記録保存



1．調査地点の位置（25　井尻　0090　S = 8,000）

2．調査前現況（南東から）

## 調査の概要

### 1．調査に至る経緯

福岡市教育委員会は、上記地における共同住宅建設に伴う埋蔵文化財の有無についての照会（事前審査番号 2019-2-239）を令和元年 6 月 4 日付で受理した。これを受けて埋蔵文化財課事前審査係は、申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である井尻Ｂ遺跡に含まれていることから同年 6 月 12 日に確認調査を実施し、現地表下 90㎝付近で遺構を確認した。この結果を踏まえ、遺構の保全等に関して申請者と協議を行ったが、埋蔵文化財への影響が回避できないことから、共同住宅が建設される範囲について記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。発掘調査は令和 2 年 3 月 16 日に着手し、同年 4 月 13 日に終了した。

### 2．立地と環境

井尻Ｂ遺跡は那珂川と御笠川の間に形成された洪積中位段丘面上に立地する。今回の調査地点は井尻Ｂ遺跡の南部にあたり、地禄神社の南側に位置する。道路を挟んで東側の 23 次・24 次地点では土坑・溝・ピット等が検出されているが、遺構密度はうすく、出土遺物もごくわずかである。南東約 20 mに位置する 2 次調査地点では、旧石器、弥生～古墳時代の集落と墓、井尻Ｂ 1 号墳、古代の竪穴住居等が確認されている。

3．調査区周辺図（S=1/1,000）

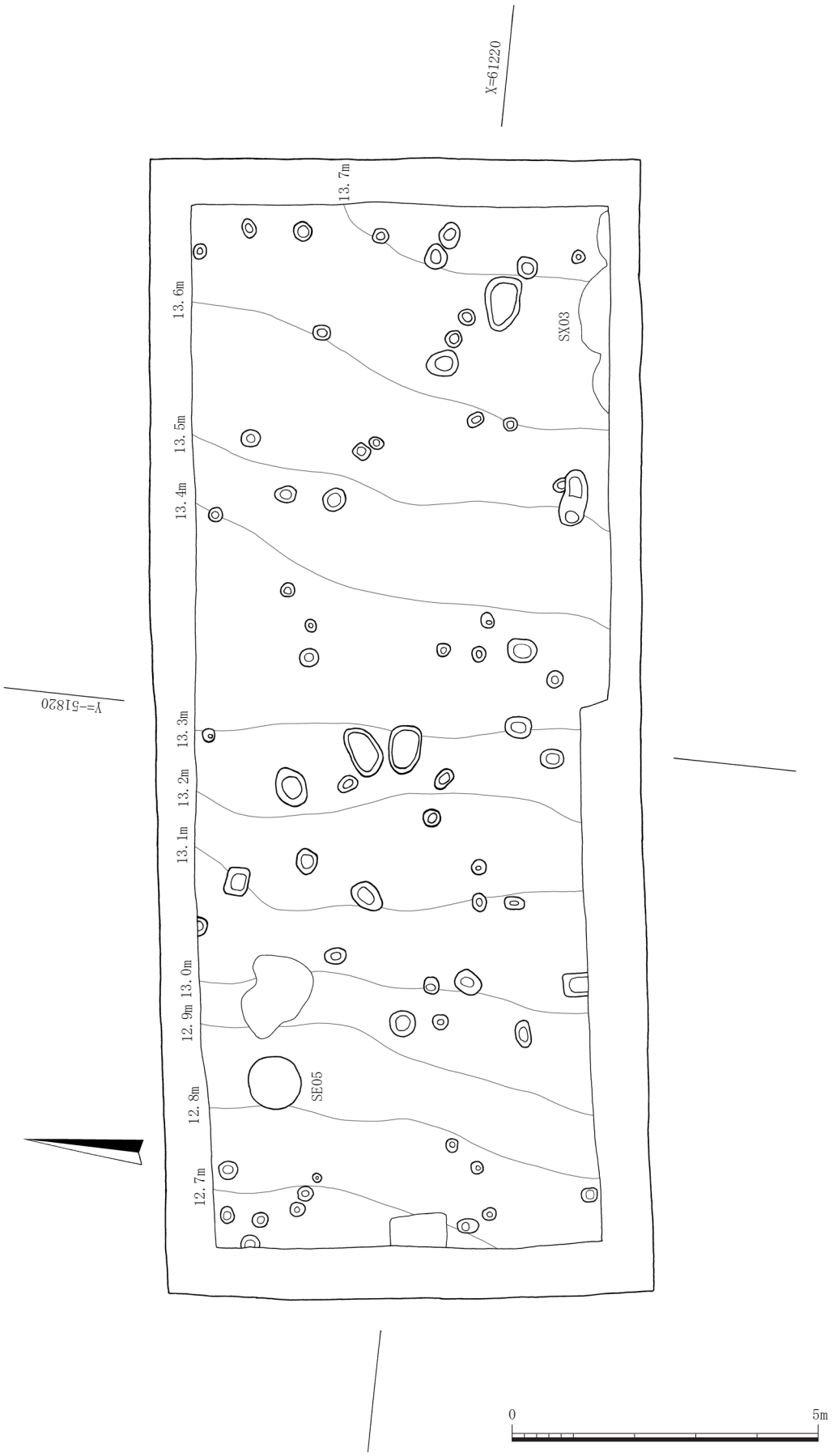
4．調査区位置図（S=1/300）

5．1区全景（東より）

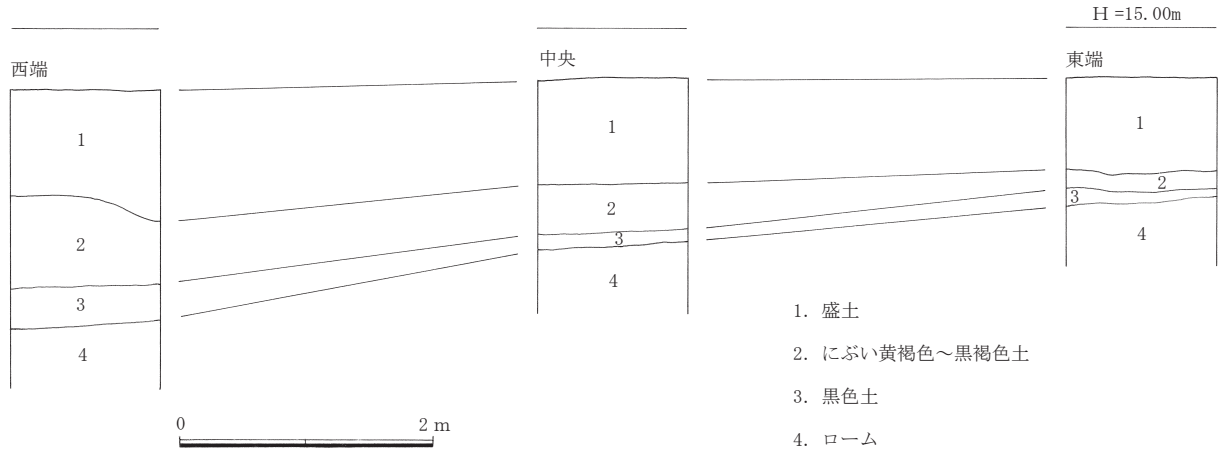
6．2区全景（東より）

3．調査の記録

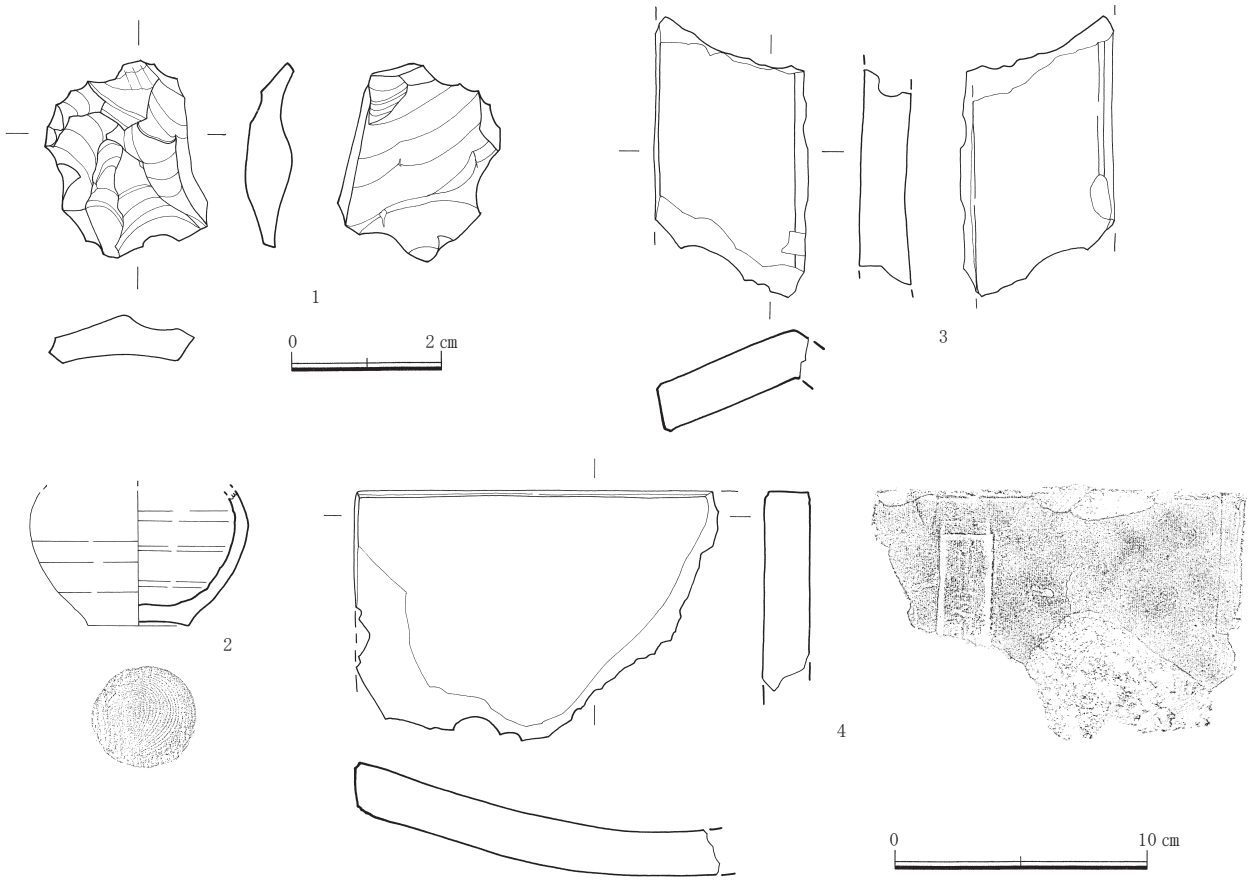
申請地には以前は共同住宅が建っていた。調査前は更地で標高約 14.6 m、北側道路と西側民地より 50㎝程高くなっている。調査区東端における基本層序は、真砂土等の現代盛土の下、GL-70㎝でにぶい黄褐色～黒褐色土、-90㎝で黒色土、-100㎝で地山である鳥栖ロームに達する。遺構検出面であるローム面の標高は、調査区東端で 13.7 m、西端で 12.7 mで、西に向かって下がる地形である。検出した遺構はピット・土坑・井戸で、密度は散漫である。遺構覆土は黒色・褐色・灰褐色等であるが、木根も多いと思われる。ピットの時期は判然としないが、弥生時代～中世のものと思われる。建物としてまとまるものはない。出土遺物は弥生時代～近世の土器・陶磁器・瓦等で、コンテナケース 1 箱分である。




7. 調査区全体図（S=1/100）




8. 北壁土層略図（S =1/60）




9. 出土遺物実測図（S =1/1、1/3）

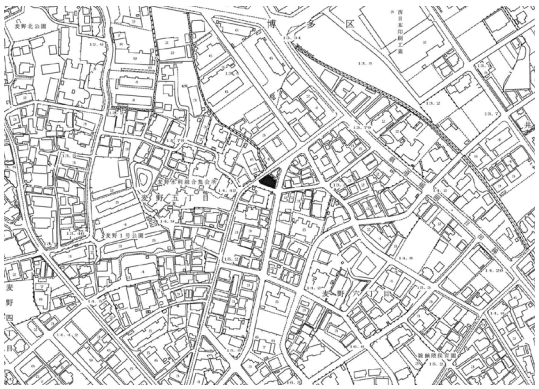
出土遺物　1・2 は撹乱である SX03 より出土した。1 は黒曜石剥片、2 は素焼きの小壺である。底部には回転糸切痕が残る。3・4 は近世以降の井戸 SE05 から出土した瓦片である。3 は桟瓦の破片。4 には刻印が施されているが、不明瞭で判読できない。

4．まとめ

今回の調査により、井尻 B 遺跡の縁辺部における遺構の広がりと地形を把握することができた。撹乱より黒曜石剥片が 1 点出土したためロームの掘り下げも行ったが、旧石器を含むローム層は確認されなかった。

# 1969　麦野 A 遺跡第 30 次調査（MGA-30）

所 在 地　博多区麦野６丁目５番１
調査原因　共同住宅建設
調査期間　2019.3.23 ～ 2019.4.3
調査面積　71㎡
担 当 者　吉田大輔
処　　置　記録保存



１．調査地点の位置（12　麦野　0048　S = 8,000）

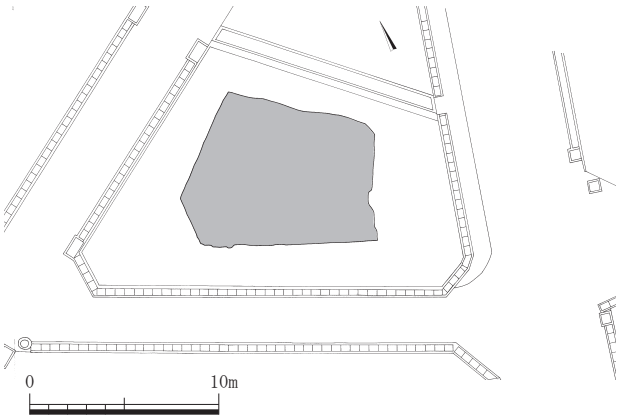



Fig.2　調査区位置図（1/400）

## 調査の概要

調査に至る経緯

令和元（2019）年 12 月９日付で、上記地内における共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財の有無についての照会が、福岡市経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課宛になされた ( 事前審査番号 :2019- 2 -964)。照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地である麦野 A 遺跡に含まれること、また、当該地が周辺道路よりも１m程高く、旧地形が残っていることが予想されることから、令和元（2019）年 12 月 25 日に確認調査を実施し、その結果、現地表面下 0.65 mで鳥栖ローム層の地山に達し、その上面で柱穴・小穴等の遺構が確認された。

これを受け、遺跡の保全等について申請者と協議を行った結果、事業対象地のうち、工事により埋蔵文化財への影響が回避できない範囲 100㎡を対象として記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。その後、令和２年 (2020) 年３月 16 日付で事業主体者である株式会社カミケンを委託者、福岡市長を受託者として埋蔵文化財調査業務委託契約を締結し、令和２年（2020）年３月 17 日より発掘調査を、翌令和３年度に資料整理・報告書作成を行うこととなった。

立地と環境

麦野 A 遺跡は、春日丘陵の東辺にほぼ平行して南北に延びる台地上に立地している。この台地は南北約 1.2km 東西約 0.4km で、北西方向から多くの谷により開析され数条の舌状台地を形成している。現況の地表面の標高は約 12 ～ 16.5m を測る。この舌状台地上には麦野Ａ～Ｃ遺跡・南八幡遺跡・雑餉隈遺跡などの遺跡群が展開している。これまでの調査成果から、本遺跡では、縄文時代と推定される落とし穴状土坑も少数ながら検出されているが、弥生時代から中世後半までの遺構が主体を占める。主たる時期は古代で、周辺の南八幡遺跡・雑餉隈遺跡も含め、大規模な集落が存在していたことが知られており、柵列や溝、門等で構成される官衙的な遺構も検出されている。

調査の経過

調査地の標高は、現況で 14.8 m程を測り、周辺の道路より 1.05 m程度高く、確認調査時には現地表面から約 0.65 m掘り下げたところで遺構が確認された。調査の対象は、敷地全体 187.45㎡のうち 100㎡としたが、敷地の外周部分は既に削平を受けている部分が多く、その部分は調査対象から除外し、また排土処理と周辺への安全対策を考慮した結果、実際の調査面積は 71㎡となった (Fig. 2)。

発掘調査は、令和２（2020）年３月 23 日に開始した。まず、地表面から 0.6 ～ 0.7 m程表土を重機により鋤取った。鳥栖ローム層の地山が露出した部分については、遺構検出を行った。また、調査区の東半はローム層が露出せず、黒褐色粘質土の遺物包含層が堆積している状況であったため、４本のトレンチを入れ、堆積状況等を確認した。これと並行して、遺構の掘削や精査、写真撮影や実測図等の記録類を作成し、その後、人力による埋め戻しと整地を行い、機材等を撤収して同年４月３日に調査を終了した。

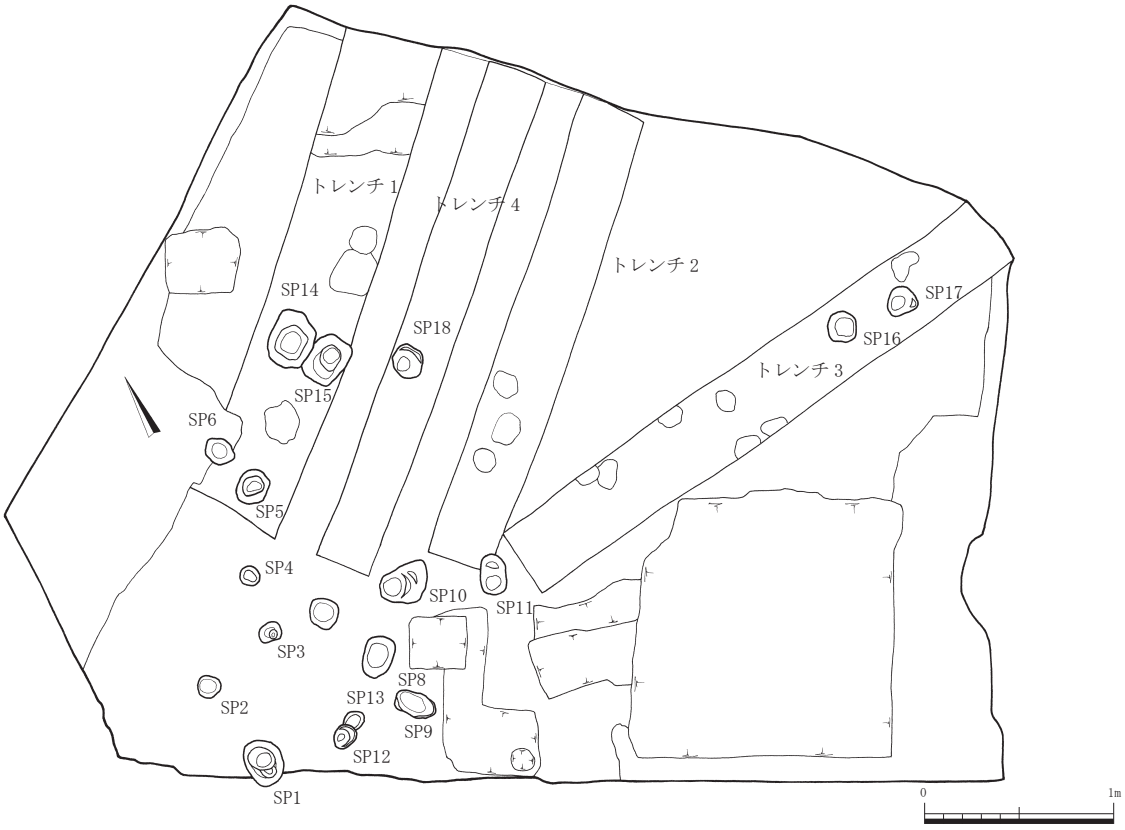



Fig.3　遺構配置図（1/40）

遺構

本調査で検出した遺構は、小穴 18 基である。遺構は、表土剥ぎの時点で鳥栖ローム層が露出した調査区北西部で多く確認し、上述したトレンチ底面でも少数ながら検出できた。調査区には近現代の住宅に関わる構築物や工事等により撹乱を受けている部分も多く、また、小穴状の落ち込みも確認されたが、輪郭が不明瞭で、底面に凹凸が多いため、これらは木の根であると考えられる。遺構の一部を図示したが、規模等は遺構一覧表を参照されたい（Fig. 4・Tab. 1）。これらの中には柱穴とみられるものもあるが、その並びから建物等を復元することはできなかった。遺構からは、８世紀前半頃の土師器坏・甕や須恵器坏・甕・壺片がわずかに出土した。トレンチによる黒褐色粘質土の遺物包含層の調査では、この包含層が西から東に向かって傾斜した斜面上に堆積する状況を確認し、８世紀代の土師器・須恵器片が出土した。

出土遺物

出土遺物の一部を Fig.5 に示した。１・２は、ＳＰ 10 出土。１は須恵器坏蓋で、天井部には極端に扁平なつまみが付く。つまみの径は 3.6㎝を測る。外面は回転ヘラケズリ、内面は丁寧にナデ調整される。２は土師器坏蓋で、全体に摩滅する。器形は扁平で、須恵器を模倣したものか。胎土には雲母・白色微砂粒が多く含まれる。３は、ＳＰ 15 出土の須恵器鉢か壺の底部か。高台が付くが、その大部分が欠損する。４・５・７は、それぞれトレンチ１、トレンチ２、トレンチ４出土の須恵器坏身底部で、低い高台が貼付される。胴部内面底部ナデ、胴部内面は回転ヨコナデ調整される。６は、トレンチ２出土の須恵器坏蓋で、つまみの有無は不明だが、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナデで、そのほかは回転ヨコナデ調整される。８は、移動式竈の基部と考えられる。底部は平坦にし、底部の内側に張り出すように粘土帯を貼り付け、断面三角形状に成形される。底部外面やや上には横方向のハケメが残る。９～ 11 は、検出面出土。９は須恵器壺か鉢の底部か。底面はヘラケズリ、内外面はナデ調整される。10 は同安窯系白磁碗の底部で、高台は露胎で、内面は施釉される。11 は近世陶器碗の底部で、高台畳付から高台内は露胎である。外面には灰釉が施され、灰白色を呈する。

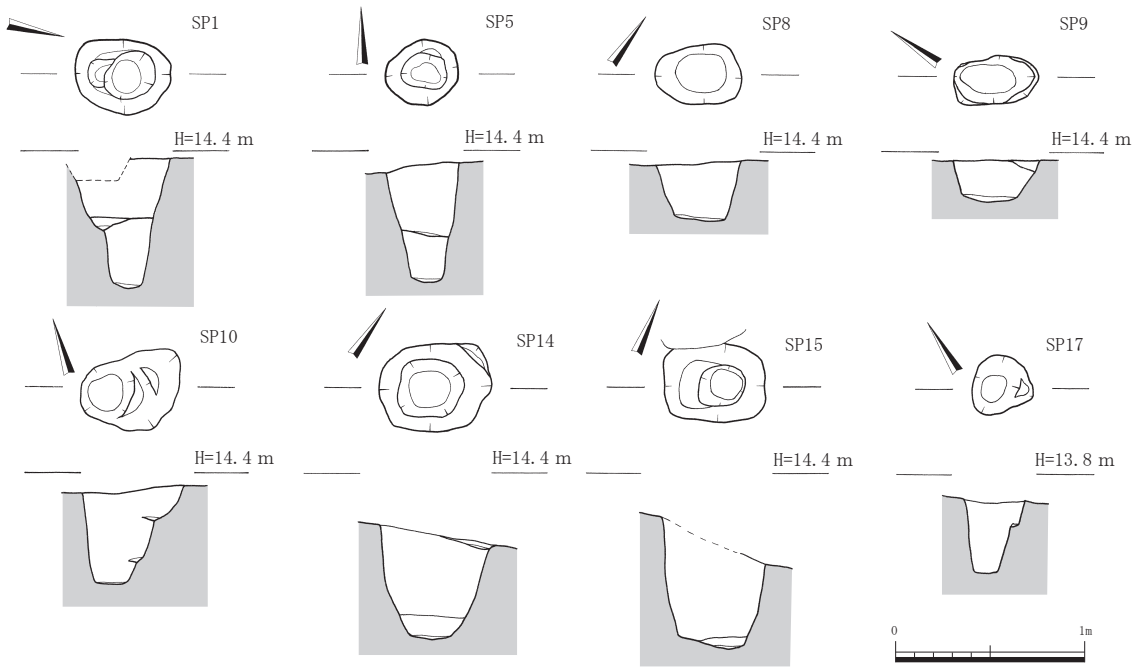



Fig.4　遺構実測図（1/40）

Tab.1　検出遺構一覧表

| 遺構番号 | 平面形 | 規模(m) | 出土遺物 |
|---|---|---|---|
| SP 1 | 楕円形 | 長軸:0.5<br>短軸:0.4<br>深さ:0.79 | 土師器甕片、土師器皿片、須恵器坏片 |
| SP 2 | 不整円形 | 径:0.25<br>深さ:0.15 | |
| SP 3 | 隅丸方形 | 長軸:0.25<br>短軸:0.2<br>深さ:0.4 | 土師器鉢口縁部片 |
| SP 4 | 円形 | 径:0.2<br>深さ:0.1 | |
| SP 5 | 不整円形 | 径:0.35～0.4<br>深さ:0.62 | |
| SP 6 | 不整円形 | 径:0.27～0.3<br>深さ:0.2 | |
| SP 7 | 不整円形 | 径:0.3～0.35<br>深さ:0.21～0.23 | |
| SP 8 | 楕円形 | 長軸:0.45<br>短軸:0.3<br>深さ:0.3 | 土師器皿口縁部片、土師器片 |
| SP 9 | 長楕円形 | 長軸:0.45<br>短軸:0.25<br>深さ:0.22 | 土師器皿片、須恵器坏蓋 |

| 遺構番号 | 平面形 | 規模(m) | 出土遺物 |
|---|---|---|---|
| SP10 | 不整楕円形 | 長軸:0.58<br>短軸:0.42<br>深さ:0.5 | 土師器坏蓋片、須恵器高台付坏片 |
| SP11 | 長楕円形 | 長軸:0.45<br>短軸:0.26<br>深さ:0.2 | |
| SP12 | | 径:0.25<br>深さ:0.2 | |
| SP13 | 楕円形か | 長軸:0.2<br>短軸:0.18<br>深さ:0.1 | |
| SP14 | 不整楕円形 | 長軸:0.6<br>短軸:0.45<br>深さ:0.6 | 土師器皿底部片 |
| SP15 | 隅丸長方形 | 長軸:0.52<br>短軸:0.42<br>深さ:0.68 | 土師器甕片(煤付着)、須恵器壺か鉢底部 |
| SP16 | 不整円形 | 径:0.3<br>深さ:0.16 | |
| SP17 | 不整円形 | 径:0.32<br>深さ:0.36 | 土師器片 |
| SP18 | 不整円形 | 径:0.35<br>深さ:0.27 | |

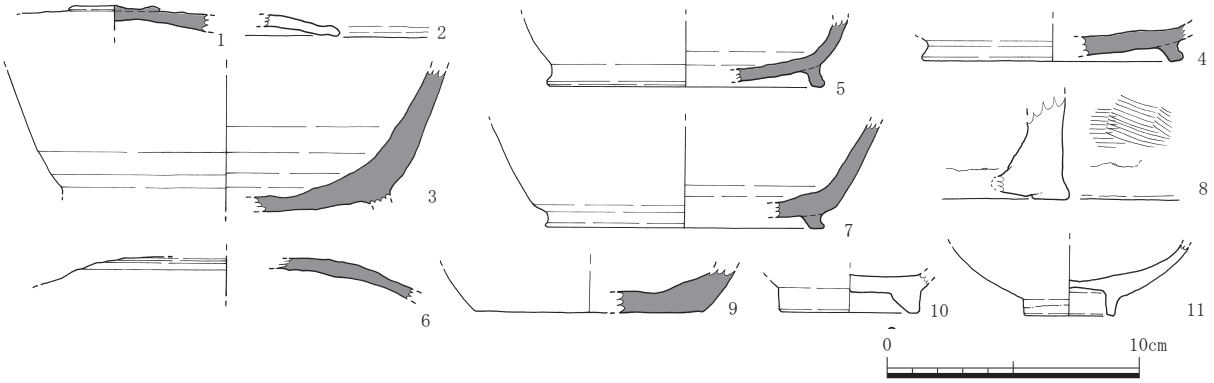



Fig.5　出土遺物実測図（1/3）

まとめ

調査では小穴 18 基を確認し、これらは出土遺物から概ね 8 世紀前半頃の遺構とみられる。調査範囲は狭いが、検出された遺構は疎らである。遺構の並びから掘立柱建物等を復元することはできなかった。遺構検出を行ったローム層の標高は、高いところで 14.3 m、低いところで 13.6 mを測り、調査地の地形は北西～西側から南東～東側に向かって緩やかに傾斜していることが分かる。黒褐色粘質土の遺物包含層もこの傾斜に沿って堆積していた。

この遺物包含層からは、少量の遺物が出土したが、古墳時代の古式土師器がわずかに含まれるものの、遺物の多くは、古代に位置付けられるものである。調査区の清掃および遺構の検出時には、中世～近世にかけての遺物も出土したが、量はわずかである。

周辺の地形や過去の調査等を合わせて考えると、調査地の東から南側は谷となっており、調査地は南西から北東方向にのびる細長い丘陵の先端部に近い、東側～南側斜面にあたるものと考えられる。調査によって確認できた遺構の拡がりや地形を考慮すると、集落域の範囲は調査地より北東から東側へは広がらない可能性が高いことが確認でき、現在は改変されてしまった旧地形の様相も窺い知ることができた。

写真１　調査区全景　東から

写真２　調査区全景　南東から

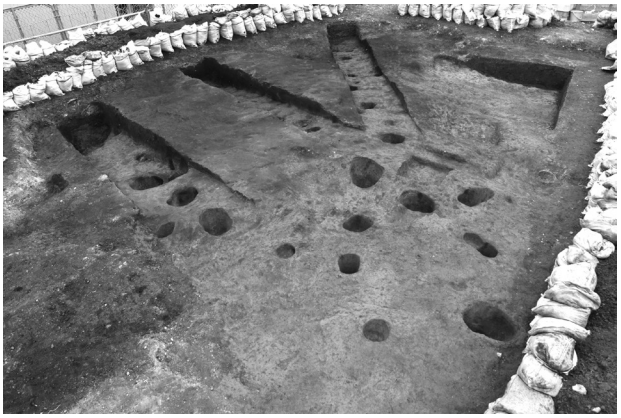


写真３　調査区全景　西から

写真４　遺構検出状況　北から

写真５　SP10 完掘状況　北から

写真６　SP14・SP15 検出状況　南西から

写真７　トレンチ１　北壁土層　南から

写真８　トレンチ１・２・４掘削状況　南から

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | ふくおかしまいぞうぶんかざいねんぽう |
| 書名 | 福岡市埋蔵文化財年報 |
| 副書名 | 令和２（2020）年度版 |
| 巻次 | 35 |
| シリーズ名 | |
| シリーズ番号 | |
| 編著者名 | 田上勇一郎 |
| 編集機関 | 福岡市教育委員会 |
| 所在地 | 福岡市中央区天神１丁目８－１ |
| 発行年月日 | 令和３（2022）年3月 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | | 調査面積<br>（㎡） | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | 調査開始 | 調査終了 | | |
| やながばるいせき<br>弥永原遺跡（2005 17次） | みなみくおさ<br>南区曰佐3丁目88番2 | 40134 | 0105 | 33°32'04" | 130°26'21" | 2020.4.9 | 2020.4.28 | 51.00 | 個人住宅建設 |
| なかむらまちいせき<br>中村町遺跡（2009 9次） | みなみくのま<br>南区野間3丁目179番の一部 | 40134 | 0167 | 33°33'34" | 130°24'52" | 2020.5.13 | 2020.5.28 | 90.65 | 個人住宅建設 |
| なかむらまちいせき<br>中村町遺跡（2010 10次） | みなみくのま<br>南区野間3丁目179番の一部 | 40134 | 0167 | 33°33'34" | 130°24'52" | 2020.6.1 | 2020.6.24 | 110.44 | 戸建住宅建設 |
| ありたいせきぐん<br>有田遺跡群（2014 271次） | さわらくありた<br>早良区有田2丁目11番2 | 40137 | 0309 | 33°33'47" | 130°20'10" | 2020.6.15 | 2020.7.9 | 148.29 | 戸建住宅建設 |
| なかいせきぐん<br>那珂遺跡群（2021 183次） | はかたくなか<br>博多区那珂1丁目392-2 | 40132 | 0085 | 33°34'14" | 130°26'14" | 2020.7.13 | 2020.8.4 | 41.32 | 共同住宅建設 |
| むぎのびーいせき<br>麦野Ｂ遺跡（2022 7次） | はかたくさんちく<br>博多区三筑2丁目11番2外 | 40132 | 0049 | 33°32'58" | 130°27'26" | 2020.7.20 | 2020.9.3 | 881.25 | 保育所建設 |
| さんのういせき<br>山王遺跡（2027 17次） | はかたくさんのう<br>博多区山王2丁目18-14 | 40132 | 2379 | 33°34'45" | 130°26'09" | 2020.9.14 | 2020.10.28 | 88.00 | 戸建住宅建設 |
| むぎのえーいせき<br>麦野Ａ遺跡（2041 31次） | はかたくむぎの<br>博多区麦野3丁目11-3、11-99 | 40132 | 0048 | 33°33'13" | 130°27'38" | 2021.1.18 | 2021.2.19 | 176.00 | 戸建住宅建設 |
| とりかいいせき<br>鳥飼遺跡（2047 1次） | ちゅうおうくいまがわ<br>中央区今川2丁目22番1 | 40133 | 2435 | 33°35'14" | 130°21'56" | 2020.7.14 | 2020.7.14 | 18.60 | 確認調査 |
| いそうだいーいせき<br>井相田Ｅ遺跡（1963 2次） | はかたくいそうだ<br>博多区井相田3丁目8-3 | 40132 | 2881 | 33°33'02" | 130°28'02" | 2020.3.5 | 2020.3.31 | 661.60 | 盛土 |
| いじりびーいせき<br>井尻Ｂ遺跡（1966 46次） | みなみくいじり<br>南区井尻5丁目177-1、177-2、177-7 | 40134 | 0090 | 33°33'02" | 130°26'31" | 2020.3.16 | 2020.4.13 | 150.00 | 共同住宅建設 |
| むぎのえーいせき<br>麦野Ａ遺跡（1969 33次） | はかたくむぎの<br>博多区麦野6丁目5番1 | 40132 | 0048 | 33°32'59" | 130°27'52" | 2020.3.23 | 2020.4.3 | 71.00 | 共同住宅建設 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 弥永原遺跡（2005 17次） | 集落跡 | 弥生～古墳 | 竪穴住居･ピット | 弥生土器･土師器 | |
| 中村町遺跡（2009 9次） | 集落跡 | 弥生～古代 | 溝･土坑･ピット | 弥生土器･土師器･須恵器 | |
| 中村町遺跡（2010 10次） | 集落跡 | 弥生～古代 | 溝･土坑･ピット | 弥生土器･土師器･須恵器 | |
| 有田遺跡群（2014 271次） | 集落跡 | 弥生時代 | 溝 | 弥生土器 | |
| 那珂遺跡群（2021 183次） | 集落跡 | 弥生～中世 | 土坑･溝･ピット | 弥生土器･土師器･須恵器･貿易陶磁器 | |
| 麦野Ｂ遺跡（2022 7次） | 集落跡 | 縄文時代 | 土坑･ピット | 黒曜石片 | |
| 山王遺跡（2027 17次） | 集落跡 | 弥生～中世 | 溝･土坑･ピット | 弥生土器･須恵器 | |
| 麦野Ａ遺跡（2041 31次） | 集落跡 | 古代～中世 | 溝･ピット | 土師器･須恵器･貿易陶磁器 | |
| 鳥飼遺跡（2047 1次） | 集落跡 | 弥生時代 | | 弥生土器 | |
| 井相田Ｅ遺跡（1963 2次） | 集落跡 | 古代～中世 | 溝 | 土師器･須恵器･貿易陶磁器 | |
| 井尻Ｂ遺跡（1966 46次） | 集落跡 | 弥生～中世 | 土坑･ピット | 弥生土器･貿易陶磁器 | |
| 麦野Ａ遺跡（1969 33次） | 集落跡 | 古代 | ピット | 土師器･須恵器 | |

福岡市埋蔵文化財年報
Vol.35
―令和２（2020）年度版―

発　行　日　令和４年３月24日
編集・発行　福岡市教育委員会
〒810-8621　福岡市中央区天神１丁目8-1

印　　刷　株式会社ソウヤマ印刷
〒812-0041　福岡市博多区吉塚４丁目３番18号

# THE ANNUAL REPORT
# OF
# THE BURIED CULTURAL OF FUKUOKA CITY
# VOLUME 35

THE BOARDS OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY

DECEMBER 2021

JAPAN